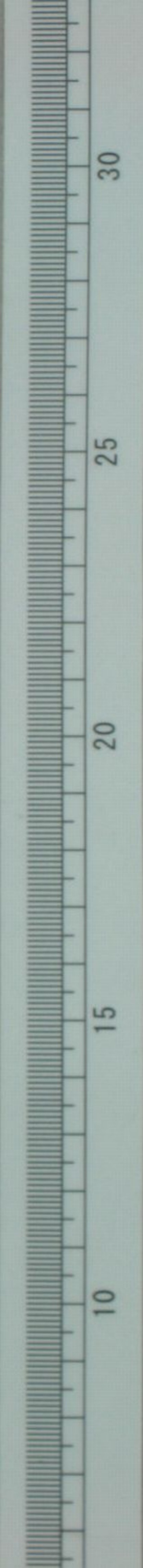


特別
イ 4
3152
41



14
3/52
41

95-131



余卒業にあり三年其申るの二年に於て應試論案として
作りたる論文凡そ七冊あり目左の如し

支那と七國家其發達

讀道遙遊

虛世僧

庚代の西教

韓國圖誌理批判概

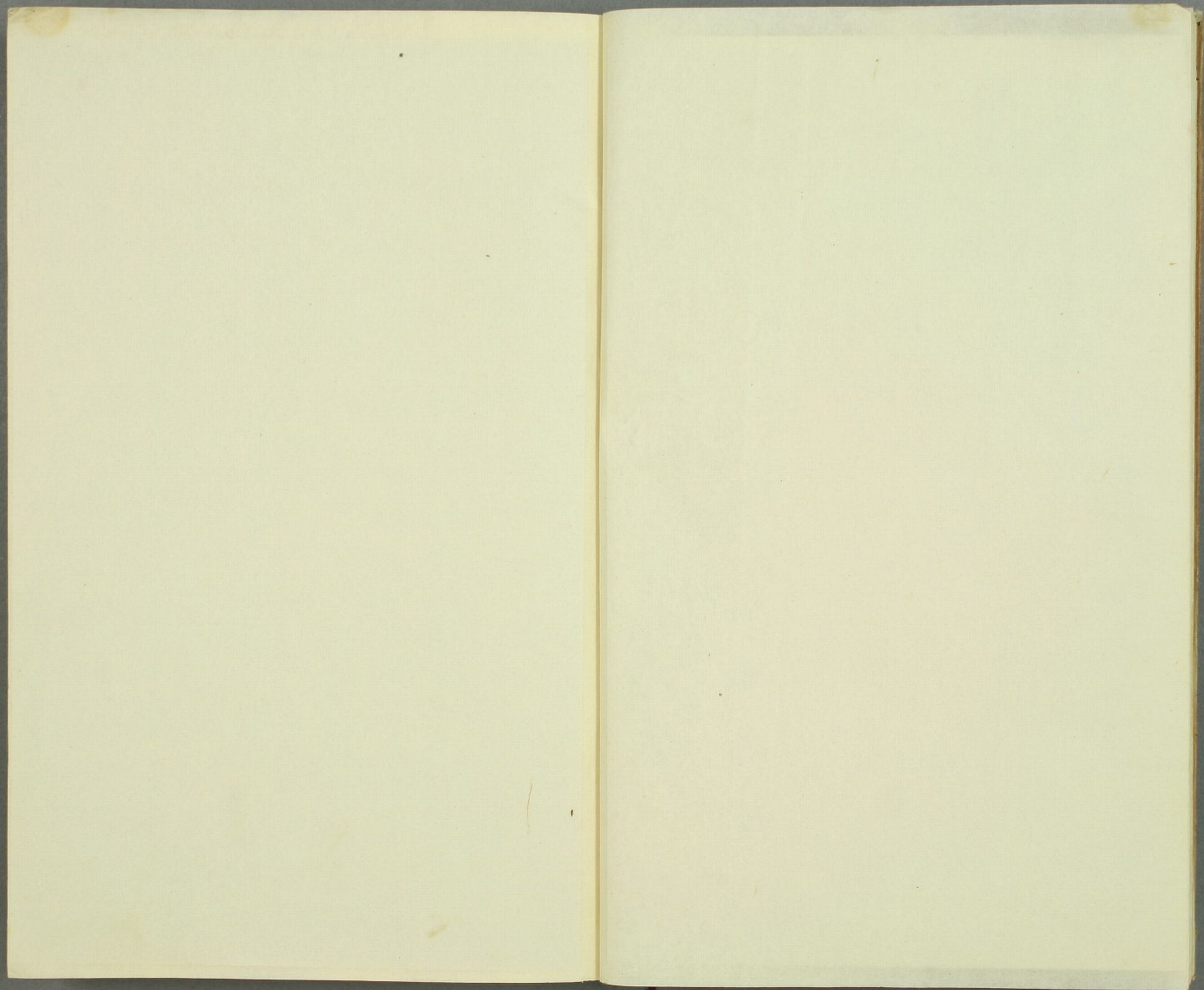
漢代詩歌論

易論

今世に底に存するものも我を蒐めて一石とあしめて散佚を
防ごしむ

漢學科二年
久保得二

漢代文學評論ノ中
漢代詩歌論



小序

應試論案トシテ漢代文學評論ヲ叙述セシムル余ガ宿志ニシテ其規畫ノ大略ハ次表ノ如キ者ナリキ。

漢代文學評論

一、漢初思想界ノ概况

獨立思想ノ缺亡、南方思潮ノ流溢、迷信的傾向、物質的生活

二、賈誼

小傳人物、政治上論議、新書ノ價值、辭賦并ニ南方思想トノ契合

三、淮南子

四、司馬相如

小傳人物、漢代辭賦、流行變遷、理想と美、其著作、其技工の手腕

四、司馬遷

小傳、史記ノ體裁材料、特色價值、筆致

(六) 儒教ノ表章トソノ思想上政治上ニ及ホセル影響ト

(七) 儒教表章以後ノ著作

陸賈、便以マシヨク董仲舒、韓嬰、劉向、揚雄、息迄等ノ著作

(八) 班固

(九) 漢末ノ著作

王充、王符、仲長統、荀悅、張衡、蔡邕等ノ著作及文賦

(十) 漢代ノ詩歌

蚊蚋山ヲ負フ、自ラ其力ヲ料ラズ、學窓日短クシテ之ヲ完成スルノ能ハズ、而シテ細心精緻ノ研鑽ニ出テザル者ハ高雅ノ一葉ヲ博スルニ足ラズ、篇末ノ一章先ツ成ルヲ以テ、淨書此卷ヲナス

古來詩經ノ重セラレタルハ、他ノ書、易ト並ビシガ故ノ一般ノ學者ハ、詩賦ニ對シテ頗ル冷淡ナリキ甚レキハ、彫蟲ノ小技ヲ以テ之ヲ目ス、莫ク知ラシ、詩賦ハ文學ノ最高最醇ノモノナルヲ國民時代思想ノ傾向スル所之ニ由テ窺フベシ、且ツ夫レ漢魏六朝隋唐ノ間ハ韻文盛行ノ時期ニシテ、唐詩ノ盛ニ其淵源遠ク漢魏ニアリ、其研究豈ニ其レ徒爾ナランヤ

目次

(一) 緒論。

- 漢代詩歌ノ存スルモノ尠クナリ、○ 依據ニキ選集ノ書、○ 論究ノ方法、○ 漢代詩歌ノ大特徴、

(二) 漢代詩歌ノ分類。

○ 總說

(其二) 古詩體。 (五七言ノ興起)

- 緒言、○ 其發展、蘇李贈答ノ作リヲ始メテ、○ 困學紀聞ノ說、○ 五言發生ノ理由、○ 五言、北詩南賦ノ折中ナリ、○ 文章流別ノ說、○ 後代ニ於ル五言詩ノ位置、○ 七言ノ發展、○ 七言猶未行ニテ、○ 結論、

其三、樂府體。(詩歌音樂關係變遷)

○三百篇の詩ニシテ樂府ナリ。○詩歌音樂ノ隔離。○秦代ノ樂。○風起ノ詩。○房中樂。○武帝ノ時樂府ノ制定。○樂府辭章ノ性質。○河間ノ獻王ト哀帝ノ樂府。○北詩南賦ノ混合體ナリ。○樂府中ノ分類。○樂府ト周詩音ノ關係。○樂章制定困難。○樂府ト古詩ト別。○其例。○樂府ノ全題名稱。○漢代樂府ノ存存人。○後世樂府ノ變遷。○詞曲ト關係。○結論。

三、漢代詩歌ノ價值及批評

○緒言。○大風ト拔山ト歌。○唐山夫人。○呂后ノ時ノ詩。○韋孟四言。○古詩十九首。○司馬相如。○蘇李贈答什。○卓文君ト班婕妤ト。○東漢ノ詩。○蔡文姬。○他ノ漢詩。○樂府中有名ナルモノ。○廬江小吏妻。○漢詩一般ノ特性。

四、漢代詩想ノ趨向

○三百篇ノ發揮セル美。○唐風山有樞ノ詩。○厭世思想ノ興起。○漢代ノ厭世ノ傾向。○厭世思想ト邦家汚隆ト。○厭世思想ノ發露セル詩歌ノ例。○後代ニ及セル影響。

漢代ノ詩ヲ論ズ

一、緒論

周代ノ歌謠存スルモノ三百餘篇收メテ一部詩經ノ中ニ在リ之ヲ研究スルヤ易キノミ漢代ノ詩ニ至リテ遂ニ之ヲ拾蒐完成シタル者アラザレバ此ノ如ク然ルヲ得ズ漢書藝文志ニハ成帝ノ時劉向が選録セシ所西漢ノ詩ノ數ヲ擧ケテ二十八家三百十四篇ト稱セリ固ヨリ辭賦ノ流行ニ壓倒セラレテカク尠少ナリトハイヘ一ハ五言詩體ノ新創後未ダ幾クモナラサル時期ヲ限リタルガ故ニシテ兩漢ヲ合セテ十バ頗ル夥多ナル者ア

リシナルベシ獨り惜ムベキハ散滅佚亡蓋シ一日ノ故
ニ非ズ荀綽ノ撰ビシ者亦夕傳ラズ千ニ其一ヲ留メ
今ニ傳フルモノ僅ニ百首内外ノミ誠ニ歎惋スルニ餘
アリト謂フベシ

今夫レ漢代詩歌ノ大略ヲ知ラント欲セバ果シテ何ノ
書ニカ依據スベキ曰ク止々昭明太子ノ文選ト徐陵ノ
玉臺新詠トノ西書アルノミ其他同種ノモノ例セバ馮
惟敬ノ漢詩紀ノ如キ書モナキニ非ザレドモ皆是レ李
唐以後ノ士カ斷簡零篇ヲ搜索シ纂述シタルニ過キガ
レバ玉石混淆シ之ニ由テ真正ノ古色古味ヲ領略スル
一能ハズ而シテ上記ノ西書ハ共ニ梁代ノ編撰ニ出テ

、古ヲ去ル一遠カラザルノ寶典ナレバタトヒ取捨去
就ノ點ニ關シテ後人ノ誦譏ヲ免レザルモノ有ルニモ
セヨ之ヲ棄テ、他ニ適從スベキ者ヲ見ガレバナリコ
ノ餘鍾嶸ノ詩品劉勰ノ文心雕龍ノ如キ文學的製作ノ
評騭ヲ以テ主トスル者ナレドモソノ緒論ヲ取テ前二
書ニ選出セシモノト參觀シ靜細ニ攷察ヲ下セバ略ホ
流派ヲ分ク淵源ヲ尋ムルヲ得テ瞭然掌ヲ指スニ庶幾
カラシク也ニハ西漢書ヲ始メ漢代ニ成リシ雜書中ニ散
見スルモノヲ集メ後世編撰ノ書ニ就テモ眞贋ヲ判シ
テ後ニ資セバ觀ル所愈博ク論スル所愈精トナルベシ
而シテ今專ラ據ラントスル四種ノ書ハ兼テ魏晉ノ詩

ノ研究ニモ必須歟ク可カラザルモノナル一留意スベキナリ

上代三百篇ノ詩ハ意ヲ造レリ漢代ノ詩モ亦然リ而シテ未ダ詞ヲ作りシ者アラズ故ニ多クハ流離患難ノ餘ニ出テ、鍾記室ノ所謂種々心霊ヲ感蕩スルモノ詩ヲ陳ベテ其義ヲ展ベ歌ヲ長クシテ其情ヲ騁スル者ナリ辭賦ハ既ニ貴族的文學トシテ大ニ行ハレ技工ノ精緻ヲ事トシ賦家トシテ標置シ尊崇サレシ者アリシモ漢代ノ五言古詩ハ新體詩トシテ將タ平民的文學トシテ相對峙スルニ至ラズ名家ノ大手腕ヲ以テ專心ニ此ニ從事スル者アラズ要スルニ十ホ幼稚ノ状態ニ在リ之

ヲ作ルモノ必ズシモ之ヲ業トセズ後世ノ所謂詩人ナルモノアラザリシナリ三百篇中作者ノ名知ルヤキモノ僅ニ二三ナル程ニハ非ザレドモ無名氏亦頗ル多シ名アル者モ作ル所ニ三首ニ止リ多キモ十首ニ出テ又或ハ文ニ長シ或ハ賦ヲ能クシ緒餘偶々之ニ及ビシモノ多シ故ニ少数ナル詩ノミヲ取リテ其人ノ思想趨向ヲ論スル一難ク又タカ、ル必要ナキナリ故ニ三百篇ヲ周詩トイフト同シク單ニ之ヲ漢詩ト呼ビ漢人トシテ之ヲ論シ漢代ヲ通シタル一般的思想ヲ發露開展スル一最モ簡便ニシテ且ツ至當ナル方法ト云フベキナリ

北方上古ノ歌謡タル三百篇ハ實ニ支那詩歌ノ發展ニシテ風雅頌ノ遺音ハ隱然トシテ漢代ニモ存セリ而シテ南方楚賦ノ體形ハ大ニ流行シ發達シヨ、ニ兩方詩體ノ中ヲ得テ普遍的ナル五言ノ新體ヲ生セリ而シテ一方ニテハ詩歌ハ音樂トノ關係ヲ離レ樂章ハ別ニ制定サレタリ又々社會的事情ノ複雑トナルニ從ヒ詩想ノ趨向スルトヨロ大ニ前代ト同シカラザルモノアリ檢束的制規モ自ラ弛解シテ詩境ハ漸ク闊肆トナリ又コレ漢代詩歌ノ三大特徴ナリ固ヨリ後代ニ大影響アルモノ其之ヲ研究スル輕忽ナルベケンヤ

二 漢代詩歌ノ分類

漢代詩ノ盛ナルハ武帝以後ニアリ當時内治外攻殆クド成功シ太平榮華ノ中漸ク文運ノ隆盛ヲ見ルニ至リ之ヲ謳歌スルモノ辭賦ノ外ニ新聲興レリ五言古詩體是レナリ而シテ上ニ於テハ宗廟郊祀ノ樂章ノ制定アリ樂府體是レナリ後者ハ專ラ音律ト關係スルモノニシテ前者ハタゞ吟誦ノ用ニ供スルノミカクノ如クシテ漢代詩歌ノ通常ノ分類ハ古詩體樂府體ノ兩者ナレドモ是ハ形式上ノ分類ニアラズシテ用途上ノ分類ナルヲ知ラザルベカラズ

一 古詩體 (五七言詩ノ興起)

漢代詩歌ノ音律ト相離レタルハ樂府ノ章下ニ於テ
論シコ、ニハ吟誦ノ用ニ供セラレタル五言新體ノ成
立ニ付テ究ムル所アラントス

五言ハ漢代普通詩歌ノ定格ナリ蓋シ詩經ノ三百篇ヲ
見ルニ五言ノ如キモノ間コレナキニ非ザレドモ之ヲ
槩觀スルニ周詩ノ正體トモ稱スベキハ全ク四言ニア
リシガ如シ漢初ニ於テモ其聲音ヲ摸スルモノアリタ
レドモ一夕ビ五言ノ新體開クニ及ヒテ四言ノ作ハ漸
ク少ク當時ノ正體ハ五言ニ在ル如キノ觀ヲ呈シタ
リキ

五言ハ李陵蘇武ガ河梁贈別ニ始マルトイフ一一般ノ
通説ナレドモ是ハ未必ノ言ナリ文選中有名ナル古詩
十九首ハ風餘詩母ノ名稱アリテ其體裁復ニ蘇李ノ上
ニ出ツル者ナリ其作者ノ名ハ固ヨリ逸シテ傳ハラズ
蓋シ時代ノ前後ヲ擇バズ一所ニ匯收セシニ似タリ玉
臺新詠ニハ十九首中ノ八篇行行重行行、青青河畔草、西
北有高楼、涉江采芙蓉、庭中有奇樹、迢迢牽牛星、東城高且
長、明月何皎皎ト他ニ蘭若生春陽ノ一首トヲ以テ枚叅
ノ作トナセリ枚叅ハ武帝ノ初ノ人ニシテ蘇李ト殆シ
ド同時代ナレドモ武帝在世ノ時ハ蘇武正ニ胡中ニ虜
トシテ在リ其ノ歸朝セシハ昭帝ノ代ニ在リ故ニ若シ

カノ唱和ヲ以テ果シテ蘇武歸朝ノ際李陵ト別ラ情ヲ
テ贈答セシモノトスレバ武帝ノ世ニ後ル、一二十餘
年枚乘早ク已ニ卒シタリ然ラバ枚乘ノ作ル所ノ九首
ハ蘇李贈答ノ前ニアル一辨ヲ俟ラズ況ンヤ蘇李ノ什
ノ後人ノ擬作ニ非ラザルヤノ嫌ヒタルニ於テヤ之
ヲ以テ五言ノ權輿トナスハ非ナリ然レドモ又々枚乘
ガ創作セシモノトハ斷言シ難シ、タゞ武帝ノ頃ニ叙マ
リシトスレバ足ラシク之
五言ノ創始ヲ以テ猶ホ一層早キ時代ニ在リトナスモ
ノアリ項羽ガ垓下ニ圍マレテ悲歌慨、拔山ノ歌ヲ作
リシ時、虞姬ガ和セシト稱セラル、詩アリ

漢兵已略地、四方楚歌聲、大王意氣盡、賤妾何聊生、

困學紀聞ニ曰ク太史公述楚漢春秋、共不載於書者、正義
云、項羽歌美人和之、是時已爲五言矣、ト楚漢春秋ノ佚亡
セシト久シ而シテ張守節獨リ其中ニ在リシトレテ記
スルハ頗ル怪シムベシ又タコノ詩ヲ細玩スルニ聲調
後世ノモノニ似タリ儻シクハ是レ唐人詠史ノ吟、誤テ
傳フルニ非ザルカ之ヲ以テ五言ノ祖トナスニ至リテ固
ヨリ取ルニ足ラザルナリ
今五言新體ノ起リシ所以ヲ考ヘンニ人ノ思想ハ古今
同シカラザルモノアリ漸々複雑ナラントシ加フルニ
語言ハ時ニ因テ變シ人心ハ又々奇ヲ逐フテ移ル之ヲ

ニ加フルニ數理上ヨリ觀ルモ字數少キ句ハ錯列ノ數
自ラ多カラズ四言ハ簡質ニ過キ調未ダ舒ビズ故ニ一
字ヲ増シテ語意ヲ流暢ニスルニ便セシモノ一言以テ
之ヲ掩ヘバ時勢ノ進歩テテ語以テ之ヲ説明スルヲ得
ンノミ

時勢ノ進歩以テ盡スト雖モコ、ニ五言詩體ト南北西
方ノ古體トノ關係ヲ探ルニ必要ナリ北方上古ノ歌謡
ハ概シ四言ヲ以テ定格トスレバ五言ノ句モ少ナカラ
ズ詩經ニ收メザル逸詩中ニハ全ク整然タル五言ノモ
ノモアリ南方楚賦ノ句ハ名詞多クシテ勸詞少ナク緊
密ナリソノ五字以上ノ句ハ号ノ字ヲ除ケバ五言七言

トナルベキモノ多シ換言スレバ五言ハ南北西方詩體
ノ中ヲ得タルモノニシテ普遍的性質アリ周ニ於テモ
發成セントスルノ兆候アリキ而シテ漢代ニ於テハ辭
賦ハヤ、其體裁ヲ改メテ貴族的文學トナリタレバ之
ト對峙シテソノ確立ヲ見ルニイタリ又

支那詩歌ノ體形ヲ見ルニ三言ヨリ九言ニイタル、而シ
テ其源ヲ尋テテ皆詩經中ニアリトスルモノハ聲虞ノ
文章流別ニ始マル曰ク詩之流也、有三言四言五言六言
七言九言、率以四言爲體、而時一句二句、雜在四言之間、後
世演之、遂以爲篇、三言者、振振鷺鷺、千飛之屬是也、五言者、
誰謂雀無角、之屬是也、六言者、我姑酌彼金罍、之屬是也、七

言者、文交黃鳥止于桑之屬是也、九言者、河酌彼行潦挹彼
注茲之屬是也、ト文體明辨亦夕曰ク五言ノ源南風ニ出
テ五子之歌ニ衍シ三百五篇ニ流レ離騷ニ廣マル特ニ
其體未ダ備ハラザルノ之ト一句ニ句ノ偶雜ルヲ以テ
其源トナスハ或ハ可ナリ然レドモ其發生確立ノ順序
階段ヲ説明スルト能ハズ甚ダ謂レナキトイフベキ
也

嘗テ試ニ之ヲ論ク詩歌ハ時代ノ遷移ニ從ヒ或部分ハ
進歩シ或部分ハ退歩ス即チ抽象的概念、富ニ具體的
想像ニ滿ケタル簡古淨鍊ノ趣ハ漸次ニ消亡シ分析的
觀察ト技工的措辭トヲ得テ成レル細緻巧麗ノ局面ハ

漸々ニ發達スル也蓋シ詩歌ノ本領ハ其語音ノ足ラン
ヨリモ寧ロ言外ノ餘韻ニ存スルガ故ニ簡質ナルモノ
却テ意ニ富ニ言句滿ツルニ及ヒテハ諷詠深遠ノ旨漸
ク微ナルニ至ルハ亦夕自然ノ勢ナリ故ニ李太白ハ曰
ク興寄深微ナルハ五言ヤ遂ニ四言ニ及ハズト豪傑閔
世ノ語豈ニ言ヲ河漢ニスルモノナラレヤ然レドモ之
ヲ七言ニ比スルニ猶ホ簡古ナリ故ニ四言七言繁簡ノ
衷ヲ折シ文質ノ要ニ居ルハ五言ヨリ尚キハ莫シ漢世
一タビ之ヲ創制セシヨリ魏晉以下ノ文人藝士ガ平生
ノ精力ハ咸ナ斯ノ一格ニ萃マリ唐宋ヲ經テ今日ニ至
ルモ未ダ曾テ廢弛セシエトアラズ四言ヤ既ニ廢セリ

而シテ支那詩歌ハ五七言ノ兩體ノ外ニ完全ナル詩體
ノ起ラザル理因モアリ故ニ漢人が五言ヲ定メテ正格
トナシ又タ七言ヲ創メシハ斯道ノ爲ニ萬古不磨ノ法
ヲ制定セシモノトイフベシ
カクノ如クシテハ五言ノ新體詩ハ叙造セラレタリサ
ナキニダニ奇ク好ク新ク喜ブガ人情ノ常ナレバ唯コ
レノミニニテ満足スルヲ得ズ武帝ノ元封三年ニハ有名
ナル栢梁臺ノ聯句アリ是レハ七言古詩ノ權輿ニシテ
兼テ後世聯句ノ祖タル者ナリ竊戚カ牛角ヲタキテ
歌ヒシ者純然タル七言ノ體形ナリセドモコレハ確ナ
ラズ大風懷下ノ兩歌ノ如キハ七言類似ノ作ナリト雖
モ其風神ヲ案スレバ全ク楚風ノ變體ニシテ離騷ノ片
言隻句ニ外ナラズ皆以テ七言ノ開始トナスヲ得ザル
ナリ而シテ七言ハ五言創定ノ後之ニ由テ出テシモノ
ト雖モ一方ニ於テハ其淵源ヲ居然トシテ楚風ノ中ニ
有スルヲ忘ルベカラズ
五七言ノ兩體既ニ叙マリタレドモ漢代詩歌ノ本領ハ
ナホ五言ニ在シ武ヲ用ユル地ヒロクシテ盡キズ七言
ハ唐ニ至ルマデ未ダ十分ノ發達ヲ爲サザリキ是レ氣
運ノ未ダ熟サ、ゾレガ故ナリ
スデニ詩形ノ新創ヲ論シタレバ次ニハ詩歌ト音律ト
ノ關係ノ變遷ニ就テ考察スル所ヲラントス

二、樂府體（詩歌ト音律トノ關係ノ變遷）

北方ノ歌謡詩經ニ收ムル所、皆以テ管絃ニ被ラシムルヲ得ベクカノ三百篇ヤ實ニ上代ノ詩ニシテ兼テ上代ノ樂府タルナリコ、ニ所謂樂府ハ始メテ漢代ニ起リシ名稱ナレドモ樂章ト同義ナル故用ヒシモノナルヲ知ラガルベカラズ蓋シ上古ニ在リテ詩歌ノ音樂ト相直ルノ極メテ親密ナルハ東西皆然ルニトニシテ獨リ支那ノミニ限ラザレドモ而カモ三百篇ノスベラガカクモ音律ニ協合スルハ周時ノ采詩官タルモノソノ諷諭ノ本意ヲ檢定セシノミナラズ兼テ節調ニモ注意シタルナリアリテノ故ナランカ頌ノ如キ特製ノモノハ固ヨリ然リ更ニ之ヲ遠古ニ見ルニ鈞天九奏、葛天八闋、ナドノ名目アリ其由ルヤ尚シ咸池以降ハ世々作者アリ周人兼テ之ヲ用ヒ又而シテ其辭章ノ傳ハラサル所以ノモノ或ハ早クヨリ佚亡セシカ或ハ始メヨリ曲譜ノミナリシカ兩者ソノ一ヲ出テズ

上古北方ノ詩ハカクノ如クシテ皆音樂ニ施スベク單ニ口誦スルモノニ非ザリキ而シテソノ之ヲ口誦セシハ春秋ノ時ニ叙リ呼テ詩ヲ賦ストイヒ又諸侯ノ會同宴見等ノ際ニ於テ古詩中ノ二三句ヲ誦シ現在ノ場合ニ適合セシメ自己ノ意ヲ婉曲ニ諷ス如キ是レ其例左傳ニ多シ是ニ於テカ詩歌ハ漸ク音樂ト隔離セントス

ル傾向ヲ生シ將ニ自由ナル發達ヲ爲サントシ歌誦セ
ザル韻文ノ一體モ起リ又南方ノ辭賦ハ地理的影響ヲ
受テラ根本的ニ北方ノ詩ト體裁ヲ異ニスレドモ實ハ
之ノ趨勢ニ乘シタルモノ、屈宋ノ作ル所ハ譜スベキモ
ノトキニ非ザレドモ概ニ覽ルヲ主トシタルナリ故ニ
胡應麟カ論スル所三百篇、薦宗廟被絃歌、詩即樂府、樂府
即詩、猶寓兵於農、未曾ニ也、詩七樂廢、屈宋代興、九歌等篇
以侑樂、九章等作以抒情、途轍漸北、トハ誠ニ肯綮ニ中リ
シ言ナリ

王風一タビ蔓草ニ委シ春秋戰國ノ間詩樂ノ制作全ク
絶エ秦が古制ヲ敗壞スルニ及ニハ樂亡ヒ譜失シ呂律

其調ヲ得ズ僅ニ壽人ノ樂ト五行ノ舞トアリ大率周制
ニ準シテ之ヲ爲ス漢ノ始メテ興ルヤ魯人制氏世々大
樂官ニアリタバ能ク其鏗鎗鼓舞ヲ記セントイフ然ラ
バ古樂ハ僅ニ一縷ノ命脈ヲ繫キ得テ曲譜ノ幾分カヲ
剩レ傳ヘタルノミ
高祖ノ時叔孫通秦ノ樂人ニ因リテ宗廟ノ樂ヲ制定セ
リ樂章ノ有無ハ今判知スベカラズ十二年帝が英布ヲ
討ケ還テ沛ヲ過クルヤ風起ノ詩アリ童兒ヲシテ之ヲ
歌ハシメ名ケテ三侯ノ章トイフ是レ漢代ニ於ケル樂
布ノ發展ナリ
時ニ後宮ニ唐山夫人トイフモノアリ帝ノ命ヲ受ケ房

中歌十七章ヲ作ル房中樂ノ名目ハ周代ニモアリ秦ニ
在テハ壽人トイフ皆以テ后妃ノ徳ヲ歌フ而シテ夫人
ノ作リシ所ハ婦人房中ニ轉祠スルモノ名同ウシテ之
ヲ用フルヤ異リ當時未ダ之ヲ律ニ譜セズ惠帝ノ二
年ニ及ビ夏侯寛ヲ以テ樂府令トナシソノ音律ヲ調ヘ
ソノ簫管ヲ備ヘシメ改メテ名ヲ安世樂ト命セリ是ニ
於テカ樂府ノ目ハ姑メテ官名トシテ見ユ文景ノ間ハ
舊ニ肄シテ増改スル所ナカリキ
武帝ノ時内治外攻殆ンド成功シ世ハ物質的饒富ヲ極
メ文運徒テ隆盛ナラントシ謳歌ノ聲ニ滿ツ時ニ郊祀
ノ禮ヲ起シシエトアリコ、ニ樂章ヲ定ムルノ必要ヲ

生シタリ乃々マタ樂府ヲ立テ當時ノ音樂家タル李延
年ヲ以テ協律都尉トナシ趙代ノ音ヲ總ベ齊楚ノ氣ヲ
撮リヒロク天下ノ詩ヲ采テ夜誦セシメ同時ニ著名ノ
文士タル司馬相如等數十人ヲ擧テ新ニ歌詩ヲ作篇シ
略ボ律呂ヲ論シ以テ八音ノ調ニ合セシメキ、コノ時ヨ
リシテ樂府ノ名ハ今用フル如キ意義トナレリ而シテ
當時コノ樂府ヲ官省ニテ取扱ヒシ事項ニ二様ノ異
リタルモノアルコト最モ留意スベキナリ一ハ詩ヲ採
テ律ニ入レ一ハ聲ニ依テ詞ヲ製ス前者ハ李延年ノ專
任セシ所ナルベク五言古詩ハスデニ平民文學トシテ
發生シタリト思ル、トキノ一ナレバナルベシ、カクシ

ヲ制定セシ樂府ノ今ニ存スルモ多シ後者ハ相如等ノ
擔當ニシテ郊祀歌十九章ハ實ニ其手ニ出ラタリ十九
章中青陽朱明西皞玄明ノ四章題下ニ鄒子樂卜署スル
ハ作者ノ名ナルベク惟秦一天地ハ巨術ノ作ナルト明
ニシテ他ノ十三章ハ相如一人ノ製作ナルベシトイフ
歌已ニ成ル正月上辛ヲ以テ事ヲ甘泉園丘ニ用ヒ童男
女七十人ヲシテ俱ニ歌ハシメ昏ニ祠テ明ニ至ル漢代
ノ樂府ハ概テ此時ニ於テ制定サレタリソノ發達完成
ハ略ホ此ノ如シ
翻テ今樂府ノ辭章ヲ觀シニ風起ノ詩ノ如キハ純然夕
ル楚辭ノ斷句之ヲ歌フガ故ニ少シク異ナルアルノミ

韻脚多ク散漫ナラズ句々ノ字數參差タラズ且ツ全體
ニ於テ頗ル簡約ナリ之ヲ屈宋一流辭賦中ノ亂或ハ重
或ハ反ト稱スル結尾ノ約言ニ比スレバ固ヨリ甚シキ
逕庭アルヲ見ズ形式猶ホ且ツ然リ聲調ノ如キハ又タ
言ハズ安世郊祀ニ至リテハ全ク詩ノ雅頌ト趣ヲ同ク
シ一句大抵四字ヲ以テ成リ其間ニ混入セル三字五字
七字ノ句亦タ少カラズ形式ハ三代ノ詩ニ比シテ多ク
異ルヲ見ズソノ内容タル想ハ劉安世ガ房中樂十七章
觀其詞格韻高嚴規模簡古駸駸乎商周之頌噫異哉トイ
ヒ楊慎ガ唐山夫人房中歌直可以繼關雎不當以章句摘
トイフアリ陳繹曾ハ安世ヲ質古文雅トイヒ郊祀ヲ煇

思刻酷トイヒ王世貞ガ之ヲ教張シテ信哉然失之太峻
有秦風小戎之遺、非頌詩也、唐山夫人雅頌之流、調短弱未
舒耳、トイフニ至リテハ全ク北方的モシクハ西方的ナ
ルガ如シト雖モ、モト體裁ガ雅頌タルガ上ニ漢祖ガ匹
夫ヨリ起リテ殷周ガ古聖人ノ後ト稱スルモノトハ國
家成立ノ性質ヲ異ニスルヨリ來リ一般ノ風俗人情ガ
豪奢雄健ノ所アルヨリ出テシ者ニシテ言辭ニ富ムト
思想ニ饒ナルトノ二點ニ於テハ全ク類似セズ又々漢
書禮樂志ニ凡樂樂其所生、禮不忘本、高祖樂楚聲、故房中
樂樂楚聲トアルヲ見レバ、安世樂タルモノ他ノ諸點ハ
兔ニ角聲調ニ於テハ實ニ南方ノ楚聲ナリ郊祀歌ハモ

ト蜀人ニシテ漢代第一ノ賦家タル司馬相如輩ノ作ル
所ナレバ猶更ノコトニシテ殊ニ桂華雜曲、麗而不經、赤
厲群篇、靡而不典、トノ評語モアルナリ之ヲ要スルニ此
等ハ南方楚辭ノ音ヲ以テ北方雅頌ノ體ヲ學ビシモノ
ト謂ハザルベカラズ
更ニ一事實ノ之ヲ確證スル者アリ郊祀歌ノ成リシト
同時ニ河間獻王、幽隱ヲ聘求シ雅樂ヲ修セシトアリ
北方ノ儒家タル公孫弘、董仲舒等ハ皆以テ正雅ニ中レ
リトナシ奏シテ大樂ニ立テ春秋鄉射學官ニ作セリ然
レトモ希濶ニシテ備ハラズ聽ク者其意ヲ得ズ後遂ニ
用ヒラレザリキトカ蓋シ世運ノ進歩スルニ從ヒスベ

テノ美術的趣味ニ於テハ北方的ナルヨリモ南方的ノ
者ノ最モ能ク協合スベキヲ悟覺シ且ツ之ヲ喜ブニ至
リタレバナルベシ後ニ哀帝ガ相如等ノ作リタル郊祀
歌ノ聲ヲ惡シテ之ヲ廢シタルコトアレドモ偶々一個
人トシテ好惡ノ念ノ異ルヨリ起リシコトノ固ヨリ
以テ一般ニ推及スベカラズ

サレバ余輩ハコトニ漢代ノ樂章ニ於テ南方ノ聲調ト
其文字ノ影響トノ存在ヲ否定スル能ハズ蓋シ之ヲ否
定スル能ハサルノコトラス頗ル彰明顯著ナルモノア
ルヲ認ムルナリ後ニハ全クソノ思想ニ及ブマデ南方
辭賦ノ感染ヲ蒙リ又故ニ漢代特製ノ樂府ハ古詩三百

ノ餘波トイハシヨリモ屈原九歌ノ五派トイフベク一
言以テ之ヲ掩フトキ外ハ北方的形式ニシテ内ハ南方
的聲調ヲ含ミ正ニ兩方ヲ混合シタル者トスベシ
東漢ノ明帝ノ時樂ヲ分テ四品トセリ一ツ大予樂トイ
ヒ郊廟上陵ニ用ヒ二ツ雅頌樂トイヒ辟雍鄉射ニ用ヒ
三ツ黃門鼓吹樂トイヒ天子群臣ヲ宴スルニ用ヒ四ツ
短簫鏡歌トイヒ軍中ニ用フ當時種類未ダ甚ダ多カラ
ズ後ニハ漸々増加セリ宋ノ郭茂倩ハ最モ深ク樂府ヲ
研究シタル人ニシテ樂府集ノ著アリ類別シテ十種ト
ナスソノ郊廟歌辭、燕射歌辭、鼓吹曲辭、橫吹曲辭トイフ
ハ略ホ前記分類四者ノ樂章ヲ包括スルモノノ如ク漢

代ニアリテハ皆聲ニ倚テ詞ヲ製セシ者ナリ他ニハ相
和歌辭、清商曲辭、舞曲歌辭、琴曲歌辭、雜曲歌辭、雜歌、謠、辭
アリ概テ詩ヲ采テ律ニ入レシ者ナリ之レニ加フルニ
隋唐間ノ製作ニ係ル近代曲辭、新樂府辭ヲ以テスレバ
樂府ハ實ニ十二種ノ多キニ至ル

沈德潛ハ漢代樂府ト周詩三百トノ關係ヲ説テ安世樂
ヲハシメ其遺音タル清調平調瑟調ハ南ト風トノ變ニ
シテ鼓吹橫吹ハ雅ノ變トナスベク郊祀歌十九章ハ即
チ頌ノ變ナリト謂ヒヌコハ甚シク重要ナルトニ非ザ
レドモ便々以テ併セテコトニ注スルナリ
今コトニ樂章ノ制定ニ就テ著大ナル困難ノ存スルコ

トアリ實ニ音調ノ低昂ハ始メテ節奏ヲ生ス而シテ修
辭上ノ藻葩ト音樂上ノ節奏トハ根本的ニ關係ナクシ
テ調和容易ナラズ徐師曾曰ク嗚呼樂歌之難甚矣工於
辭者調未必協、諳於律者辭未必嘉、善乎劉勰之論曰、詩爲
樂心、聲爲樂體、樂體有聲、師務調其聲、樂心在詩、君子宜正
其文、安得律辭兼得者而使之作樂哉、ト東西古今ノ樂章
皆此ノ如シ何ノ獨リ支那歷代ノ宗廟郊祀ノ樂府觀ル
ベキモノ少キヲ咎メシタバ余輩ノ見ルトニ口漢代ノ
樂府ニ於テハ比較的ニ多ク辭章ノ取ルベキモノアル
ナリ夫レカクノ如クシテ聲ニ倚テ詞ヲ製スルヤ檢束
ナキ能ハズ而カモ聲音促節、神理ノ完キヲ主トスレバ

整正タル詩體必ズシモ適合セズ漢代樂府中詩經楚辭
ノソレヨリモ尚ホ一層自在ナル一種長短雜言ノ體形
ニ依リシモノアルハ即チ此故ナリトス而シテ詩ヲ采
テ律ニ入レシモノハ多少ノ改削ヲ經シユトアルハ五
言古詩ハ常ニ五言古詩トシテ存セリ是ニ於テカ古詩
トイヒ樂府トイフハ形式上ノ分科ニ非ズシテ其發生
ト用途ヲ異ニスルヨリ命名シ古來襲用セシモノナル
ヲ知ルベシ
サワレ樂府固ヨリ詩歌ノ範圍外ニ在ラズ然レトモ五
言ノ古詩トハ判レテ鴻溝ノ如シ其差異ハ一目瞭然リ
ル如キモノニハ非ザレドモ辭章ノ上ニ於テセズ其音

節上ニ神解シテ領悉スベキノミ劉勰ガ大辨ノ所謂詩
言志歌永言聲依永律和聲ノ十二字ヲ分析シ前六字ヲ
以テ詩ノ注脚トシ後六字ヲ以テ樂府ノ解釋トナセシ
ハ頗ル適切ナリ又チ或人が古詩ハ目ヲ主トシ樂府ハ
耳ヲ主トス古詩ハ小説ニ似テ樂府ハ淨瑠璃ノ如ク神
妙ノ優ハ毫釐ヲ差セス體裁ハ復ニ異ナリトイヘルモ
好シ且ツコノ頃ノ詩ハ專ラ自己ノ境遇ニ依リ感情ヲ
文字ニ表現シ悶ヲ排シ愁ヲ遣ルニ止レドモ樂府ハ多
ク自己ヲ沒了シ眼前萬種ノ事實ヲソノマニ詠出シ
聽者ヲ感發スルヲ主トス古詩ハ文字ノ雅順ヲ尚ベト
モ樂府ハ詞ノ雅俗ヲ擇マズ故ニ樂府ニ見ルベキハ一

種天真爛漫ノ趣味疎野撲質ノ辭章中ニ溢生シ盎然ト
シテ掬スベキニ在ルナリ

有名ナル古詩十九首中賈ハ樂府ニシテ昭明太子ノ刪
潤ニ依リ古詩トナリシト思ハル、モノアリ樂府古辭
西門行是ナリ今原詞ト刪潤シタル者トヲ左ニ具舉ス
西門行ニ曰ク

出西門歩何之、今日不作樂、當待何時、請呼心所歡、何用
解愁憂、何能坐愁懣、當復待來茲、飲醇酒、炙肥牛、請呼
心所歡、何用解愁憂、人生不滿百、常懷千歲憂、晝短苦夜
長、何不秉燭游、自非仙人王子喬、計會壽命難與期、自非
仙人王子喬、計會壽命難與期、人壽非金石、年命安可期、

貪財愛惜費、但爲後世嗤、

昭明刪潤ノ詩ニ曰ク

生年不滿百、常懷千歲憂、晝短苦夜長、何不秉燭遊、爲樂
當及時、何能待來茲、愚者愛惜費、但爲後世嗤、仙人王子
喬、難可與等期、

コノ詩勁古簡潔頗ル味アリ絶唱ト稱スベシ然レドモ
諮嗟詠歎ノ致ヲ曲盡スルニ至リテハ原詞ノ反覆短長
參差一ナラサルモノ反テ其上ニアリコノ二章ヲ對照
玩味スレバ古詩ト樂府トノ區別差異ノ一端ヲ知ルベ
シ

樂府ノ命題名稱固ヨリ一ナラズ文體明辨ニ曰ク蓋自

琴曲之外、其放情長言、雜而無方者曰歌、步趨馳騁、疏而不
滯者曰行、兼之曰歌行、述事本末、先後有序、以抽其臆者曰
引、高下長短、委曲盡情、以道其微者曰曲、吁嗟慨訶、悲憂深
思、以呻其鬱者曰吟、因其立辭之意曰辭、本其命篇之義曰
篇、發歌曰唱、條理曰調、憤而不怒曰怨、感而發言曰歎、又有
以詩名者、以弄名者、以章名者、以度名者、以樂名者、以思名
者、ト苟クモ漢魏六朝間ノ製作ニシテ、コノ種ノ題名ア
ルモノアラバ概皆樂府ナリト知ルベシ
漢代ノ樂府今ニ存シテ見ルニ足ルベキ者決シテ晨星
ノ寥落タル如クナラズソノ最モ珍トスベキハ廬江小
吏妻ノ一篇ニシテ一千七百四十五言ヲ以テ成リアラ

ユル支那詩歌中ノ最長篇ニシテ而カモ比類少キ叙事
詩ナリコハ次章ニ細論スル所アルベシ
漢魏六朝ノ間ニ定メラレタル古樂府ハ題目ノ意義一
定シテ毫モ動カスベカラズ後代之ヲ賦スルモノハ題
ニ臨ンテ既ニ固着スル詩想アリ決シテ其圈外ニ逸出
スルヲ得ズ然レドモ形式ハ意ノマ、ニ之ニ屬シ内容
モ亦タ時事ナドヲ諷詠シテ率合揉曳シ裏面的ニ多少
ノ新意アルヲ上乘トセリ李太白ノ遠別離蜀道難ハソ
ノ好適例ナリ聲響步趨ハ專ラ擬古ヲ事トスルノミニ
テ遂ニ其果シテ音律ニ協合スルヤ否ヤヲ檢スルニ及
ハズ或ハ知ラザリシモアリ然レドモ又タ音律ニ意ヲ

致シ新ラニ題目ヲ命シテ作りタル白居易ノ新樂府ノ
如キモアリ是ニ於テカ古樂府ノ賦詠ハ一ニ題目ヲ重
ジ聲調ハ僅ニ擬倣マデノコトトシ新樂府ノ製作ハ唐
然音律ニ留意シクルガ如シ然レドモ明代李茶陵ノ一
輩ニ及ンテハ新樂府ニ於テモ必ズシモ音律トノ協合
ヲ考究セズタバ一種激厲豪宕ノ別調ヲ以テ足レリト
ナスニ至リ遂ニ全ク混淆シテ今日ニ至リ詩ト樂府ト
ノ區別ハ曖昧トナリ了シヌ

而シテ樂府中ヤ、特色ノ存セシガ如ク見ヘタリシ彼
ノ自在ナル長短雜言ノ體形ハ一變シテ唐宋ノ詞即ケ
詩餘トナリ再變シテ元代ノ曲トナリテ傳奇戲曲ト化

シ長ク音律トノ關係ヲ離レザリキ
論シ来レバ漢代ノ詩歌ハ古詩トイヒ又樂府トイヒト
モニ北詩南賦ノ化學的抱合ニシテ而カモ普遍的性質
ヲ添ヘタリ

三 漢代詩歌ノ價值及略評

余輩ハ本章ニ於テ詩體ノ如何ヲ論セズ略ボ時代ノ前後ニヨリテ次序シ漢代詩歌ノ今日ニ存スルモノノ中特ニ其價值アルモノヲ列擧シ略評ヲ試ニ其大概ヲ知ラシメントスルナリ

漢代詩歌ノ最モ古キハ高祖ノ風起ナリ馬上天下ヲ治メントスル帝ニシテ此作アリ故ニ直クニ胸臆ヲ抒ベシモ修飾ヲ加ヘズ氣槩高遠宇宙ヲ籠罩シ俯仰感慨詰壯ニシテ意凜々リ是ヨリ先キ項王垓下ノ歌アリ敗亡顛沛ノ際ニ作ルト雜モ悲壯淋漓敢テ鹵莽ニ陷ラズ滿腔ノ慷慨鉛水淚ヲ逆リ鷓鴣絃ヲ裂クノ概ナリ西々相

對シテ各自英雄興廢ノ氣象ヲ想見スルニ足ル儒服スルモノヲ罵リシ高祖ト書ラ學テ成ラサリシ項王ト共ニ文學ノ人ニ非ズタゞ神來ノ感覺エズ逆發セシモノ隱然トシテ周末餘韻ノ存スルヲ認ム

唐山夫人ノ房中歌評語前ニ載ス但シ十七章章句錯亂セシヤノ疑エナキニ非ズ然レドモ當時ノ文臣叔孫通等皆此歌ヲ作ル能ハズ真ニ異トスベシトイフハ一般ノ公評ナリ漢代婦人ノ詩歌ヲ以テ名ヲ傳フルモノ多シ而シテ夫人ヤ實ニ其魁首タルモノ其傳知ルベカラズ服虔曰ク高帝ノ姬或ハイフ宮嬪唐山ヲ以テ姓トナスモノト

後呂太后ノ時ニ及ヒテ趙ノ幽王ノ幽歌アリ詞意悽絕
意氣低徊人々シシテ悲涼淚下ルヲ覺ヘザラシム他ニ呂
氏ノ史的事實ニ聯關シテ高帝ノ鴻鵠ノ歌戚夫人ノ春
歌アリト雖モ皆後人ノ假托ニ出テシ者ノ如ク容易ニ
信スベカラズ

韋孟ノ四言詩ニ於ケル實ニ漢詩ノ張本ニシテ將ニ遠
ク周詩ノ逸響ニ接セントスルモノ武帝以前ノ文學中
最モ價值アルノ毫モ爭フベカラズ孟ハ魯人嘗テ元王
ノ傳トナリ後又ク夷王郢及ビ子王戌ノ傳トナル而シ
テ王戌荒淫道ニ遵ハズ孟乃ケ詩ヲ作りテ之ヲ諷ス今
傳フル所ノ諷諫詩是ナリ後位リ去テ鄒ニ徙リ又ク詩

一篇ヲ作ル在鄒詩トイフ詞章ニテ清肅醇厚ヲ以テ特
色トナシ篇幅ノ廣キモ前代未ク見サルモノナリ以上
ハ武帝以前ニ屬シ詩歌ノ製作猶ホ盛ナラザリシ時ノ
ニトナリ

古詩十九首ハ實ニ漢代五言ノ冠冕ナリ其中ノ八首枚
乘ノ作ニ係ルト傳フルニト前ニ已ニ述ベタリ今モ又
ク文心彫龍ニ拠ルニ冉冉孤生竹ノ一篇ヲ以テ傳毅ノ
作トナセリ毅ヤ實ニ東漢ノ人ナリ而シテコレト驅馬
上東門トノ二首ハ樂府ノ中ニモ在リ之ニ由テ此ヲ觀
レバ昭明太子ノ選ビシ所時ノ前後ヲ考覈スルニ暇ア
ラズ一時作者ノ姓名判明セサリシ者ヲ得ルニ隨テ一

所ニ匯收シ或ハ樂府ト雖ニ體意ノ酷似シタルモノヲ
混淆シ題シテ無名氏ノ古詩十九首ト爲セシニ過キサ
ルヲ徵見スルニ足ル故ヲ以テ或ハ逐臣棄妻ノ手ニ成
リシモアルベク或ハ親朋一字ナク游子他郷ニ感吟セ
シモアルベク或ハ離別遠征死生新故ノ咏モアルベシ
寄托悠遠ニシテ神奇ヲ温厚ニ高へ感愴ヲ和平ニ寓ス
ルニ至リテハ洵ニ絶代ノ神品タルニ負カズ風餘詩母
ノ名アルモ決シテ過賞ニアラズ而シテ詩想ノ超向ス
ル所因代ト稍異ナルモノアルト深ク之ヲ味フベシ之
ヲ要スルニ陳繹曾ノ評語景真情真意真澄至清發
至精トイフハ中レリト爲スベク王漁洋ノ古詩箋ニ注

記セシ所十九首之妙如無縫天衣後之作者求之鍼綫
續之間非愚則妄トイフヲ見レバ全ク同時代ノ詩ニシ
テ思想ノ聯關シテ身盾ニル所ナキヲ知ルニ足ラン
郊祀歌十九章ハ司馬相如等ノ作ナルコト前ニ述ヘ評
語又夕盡シタリ相如ノ死スルヤ遺札ノ書一卷リ具ニ
封禪ノ事ヲイヒ附スルニ頌ヲ以テス其體大ニレテ思
精ナル亦夕是レ駸々乎トシテ雅頌ノ域ニ入ラントス
然レトモ其之ヲ出スニ諛言ヲ以テシ之ヲ文ルニ異言
ヲ以テス是レ識者ノ陋トナス所以ナレトモ文學的價
値ニ於テハ輕重スル所アラズ武帝昭帝ノ如キモ詩歌
ノ著作數篇アリ世之ヲ傳フ

蘇李贈別ノ諸作ニ至リテハ蘇東坡曾テ擬作タルヲ斷
言セリ、エノ説特ニ東坡ニ創ルニ非ス、文心彫龍ノ一書
早ク之ト班婕妤ノ團扇篇トヲ並ベ擧ケテ疑フベキ節
アリトイヘリ、然ラバ其説ノ已ニ六朝時代ニアリシヲ
知ルニ足レリ、然レトモ鍾嶸ハ李陵ヲ評シテ實ニ下ノ
如キ言アリ曰ク其源出于楚辭、文多悽怨者之流、陵名家
子生命不諧、聲顏身喪、使陵不遭辛苦、其文何能至此、凡
ソ鍾記室ノ詩品ハ人毎ニ其源ノ出ル所ヲ書シ宛ラ親
シク師授セシヲ聞見セシガ如ク斷言スルハ固ヨリ附
會ニ過キサレドモソノ口ヲ極メテ稱揚スルヲ見レバ
彼ノ作縦令ヒ偏作ニ外ナラズトイフルモ亦テ六朝時

代作者ノ能ク模擬スル所ニ非ラザルヲ微スベク其ノ
漢代ノ詩タルハ明ナリ、沈德潛モ亦タイフ、蘇李ノ詩
言情歎々トシテ感悟已ニ具サニ急言竭論ナクシテ意
自ラ長ノ神自ラ遠ク聽者ヲシテ油々善ク入り其然ル
ヲ知ラズシテ然ラシムト、今之ヲ細玩スルニ武ノ詩ハ
纏綿ニシテ陵ニ簡潔而シテ共ニ神境自然、興象渾融、自
ラ千古ニ濶歩スルニ足ル又タソノ自ラ其人ノ肺腑ヨ
リ出ツル如キニ至リテモ擬作ト雖モ上乘タル所以ナ
リ
コノ餘卓文君ノ白頭吟、班婕妤ノ怨歌行、如キ趣同ク
シテ各妙アリ共ニ樂府ニ列セラル、後者ハ文心彫龍ニ

擬作タルヤ、疑ヲ扶ミタレドモ、鍾嶸ノ所謂團扇短章、辭
旨清捷、怨深文綺、得匹婦之致、ナルモ、他ノ述作ニ對シ
テ、其手腕ヲ見レバ、未ダ必ズレモ、擬作トシテ、却クベカ
ラザルヲ知ルベキナリ

東漢ノ作トシテ、他ニ蘇伯玉ノ妻ノ盤中詩、張衡ガ四
愁怨篇、定情、同聲アリ、秦嘉徐淑贈答ノ什アリ、蔡邕ガ飲
馬長城窟アリ、孔融ノ雜詩アリ、氣格世トトモニ下ルト
雖モ、或ハ興趣深微、或ハ憂拂沈痛、或ハ荒~~々~~悲涼、又ク稀
世ノ珍タルベシ

以上ノ諸人ハ、僅ニ兩三首ヲ以テ傳フト、雜ニ蔡文姬ノ
作ル所ハ、二十首、今猶ホ存ス、蔡琰字ハ文姬、邕ノ女ナリ

夫ヲモテ、寡居シ漢末亂離ノ際、虜ヘラレテ、相ニ入リ、匈
奴左賢王ノ爲ニ逼ラレテ、其婦トナリ、二子ヲ擧リ居ル
コト廿餘年後、曹操ノ爲ニ贖ハレテ、故土ニ歸ルヲ得タ
リ、作ルトモ、悲憤ノ詩二首、胡笳拍辭十有八篇アリ、史
ニ稱ス、亂離ヲ感傷シ、悲憤ヲ追懷シテ、作ルト、均シク是
レ、經歷ト感慨トヲ把リ、来リ左、揺右、曳シテ、賦シタルモ
ノ、自ラ表裏出入ノ處アリ、併觀スレバ、周密詳明、大ニ發
明スル所アリ、益其妙味ヲ知悉セシム、悲憤ノ第一詩ハ
五言ヲ以テ之ヲ出タシ、忽ニシテ、正忽ニシテ、反、整フ如
ク、亂ルカ如ク、時ニ斷ヘ、時ニ續ク、篇章ノ妙、自ラ備ハレ
リ、漢代五言ノ中、傳フベキモノ、一タルニ、負カズコ、

ニ附註スベキハ漢代五言ノ傳フベ者十九首ノ外寥寥
數家ヲ出テズシテ婦人殆ンド全部ヲ占ムル一奇ヲ
リ悲憤ノ第二詩ハ七言ヲ以テ之ヲ出シ毎句韻アリ之
ヲ換フルニトニ回體形ノ正整實ニ新機軸ヲ出シタル
ニ近シ胡笳拍辭ハヤ、駢體ニ類シ頓挫淋漓ノ趣ヲ極
メ全篇十八章首尾連關シテ截割スベカラズ其拍數ヲ
イフテ起或ハ結トナシタルハ微細ノ一ナレドモ獨創
ノ所ニシテ後代歌謠之ヲ學ブモノアリ杜甫ノ同谷七
歌ノ如キ亦夕之ニ倣フ要ムルニ其詩ハ悲歡愴感ノ餘
ニ發シ筆ノ至ル所ヲ縱ニシ深刻ノ語愴愴ノ句、読者ヲ
レテ恍然自其境ヲ歷テ其人ニ接スルガ如クナラシメ

慨乎餘悲々常キ情乎餘思々勤カサシメタトヒ至情ノ
激發スル所研鍊精思ヲ借ラズシテ自ラ然ルニ由ルト
雖モ亦夕以テ其才藻ノ饒富ト自在トヲ想見セシム而
シテエ、ニ文姬ノ爲ニ歎惜スベキハ其命ノ悲シムベ
キト其詩ノ妙ナルトニ係ラズ後世稱ムルモノ希少ナ
ルノ一事ニシテ東坡ノ如キニ至リテハ其詩ノ明白感
慨ナルヲ以テ梁代木蘭ノ詩ニ類ストナシ東京ニ此格
ナシト斷言シ悲憤第一詩ノ冒頭董卓ノ誅戮ヲイハズ
卓衆東下セシ爲ニ相ニ入リシガ如ク叙セシヲ以テ正
史ノ事實ニ合ハズ偽作ナルノ證トナセリ然レトモ余
が思フ所明白感慨ハ其人ノ才藻ト境遇トガ然ラシメ

所ニシテ時代ノ降りシモ亦夕關係アリ而シテ木蘭ノ
詩ニ比シテ蒼古勁拔ノ處アルハ實ニ筆ヲ可カラズト
ナス其事實ニ至リテハ夕バ大體ヲ擧ケシノミ之ヲ以
テ歎歎スルヲ要セザルナリ文姬ノ篇什傳フル所前ニ
イヘル如ク世首ノ多キニ上リ已ニ前輩ヲ凌駕シ辭句
超妙優ニ一家ヲナス而シテ是レ直ニ時代ノ詩人タリ
若シ之ニ對當スベキモノヲ求レバ獨リ唐代鬚眉ノ一
杜甫アルニ漢代ノ詩歌ハ大風ノ歌ヲ以テ始マリコ
レニ此ノ悲憤ノ詩ヲ以テ終ル童謡又タ見ルベキアリ
漢代ノ五言詩ニシテ無名氏ノ作ニ成リタル猶ホ他ニ
モアリ古詩ト題スルモノ又タ集佳作アルヲ見ル

樂府ハ大抵無名氏ノ作ナリ長歌行短歌行相逢行戰城
南ノ如キ皆見ルベシ而シテ尤モ有名ナルハ陌上桑羽
林郎ノ二曲ナリ陌上桑ハ一縣令ガ路上採桑ノ婦人秦
羅敷ガ姿容ノ美ナルヲ喜ビ逼テ妾トナサントセシニ
羅敷ガ箏ヲ彈シ哀ヲ述ベテ之ヲ拒絕スルノ事實ヲ作
リ羽林郎ハ霍將軍ノ奴馮子都ナル者主人ノ權勢ヲ恃
ミテ一酒家ノ少女ヲ豪奪セントセシニ少女婉言ヲ以
テ其ノ強暴ヲ斥ケシ事實ヲ述ヘタリ共ニ托諷微婉ニ
シテ風人ノ旨ニ協ヘリ羅敷ガ拒絕ノ詞ニ羅敷前致詞
使君一何愚使君自有婦羅敷自有夫ト云ヘルト羽林郎
中ノ酒家少女ガ詞ニ男兒愛後婦女子重前夫トイヘル

ハ俱ニ是レ一幅ノ筆墨ニシテ大義凜然奪フベカラザ
ル色アリ如何ニ強暴ノ者ト雖モ之ヲ聽テ寧ル良心ニ
耻ケサル者アラシヤ二篇トモニ質古ク以テ勝ル
廬江小吏妻ノ一篇ハアルユル支那詩歌中ニテ異彩ヲ
放テルモノナルヲ前ニモ言ヘリサレバ余輩ハコ、ニ
ヤ、長キ評言ヲ加フルヲ得ン篇中ノ事實ハ漢末建安
年中廬江ノ小吏焦仲卿ノ妻劉蘭芝カ其姑ニ容レラ
レズ情ヲ割テ離別セラレシヨリ母兄ノ迫ル所トナリ
別ニ權門ニ再嫁セサルヲ得サルニ至リ志ヲ決シテ水
ニ投シテ死セシニ仲卿ノ之ヲ聞クヤソノ情義ニ感シ
亦夕自ラ庭樹ニ雉首シテ黃泉ニ相伴ヒシトイフ一場

悲哀ノ物語ニシテ周密詳細漏ラ所ナク寫シ出シ悽怨
悲痛、読者ラシテ一掬ノ血涙ヲ濺クヲ禁セラシム洵
ニ他工ノ神筆ナリ然レトモ古來之ヲ疑ヒシ者亦少ク
ラズ或ハ以テ梁詩トナシ或ハ又夕譏テ繁繁要ヲ擧ク
ル能ハズトイフモアリ紛々タル聚訟帽ノ如ク繁シ蓋
シソノ脚色ノ奇巧ニ涉リ言辭贍麗ニ入ルヲ以テカク
イハル、ナリタハ沈德潜ハ樂府體トナシ其漢代ノ詩
クルヲ斷言セリ要スルニコノ時代ニ在リテハ或ハ別
調ニ屬スルモソノ時代ノ作タルニ於テハ亦夕決シテ
怪シムベカラザルナリ何者、コノ頃ニイタリテ漸ク分
析的ノ觀察ト技工的措辭トニ意アリニコノ種ノ風調ヲ

出セシモノ前ノ文姫ノ作トイヒ、是レトイヒ、皆然ルモ
ノニシテ漢代ノ詩歌ノ質ノ外ニ一步ヲ出テズトイフ
ハ世運轉變ノ理ヲ知ラザル者ノ一ノミ漢末ノ詩ハ實
ニ建安ノ盛ノ素ヲナスモノナリ前ニモイヒシ如ク此
詩ハ一千七百四十言ヨリ成レル古今無比ノ大叙事
詩ニシテ其獨特ノ妙處ハ篇中備サシ教人ノ言語ヲ述
ヘテ其性情口聲ヲ活描シ的々トシテ眼前ニ在ル如ク
ナラシメ複雑ナル事實ヲ述フルニ整然タル次序ヲ以
テシ繁ニ似タルモ決シテ繁ナラズヨク人情ノ細微ヲ
穿テ他ノ同情ヲ牽起セシレルニナリ是レ樂府クル所
以ニシテ其辭章ハ拙ニ似テ拙ナラズ實ニ巧ノ巧ヲ曲

盡シタルモノナリ故ヲ以テ一讀ニ讀僅ニ得ル所アリ
三讀四讀初メテ其意ヲ悟リ得ベシ讀ハ從テ咀嚼愈
其妙ヲ悟リ百讀千讀遂ニ飽クヲ知ラズ中ニルカ十五
世貞ノ評質ニシテ俚ナラズ亂レテ能ク整フ事ヲ叙ス
ルハ畫ノ如ク情ヲ叙スルハ詐ナルガ如ク長篇ノ整ナ
ルモノナリト今其詩ヲ展玩セシ冒頭第一ニ
孔雀東南飛、五里一徘徊、十三能織素、十四學裁衣、十五
彈箏篔、十六誦詩書、十七爲君婦、心中常苦悲、
トアリ十三以下ハ蘭芝ガ自ラソノ經歷ヲ述フルノ語
ニ擬シタレバ一見シテ解スベキモ孔雀東南飛、五里一
徘徊ノ二句ニ至リテハ突如トシテ起リ下ニ連続セサ

ルヤノ感アリ一見又々絶テ意ノ在ル所ヲ知ルニ苦シ
ムベシ是レ乃々三百篇六義ノ第一ニ位スル興體ヲ用
ヒテ無言ノ中ニ全篇ヲ包括シ提起シタル者ニシテ其
意ハ實ニ下ノ如シ東南ニ飛ビ行ク鳥スラ五里ニ一ク
ビ徘徊シ躊躇去ル能ハサルハ何ノ故ゾコトニ人間最
悲最哀ノ譚柄アリ鳥ノ情ナキモ爲ニ感動シテ然ルナ
リト而シテ亦特ニ孔雀ヲ用ヒタルモノハ更ニ深義ア
リ蘭芝ノ横死ハ全ク悪姑ノ爲ニ聞セラレテ離別サレ
シニ淵源ス而シテ姑悪ノ音孔雀ト相通スルニ取リテ
全篇ノ主意ヲ冥冥ノ中早クコノニ字ニ含マセシナリ
此ノ如キハ實ニ文那詩歌獨得ノ妙トイフベシ但シ後

世ニ姑悪ト呼ブ鳥名アリユレハ孔雀ニ非ス唯々啼聲
ノ姑悪ノ音ニ似通ヒタルヲ以テシカ名ケタルモノ相
混スベカラズ而シテコノ孔雀ト結尾ノ鴛鴦トハ相對
映シテ無情有意味アリ又夕仲卿が其母ニ強責セラ
レ逐ニ其婦ヲ去ラシレルノ一段ノ如キハ頗ル妙両者
ノ口語真ニ通リテ耳ニ之ヲ聞リカ如シ
府吏長跪告伏惟啓阿母今若遣此婦終身不復取阿母
得聞之植牀便大怒小子無所畏何敢助婦語吾已失恩
義會不相從許府吏默無聲再拜還入戶
蘭芝が夫家ヲ去ルノ日先ツ夫ニ別レ次ニ姑ノ前ニ至
リテ拜辭シ將ニ門ヲ出テトスルニ臨テ小姑ト別ル

一段アリ

却與小姑別、淚落連珠子、新婦初來時、小姑初扶牀、今日被驅遣、小姑如我長、勤心養公姥、好自相扶持、初七及下九、嬉戲莫相忘、

悲愴ノ中自ラ温厚ノ風アリ少シモ激憤ヲ露ハサズ蘭芝ガ心カリモ優婉ナリシカト十歳ノ下讀者ヲシテ更ニ同情ヲ起サシム彼ノ顧況ガ棄婦辭ニ回頭語小姑莫嫁如兄夫(此詩太白ノ作トイフハ無禮輕薄コト比スレバ霄壤ヲ隔テラズ沈德潜ハイヒ又而シコレヲ措辭上ヨリ見レバ急忙ノ中一場綽綽ノ餘地アリ筆致更ニ妙トイフベシ)又ク蘭芝カ去ルニ臨テ仲卿ト

對シ固ク他ニ再嫁セザルヲ誓フヤ

新婦謂府吏、感君區區懷、君既若見錄、不久望君來、君當作磐石、妾當作蒲葦、蒲葦紐如絲、磐石不轉移、我有親父兄、逆以煎我懷、舉手長勞勞、二情同依依、

トイヒ其後數十句ヲ隔テ、彼ノ蘭芝カ母兄ノ強迫ニ因テ止ララ得ズ假リニ嫁ヲ太守ノ子ニ諾スルノ段ニイタリ仲卿カ怨言ヲ叙シテ

府吏謂新婦、賀卿得高遷、磐石方且厚、可以卒千年、蒲葦一時紐、便作旦夕間、卿當日勝貴、我獨向黃泉、トイフ照應ノ妙之ヲ苟クモセズ此等用筆ノ工妙緻密ニ至ラハ實ニ唯々自在トイフノ外ナシ是レ化工ノ神

筆ト稱スル所以ナリ猶ホ他ニ論議スベキト多ケレド
モ字句ニ就テノ評釋ニ亘ルモノハ複雑ノ嫌アリワガ
趣旨ニ非サレバ略シフタビ此ノ如キ名篇特ニ樂府中
ニ在ルノ故ヲ以テ識者甚ダ少キハ恨レベク故ニ評論
ハ覺エズカクハ長クナリニキ

以上漢代詩歌ノ重要ナル者ヲ列擧シ略評ヲ附セリ今
之ヲ全體ノ上ヨリ觀テ漢詩ノ特質ヲ概括センニ質ノ
一字以テ之ヲ蔽ヘリトイフベシ其質タルヤ固ヨリ自
然ニ出テ、質中自ラ文アリ漸クニシテ技工ニ意アラ
ントタルモ而カモ撲茂雄深ノ間ニ於テ一種ノ風韻ヲ
帶ビ匠心靈巧エヲ求メズシテ自ラエヲ存シ特ニ佳句

ノ摘レベキモノナク勝ラ全幅ニ集ルモノ篇々皆然
リ是レ其貴ブベキ所以タルナリ胡應麟ハ曰ク兩漢之
詩所以冠絶古今率以得之無意不惟里巷歌謠匠心信口
即枚李張蔡未嘗鍛鍊求工而神聖工巧備出天造ト信ナ
リ而シテ之ヲ讀ルモノハ陳繹曾ノイヒシ如ク其實ヲ
先ニ文章ヲ後ニスルヲ要スルナリ

四漢代詩想ノ趨向

想フニ北方上代ノ歌謡ハ必ズシモ三百以テ盡キシニ
非ズ而シテ周時采風官ノ撰録ヲ經、後更ニ孔子ノ手ニ
整理セラレ一部ノ詩經トシテ傳ハリシ所以ノ者ハ毫
モ倫理道德ノ教規ト矛盾セズ其之ヲ政治教育ノ上ニ
應用セントスル實際主義ニ適合シタルガ爲ナルベシ
勿論道德ノ制裁ニシテ無クシバ社會ハ一日ノ保續ヲ
得ズレテ直ニ瓦解シ去ルベク人類タルモノ到底道德
ニ違背スルヲ許サレズシテソノ性情ヲ發揮スベキ詩
歌モ廣潤ナル範圍ニ於テ道德ニ備從スベキモノトハ
イハ鴻濛劃然トシテ兩者ヲ分ツテレバ狹義ノ道德ニ

控縛セラレ區々禮法ノ末ニ拘泥シ冷刻ナル利害ノ秤
量ニヨリテ激越ナル感情ヲ矯曲シ遂ニ發露ノ途ナキ
ニ至ラシムルノ一事ハ文學ノ自由發達ヲ妨害スル一
疑ヲ容レズサレバ余輩ハ三百篇ノ特質トシテ感情ヲ
抑壓シ制裁ニ顧慮シタル強固ノ精神ト堅忍ナル意志
トノ美ヲ發揮セシテ見ルト雖モ其弊ノ極ル處自由ナ
ル人間思想ノ大半ヲ排斥シ血ナク淚ナキノ皮相文字
遂ニ神來ノ聲調ニ乏シキヲ憾マサルヲ得ズ
唯タ夫レ身賢聖ニ非サルヨリハ感情ヲ制シ盡シテ道
徳ニ殉スルヲ能ハズ多少ノ怨嗟悲嘆ハ避ケント欲シ
テ得サル所加之嚴格ナル禮法規矩ハ人生ヲ枯燥無味

ナラシメ甚シキハ時ニ苦痛ヲ起サシムルヲアリ人間
タルモノ快樂ヲ享クル能ハズンバ何ゾ獨リ生ラ貪ラ
ン短々夢ノ如キノ五十年汲汲トシテ勉メ何ノ贏ト所
ゾ一タビカク想ヒ到ルノ時ハ如何ナル主義傾向ノ下
ニ在ルモ愉逸ヲ欲スルノ情ヲ止ムル能ハズ之ヲ人類
普遍ノ至情トナスマエトニ唐風山有樞ノ一篇ハコノ
種ノ感慨ヲ述ベ儉吝ヲ笑ヒ行樂ヲ勸メ詩經中他ニ匹
儔ヲ見サルモノトスベシ而シテ是ハ自然ノ聲也

山有樞、隰有榆、子有衣裳、弗曳弗婁、子有車馬、弗馳弗驅、
宛其死矣、他人是愉、

山有栲、隰有杻、子有廷內、弗洒弗掃、子有鐘鼓、弗鼓弗考、

宛其死矣、他人是保、

山有漆、隰有栗、子有酒食、何不日鼓瑟、且以喜樂、且以永
日、宛其死矣、他人入室、

蓋シ周末諸侯ノ力征ヤ原因頗ル多シト雖モ人口増殖
シ生計ノ困難ヲ来タシ單醇ナル上古民人の快樂ヲ享
受シ難クナリシト其根本的原因タラズンバアラズ此
際ニ於テ初メテ苦痛ヲフ感情ヲ生シ厭世的思想ノ興
起ヲ見タリ而シテ休養安息ハ其カ熱望スル快樂ノ理
想ナリキ仍テ考フルニ老莊ヲ始メトシテノ南方ノ哲
理、文學、地理的影響ニ受ケシ所大ナリト雖モ實ハコ
ノ機會ニ方リ感情的ナル人民ガ熱血ヲ注キテ出セシ

モノ、全然、傾向、厭世的ニシテ、快樂ハ消極的ナリ、而シテ、時ニ、朝俗ニ、流レシ、一、亦、一、怪シ、レ、ベキ、モノ、アラズ

漢ノ一代ハ支那國民ガ休養安息ノ時代ナリ、獨立思想、缺乏ノ時代ナリ、而シテ、又、南方思潮流布ノ時代ナリ、寧テ理想セシ安息ヲ實行スルニ至リテハ、此上ニ立ケタル、老莊哲理ノ行ハレタル、一、自然ノ勢ナリ、周室一夕ヒ東遷シ春秋戰國トナリ、暴秦ヲ經テ、秦漢ニイケル年ヲ、閱スル、已ニ、數百、擾亂姑クモ、絶エズ、天下塗炭、苦シ、レ、一、久シ、是ニ、於テ、カ、漢初ノ帝王宰相中ニハ、曹參ノ如キ、文帝ノ如キ、黃老ノ道術ヲ好ミシモノアリ、躬、玄默ヲ

ヲ修メ、清淨ノ政ヲナシ、繁苛ヲ除キ、劍痕ヲ治セシ、一、ラカ、ム、上下トモニ、之ニ、趨キ、道家ハ、寧テ、棄絶セシ、一、ナク、賈生ガ、鵬鳥賦、性命ヲ達シ、死生ヲ齊クスルノ、幽旨ニ、於テ、已ニ、深ク、冥契スル所アリ、武帝ニ、イタリ、政策上ヨリシテ、百家ヲ、廢黜シ、儒教ヲ、表章セシ、一、アルモ、之ヲ、阻礙スル、一、能ハズ、淮南王安ガ、諸儒方士ヲ、招致シ、辯論セシ、所、亦、タ、虚ヲ、踏ミ、靜ヲ、守ルノ、本意ヲ、離レズ、一方ニ、於テハ、宗教的傾向ガ、現實化シ、テ、道教トナリ、而カモ、盛行シタルヲ、見ルベシ、蓋シ、老莊哲理ノ、微妙幽遠ナル、決シテ、儒教ノ、淺近ニシテ、獨斷的ナルニ、似ズ、世界ノ、開闢ヨリ、始メテ、天人ノ、關係ニ、及ビ、人生ノ、極致ヲ、考察シ、無爲

ノ玄境ニ遊バシム固ヨリ前ニモイヒシガ如ク厭世的
傾向アリ流布ノ結果ハ問ハズシテ知ラン且ツ夫レ不
完全ナル社會ニ在リテハ理想ヤ常ニ現實ト容レズ世
界ハ終ニ圓滿ナル幸福ヲ享クベキノ地ニ非サルヲ經
驗セシ上ハ厭世的思想ノ詩歌ニ迸出セシモノ固ヨリ
理ナシトセズ而レテ漢代ニ在リテハ世已ニ降りサマ
テ禮法ニ汲汲々ラズ故テ以テ詩人ハヤ、自由ニ感情
ヲ述ブルヲ得テ天地ノ悠久ニシテ我生ノ倏忽ナル快
樂ノ享ケ難キヲ嗟セリ既ニ多少ノ詩的情熱アリ人ノ
同情ヲ昂揚セシム檢束ハ去ラレタリ詩境ハ闊肆トナリ
又余輩ハ支那ノ詩歌カコ、ニ始メテ皮相的ナラズシ

テ真實的ニ近キシヲ喜ハズンバアテズ漢代ノ人民ハ
勞レタル思想ヲ以テ昏々タリ故ニ哲理ノ思索ナシ厭
世的思想ハ流溢シタルモ老莊ニ続クベキ思索家ハア
ラズ、タビ之ヲ短幅ナル詩歌中ニ述ベタリ
邦家ノ汚隆ハ人心ニ大關係ヲ有ス初メ武帝ノ位ニ上
ルヤ文景豊富ノ後ヲ承ケ加フルニ内治外攻ヲ成就シ
一時ハ泰平ノ盛運ヲ極メシモ大ク好ト功ヲ喜ビ征戰
土木ヲナシタルノ後ハ重斂繁刑、百姓ヲ疲弊セシメ遂
ニ漢室衰頽ノ因ヲナセリ人事ノ盛衰正ニ眼前ニアリ
ニノ一事ハ厭世的思想ノ増進ヲ促シ、一言ヲ待タズ
固ヨリ武帝以前ノ詩ハ注意ヲ值スルモノ少ク五言新

體ハ創初セラレコノ詩想ヲ載セテ愈盛ナリ樂府ハ李
延年ノ定メシ所古詩十九首中ノ或者實ニ枚乘ノ作ト
イハル皆武帝同時ノ人而シテ此後作者常ニ絶エズ乃
々我言リ河漢ニセザルヲ知ルニ足ルベシ
雄才大略アル武帝が自ラ歌フ所秋風何ゾ悲哀ノ調多
キ是レ漢代ヲ通シタル詩想ノ始メテ發現セシモノ樂
極テ衰来リ忽テ悔志ヲ萌ス王通ノ評語穿テリト謂フ
心シ

秋風起兮白雲飛、草木黃落雁南歸、蘭有秀兮菊有芳、懷
佳人兮不能忘、汎樓船兮濟汾河、橫中流兮揚素波、蕭鼓
鳴兮發棹歌、歡樂極兮哀情多、少壯幾時兮奈老何、

揚暉が秦聲ノ唱趙女が瑟ニ和シ酒後耳熱シ缶ヲ拊テ
呼テ烏鳥タリシ者又リ感慨ノ深キヲ見ル

田彼南山、蕪穢不治、種一頃豆、落而爲箕、人生行樂耳、須
富貴何時、

古詩十九首、風餘詩母ノ名アリ然レトモ人心ヲ昂揚ス
ルト更ニ切、幽思綿綿、言盡クルアリ意窮ルナキハ實ニ
コノ詩想ノ起伏ナルニ因ラズヤ

青青陵上栢、磊磊澗中石、人生天地間、忽如遠行客、斗酒
相娛樂、聊厚不爲薄、驅車策駑馬、遊戲宛與洛、洛中何鬱
鬱、冠帶自相索、長衢羅夾巷、王侯多第宅、西宮遙相望、雙
闕百餘尺、極宴娛心意、戚戚何所迫、

迴車駕言邁、悠悠涉長道、回顧何茫茫、東風搖百草、所過
無故物、焉得不速老、盛衰各有時、立身苦不早、人生非金
石、豈能長壽考、奄忽隨物化、榮名以爲貴、
驅車上東門、遙望郭北墓、白楊何蕭蕭、松柏夾廣路、下有
陳死人、杳杳即長墓、潛寢黃泉下、千歲永不寤、浩浩陰陽
移、年命如朝露、人生忽如寄、壽無金石固、萬歲更相送、賢
聖莫能度、服食求神仙、多爲藥所誤、不如飲美酒、被服純
與素、
去者日以疎、來者日以親、出郭門直視、但見丘與墳、古墓
犁爲田、松柏摧爲薪、白楊多悲風、蕭蕭愁殺人、思還故里
闕、欲歸道無因、

他：人生不滿百，一首アリ樂府古辭西門行ト同意十
ル也ノ亦然リ前ニ引證シタレバ、ニ復セズ
樂府他：此種多シ、長歌行ニ

青青園中葵、朝露待日晞、陽春布德澤、萬物生光輝、常恐
秋節至、焜黃華葉衰、百川東到海、何時復西歸、少壯不努
力、老大徒悲傷、

董嬌娆、尾ニ

高秋八九月、白露變爲霜、終年會飄墜、安得久馨香、秋時
自零落、春月復芬芳、何時盛年去、歡樂永相忘、吾欲歌此
曲、此曲愁人腸、歸來酌美酒、挾瑟上高堂、

滿歌行、後半ニ

暮秋烈風、昔蹈滄海、心不能安、攬衣瞻夜、北斗闌干、星漢
照我、去自無他、奉事二親、勞心可言、窮達天為、智者不憂、
多為少憂、安貧樂道、師彼莊周、遺名者貴、子遊同遊、性者
二賢、名垂千秋、傾酒歌舞、樂復何須、照視日月、日月馳驅、
輻輳人間、何有無、貪財惜費、此一何愚、鑿石見火、居世
幾時、為當權樂、心得所喜、安神養性、得保遐期、
トイフ如キ皆然ラガ莫シ

東漢節義、士ヲ尚ビ多少影響、事跡ヲ史上ニ留メタ
リ蓋シ是レ邦家維持ノ上ニ於テ必要アリテ起リシ者、
社會ノ事情益複雑トナリシヲ知ルベシ是ニ於テカ厭
世の詩想ハ曾テ汲減セズ風懷洒脫ナル高士ノ歌ヲ所

詞意奧妙ニシテ節調飄逸、或ハ羽化登仙ニ托シテ六朝
游仙詩ノ濫觴タルヲ思ハシムルモノアリ而シテ老莊哲
理若クハ道教理想ノ貫通スルニ至リテハ遂ニ争フベ
カラズトナス

清誠 高彪

天長而地久、人生即不然、又不養以福、使全其壽年、飲酒
病我性、利欲亂我真、神明無聊賴、愁毒於衆煩、中年棄我
逝、忽若風過山、形氣各分離、一往不復還、上士懸其扇、抗
志凌雲烟、滌蕩去穢累、飄逸任自然、退修清以淨、存去玄
中玄、澄志剪思慮、泰清不受塵、恍惚中有物、希微無形端、
智慮赫赫盡、谷神綿綿存、

述志

仲長統

飛鳥遺跡、蟬蛻亡殼、騰蛇棄鱗、神龍喪角、至人能變、達士
拔俗、乘雲無纜、騎風無足、垂露成幃、張霄為帷、沆瀣當餐、
九陽代燭、恒星豔珠、朝霞潤玉、六合之內、恣心所欲、人生
可道、何為自促、

大道雖夷、見幾者寡、任意無非、適物無可、古來繚繞、委曲
如瑣、百慮何為、至要在我、寄愁天上、埋憂地下、叛散土經、
減棄風雅、百家雜碎、清用從大、抗志山棲、游心海左、元氣
為舟、微風為柁、翱翔太清、經意容冶、

琴歌

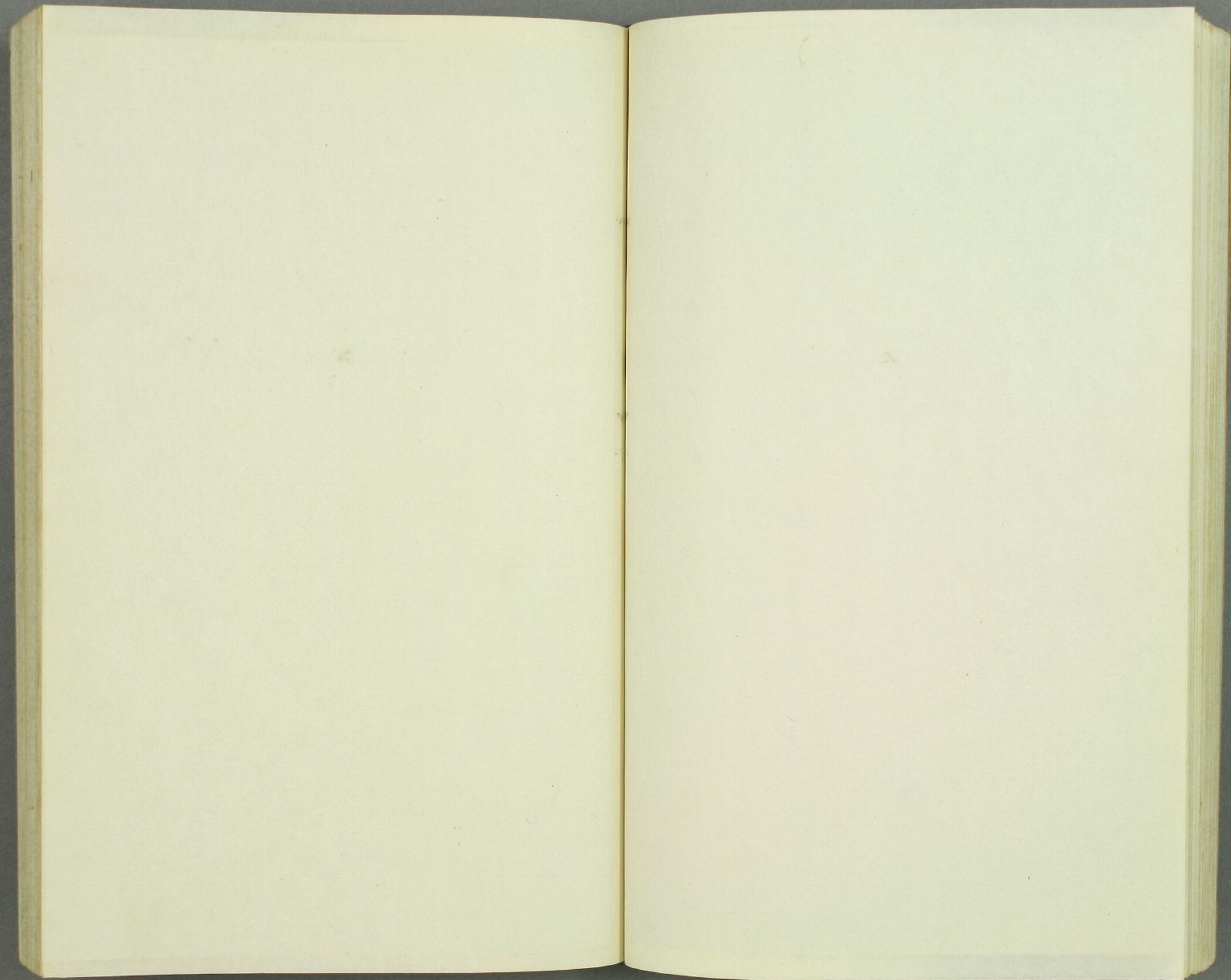
蔡邕

練余心兮浸太清、滌穢濁兮存正靈、和液暢兮神氣寧、情

志泊兮心亭亭、嗜欲息兮無由生、踰宇宙而遺俗兮、眇翻
翻而獨征、

カク、ノ、如クシテ、一タヒ、老莊哲理ノ感化セシ厭世の思
想ハ、一途ノ暗流トナリテ、漢代ヲ通注シ、遙ニ後世ニ波
及セリ、魏晉ノ詩ニ見ハレシ者亦然ラザルハ、ナク、阮步
兵ガ詠懷、什、深憂危慮、最モ遙深ニシテ、又々悲哀ニ富
シ、而シテ、社會ノ事情日ニ窮迫スルニ及ビ、驅テ極端ニ
走り、旁徑ニ入ラシメ、終ニ所謂清談家ヲ生セリ、ソノ由
ヲ来リシ所洵ニ遠イカナク、

(終)



函

應試論案
虛無僧

漢學科一年

久保得二

虛無僧

緒言

本論上 慶長以前

第一章 虛無僧の遠源

第二章 普化宗の初態

第一節 普化と宗派

第二節 法燈の傳來

第三節 新詮の流布

第三章 普化宗の融合

第一節 虛無僧開始
第二節 虛無僧名義

本論下 慶長以後

第四章 虛無僧確立

第一節 西本山具立

第二節 慶長制令妄偽

第三節 幕府意思

第五章 虛無僧內狀

第一節 寺院制度

宗派、寺院、番所、住職、役僧、收入、

第二節 徒弟規約

入宗、服裝、日課、修行、律規、歸俗、

吹合所、罰則、臨時、偏物、俗奉則附與、

第六章 虛無僧跋扈

第七章 虛無僧廢止

結論

虛無僧

緒言

虛無僧、徳山時代、顯著なる者、シテ僧、非ス、俗、非ス、法師、ニシテ而カモ、武士
ナリ、今其起因、繹スル、頗ル、古、者、如シ、但シ、資材、缺、少、シ、其、詳細、知
悉、ス、ル、難シ、唯、其、名義、變遷、ヲ、追、究、ス、ル、聊、カ、發明、ス、ル、所、見、ニ、庶、幾
シ、慶長十九年、幕府、制定、ノ、妄、否、ハ、姑、ク、措、キ、此、年、鈴、法、寺、ノ、創建、アリ、兩
本山、具、在、ト、ハ、以、テ、組織、確、立、ト、シ、時、ト、看、做、ト、得、テ、其、以前、ノ、胚胎、萌芽
ニ、過、中、ス、余、ハ、此、篇、ヲ、草、ス、ニ、方、リ、便宜、上、之、ラ、二期、ニ、分、ケ、先、ノ、源、ヲ、究、メ
以、テ、末、ニ、及、ハ、ン、ト、ス、ル、也

本論上 慶長以前

第一章 虚無僧ノ遠源

昔鎌倉時代ノ早世ニ暮露トイフ者アリ後世ノ虚無僧トハ全ク異ナルモ必ズ
研究ノ傍頭ニ留ルキ者アリ暮露ハ賤シキニ食糧ヲ乏シ法師輩ニシテ輕侮シ
テ呼ビん名ヲカス其遺習トシテ後世或地方ニ鉢扣クモ暮露ヲ呼ビテ榻
鴨隨筆ニ見ユ思フニ彼

法師はかりうらまじからぬはなし人は木のほのやうに思はるよ

ト書キ枕草子時代ニ去リ遠カラズ其マツト決シテ怪シク足ニ嬉遊笑覽其義
ヲ釋シ

今もいふ詞にて物の朽ちやるやうのホトといへる是なり

トイヒシニ頗ル體當ノ説ナリ沙石集

ある入道法師ニ所領處替の後ハたすら暮露ニの如ク惟ニ紙衣ヲ着ル

トイヒ今テ物語

明の下ニ法師のまゝと怪しむるが頭はかみにかいて紙衣のぼろくさ
うち着る暮露とかははかななり

明惠上人のぼろくの草子ハ前書ヲ早キ者ニ暮露トイハ油賣ノ女ニ人子
アリ兄ヲ蓮華坊弟ヲ虚空坊トイヒ兄ハ念佛修行ニ諸國ヲ巡リ弟ハ法僧ノ
風ヲ尚ヒ頭髮ヲ半切リ繪キ紙衣着テ一尺寸ノ太カラキ檜木ノ棒ヲ以
諸國ヲ行クトアリ是ヲ知ル暮露ニト賤僧ノ名モ異形ヲナル法師ヲモ呼ビレ
ト見ラ嬉遊笑覽ニ

尺八は此腰刀の寸法なれば後にかゝるんや

トイヒ又リ

此より職人盡の書画をかき入る

トイハ鎌倉時代中頃一種半僧半俗巡行者一定ノ服装ヲ着セシ者ニカ之
ト向テ徒然草文段抄モ兼好ノ記元所ト並舉シ暮露始祖ノ面説トセリ然
レモ是ハ戲作ニシテ當時風俗寫メトモ人物ノ実否ト詳カニ直音肯クニ能ク
此條式ヲ定利氏及ビ天下表亂時ノ際ニ悍剛暴戾ノ僧侶流浪スル者
中ニ武人ノ敵情ヲ揮リ仇讐ヲ討身死スル者ニ假裝シテ混入セシモノトヘテ前述賊僧ト
異ニシテぼろ草子ノ法僧ノ如クナリシモ猶ホ舊ヨリテ暮露ニシテ極テ徒然草
者河原といふ所をぼろ ぼろ何ありて九品ノ念佛を申しけるに外
リテもぼろのいしは中にいらぬ切申をぼろやねは一もを尋ね
て其中よりいらかしこは候かのかまふはたぞとふふれむしう梵字と
申者なりたれが師何かして申し入東國にていらおしと申をぼろに

ハコトされうと承りしかむ其人にむひ奉リて恨申をばやと思ひて、
尋ね申せうといふらおしカシム尋ねおはたりと事侍りし
ホに對面したてまつらむ道場を汚し侍りし前河原へ参り何は
ん河原かよわきざーたちいつかたよみつゝ給ふはあまたのわづらひに
たむむ佛事ノ妙に侍るべしといひきたりて又河原ヲ出阿比心カ
くばかりにつらぬさほひてものに死にけり ぼろ ぼろ 昔はたか
りけりやちかきせにぼろ人し梵字漢字などいひけるものはおしめた
りけるよかや 下略

トアルヲ見ル猶ホ今ク宗教的性質ヲ離シテ佛事ヲ禁テイサアリト見ヘリ但シ乱
世ノトモ他ノ鎮壓ヲ受クニナク悍剛暴戾ノ其特質アリシニシテ徒然
草大全ニ

兼好時代此草子のほう草子(流布して異形の僧河ねむぼろ)といひ
しちるべし又そのつれづれづろは例せば寛永年中に鐵心空道
とふ二人の要僧僧衣の下に大脇巻を帯し諸國の人民をたやましけり
と仰りけたんぢるべし

ト云ふ當ふト難モ遠カナルト説ミテ又々特ニオカシキハ徒然草参考抄見
ル所

聖徳太子の明眼論ヲ我入滅の後七百餘歳の時ヨリ異形禪形の僧
尼仰りて神社佛事をけがえん何をも舜統院破邪顯正にぼろ地
おとちるべしとい

トイフヨリ而シテ此暮露が虚無僧ノ祖先なりハ貞丈雜記ヨリ以下皆言フ
所疑ヲ撲ギキ者ナシ而シテ暮露ハ足利氏ヲ通シテ行ハレタリ職人書盡歌合ハ

土佐先信書事ナレ大永前者たへく正是レ異形僧ト普化宗ト融合成リ
テ虚無僧漸々ニ確立ナレ時ヨリ書中暮露ヲ圖セルヲ見ルハ髪散亂
ル故ニ鉢巻ヲナレ刀ヲサシ墨キ袴ニ白キ衣着ケル紙衣ナルベク明惠上人サテハ
兼好記ル所モカラアリケント思ハレル者ナリ其歌ト判詞トヲ見ルニ

法の月廣くすまして武藏野におきつる暮露の草子の床かた

暮露ハ心月いかけりの法の光をかひろめ侍る人信仰せたる覺
ト云ふ誠意信佛人念之ニテ居然トシテ剛悍ノ異形僧ナリ知ル足ル而シテ愈
武人跡ヲ晦マセシ者ノ混々アルヲ推察スベキ也今百尺竿頭ノ歩ヲ進メ此兼好
如何ニシテ普化宗ニ歸シ所謂虚無僧トナリシカク定メガ爲ニ普化宗ノ始立
傳來ニ付キ一言ヲ所アラントス

第二章 普化宗ノ初態

題シテ普化宗ノ初態トイフ融合前コトナリ余ハ爰ニ其宗派傳來流布付テ略述セトス也

第一節 普化ト宗派

普化宗ハ禪家ノ一支流ニシテ唐ノ鎮列普化禪師ヨリテ開祖トス普化ハ初盤山ニ師事シ密ニ真訣ヲ受ケ常ニ鐸ヲ振テ市中ニ唱フ其詞曰ク

明頭來也明頭打暗頭來也暗頭打四方面來也旋風打虛空來也連架打我常疑着此僧

己普化ハ四打詔ニシテ一明暗本則トイヒ徳川時代虛無僧本則見者ナリ又遊歩時風来リテ其杖ヲ鳴ラシ會シ悟ル所アリ好テ尺ハツ吹ク（盤山師事セテハカセク疑點ナキコトナリ）又テ寺行多シ其將ニ寂ッホサントスヤ乃ケ市ニ入り人ニ謂テ曰ク我三個直殿

ヲ與ヘト人或被禪ッ與（或ハ布衣ヲ與フ皆受ケス臨濟人ヨリテ一棺ヲ送與セシ便ケ之ヲ受ケ衆ニ辭シ自ラ棺ヲ發テ此門外ニ出テ鐸ヲ振テ棺ニテ逝ク群人棺ヲ掲ケ之ヲ視ル已ニ見ヘズ唯ダ空中ノ鐸聲遠キヲ聞ク（本九年トイフ）蓋シ其宗派見者別ニ確然ク教日アルニシテ單ニ寺行ニ爲シ宗派如ク考ヘシ其祖ノ名以テ直ニ宗名トセシマシ尤モ普化ハ字ヲ見ルニヤ俗ニ傾キ見ケルヘキ也以上三國佛教略史藝苑日涉春風田詠社會事彙ニ見ル所也

第二節 法燈ト傳來

普化宗ヲ本邦ニ傳ヘシ法燈ナリ今紀伊國名所圖會龍川夜詠春風田詠等ニ因テ考ルニ國師名ハ覺心號ラ心地トシテ信濃ノ人常澄氏ノ子ト東大寺ニ具足戒ヲ受ケ高野山ニ入リテ密教ヲ學ビ寶治三年入宋シ普化風ヲ聞キ悟ル所アリ普化徒法普國佐理正宗怒ル向居士ヲ伴ヒテ歸ル頃ハ後深草天皇建長六

甲寅ノ年ナリ是ラ本邦普化宗權輿トス法燈後紀州由良興國寺ニ
四居士ヲシテ浴室ヲ掌ラシ其地今普化谷ト稱ス

法燈深ク普化ヲ慕ヒ行住坐臥皆之ニ倣ヒ最モ明暗本則ニ通ス但シ鈴鐺
ヲ鳴ラズ尺ハ吹ラズ之ニ准ヤ後世其徒尺ハ吹クハ實ニ此基ヲト云フ

第三節 新註ト流布

法燈ニ次テ新註或云金元トシテ小金月寺ノ開祖ト春風園註

法燈ニ參禪シ戒ヲ受ケテ居士ニ新註古山禪師ト寶伏法普皆傳
ヲ受ケ尺ハ吹キト稱セシ云

トリ嬉遊笑覽ニ

法灯國師漢キナリ居士四人ヲ來リ播州鷲靈峰ト居テ或人海上ト船
ニ乘リ通シテ其異音ノ聞カクヲ怪ムヨ寄ル東ノ山に入れビ入ノ居士尺ハ

モ吹キ尺ナリナリ其術ヲ乞ヒ弟子トモナリ露海庵ハ其時西名ナリ
禪語に露海南針といふ事有ルニ由リ是ナリ其名ヲ虛竹ト改メ諸國ヲ遊
行セシト云レ居士法ヲ書テ贈リ

然ラバ四居士就鷲靈峰嚴棲セシ者ト見テ虛竹新註ヲ授居士ノ贈リシ語
ハ明暗ノ本則ニテラキ虚鐸傳記ニシバ

國師宋の護國寺に居しモ普化禪師トシテ孫張參に虚鐸の曲
ヲ授リ歸朝の後弟子寄竹に傳ふ又國佐理正法普宗怒の四居士ト此管
ヲ學ビテ後年寄竹行脚の志を以テ此地ヲ去リ道路の家毎に此音を發
シ世人に知らメナリ此宗起リ

トナリ法燈自傳ヘシ如シ且四居士浴室ヲ司ル外他ニ遊行セシヲ見ズ興
國寺就鷲峰ト號シ由良ノ海濱ナルトナリ嬉遊笑覽ハ何カ混シテ誤リシト云

又霧海虎由之就之關南集

関祖自宋歸時有四居士相從參禪之暇皆吹尺八嘗於船中有省值海霧冥濛弄一曲以寄道情遂以霧海路名其曲

より歸途舟中より作りし者也此曲は屢徳川時代は法令に見え者なく此は注し雨りカクテ新註は尺八妙年トシテ世ニ知ラシク極終ニ禁闕ニ召カレ教ヲテニ虚鈴ノ秘曲ヲ奏ス後深草院賜ニ紫衣ヲ以テシ是レヨリニ宗門ニ三曲ヲ起シ真虚靈霧海虎虚空鈴是也給命以テ天下ニ流布セトシ法燈モ亦夕一寺ヲ建立セシテ勸ム新註ニ辯ス後關東ニ下リ法弟日ニ進ク執權北條經時其高德ヲ尊ヒ下総小倉ニ精舎ヲ賜フ又肯セ其法嗣了波此文リ山ヲ金龍寺ヲ月ト號シ桂テ新註コレヲ關山タラシム一月寺ノ創立ニ記ス者ヤク以上春風閑話中荒木古童ノ語所ニ存リ古童ニ維新前一月寺ノ用違役ヲ勤メシ者トシ其言ヲ所全ク批所ナキニモアテアルベシ是レ余ガ屢引用ス所以ナリ但ニ經時寛永四年ニ卒シ建長六年前八年ニテ疑ヘキ所アルハ注意スル也

當時禪宗盛ニ天下ヲ風靡シタル其宗中ニ種奇行ヲ以テ特殊ナル普化宗ノカク速ニ流布セシテ決シテ怪シク足ス亦尺八ノ上古推古ノ朝ヨリアリタルトモ此ニ至リテ大ニ武人社會ニ愛玩サレシムル且ツ或人ノ説ニ

時に北條氏執政の世にて三浦氏の族罪を以て廢せられ金先の弟子となり一月寺の嗣となり法義居士と云ふ北條氏憐れ天蓋を冠り尺八を吹て米錢を乞ふを許さる蓋し實伏尺八吹と經文を讀ト合セテ之ヲ吹テ其徒これヲ學ビ尺八を以テ誦經ノ代リニ用タルに至ル是ト云フ尺八は普化宗の專用物ナリ

より真偽知んべからず雖も普化徒弟中ニハ之ヲ吹テ批鉢セシ者モアリシト云ヘシ而シテ文明年中朗菴ニクウノ暮露ハ斯宗派ト融合シ遂ニ所謂虚無僧成テ

第三章 普化宗ト融合

融合トハ暮露ト普化宗ト人合體セシイフ也便宜ヨリ二節ニ分ツ

第一節 虛無僧ノ開始

塩虎

此僧ハ八世業トシテ良菴トシテ禪僧トシテ起リ

トシ嬉遊笑覽ハ狂言記拾遺内ニ「ろ」ん尺八ノ書ト云フ見モシテ良菴カト
附記アリ而シテ合類節用集ニ朗菴トシテ山城志ニ明菴トシテ各異ナリ雖モ文明
年中久ト云フ點ニ於テ符合セバ斷ニ同ナリ而シテ朗菴最モ普通ナルカ如シ雍
州府志及江菴條ニ記テ所最モ詳細ナリ

中世有異僧號朗菴不知何處人也暮普化振鈴之位略帝好ハ八自號普
化道者ハ八枝之外不携一物有人問佛法則吹一吹而去與大德寺休和尚善
友有二檀越建圓音寺於宇治川邊請之寺中及江菴其所常住也亦無
幾不知其所終云ニ説虚無僧之為祖也非普化而風穴延沼也風穴好吹ハ
八因為祖者也

或ニ説ト云フハ取定ニルリ朗菴和朝ノ普化ト呼ビシハ都名所圖會見ハ付志類
似リヲ記スリ而シテ其一風穴ト號セシハ博物筌山城志ニ出ル所風穴ノ字ハ風穴ト
字畫ハセリ異ナルニテ普化トハ音相似リ然ラハ混淆シテ此謬ヲ生セシ非九歟
朗菴京都明暗寺ニ居リシトテ寺ハ後關西世ニ國虚無僧ノ支配ヲセリ
此頃偶々足利氏季世ニ當リタレバ彼ノ暮露ノ如キ者多ク輩出セシム此徒時ニ
人家ヲ探索シ或ハ米錢ヲ乞フニキリ其時技藝ヲテハ柏子拔ケテオホキ氣味アルガ
而シテ凡ハ清音ノ般ノ好所具フ野鄙ナク其都合ヨキヲ多クモリシテ暮露ハ皆凡ハ
ラズクナリ朗菴ハ學ビシモアルベク此風習漸クニ廣マリテ後ハ暮露ハ必ズ凡ハ吹ク

トナリ逐カノ所謂虚無僧ヲ生リ此ニ注意スルハ虚無僧ハ禪宗ノ教理ニ關スル
普化行爲ヲ取リ盛行セシ爲ニ普化宗ハ余ク宗教的性質ヲ失ヒタル一事是也
而シテ虚無僧ノ名義ノ起因ニテハ次節述ブルガ如キ者アリ

第二節 虚無僧ノ名義

此頃ノ暮露ハ薦ヲ負ヘリ世ニ番職人書歌合薦歌ノ判詞ニ

薦僧ハ三昧紙まゐり如肩かたノケ面桶腰おもてノツク貴賤ノ明戸あきノリ是ハ吹外ふきニ別用
ト云フ者ナリ

イヒ嬉遊きゆう笑覽しやうハイフ其畫大概前ニ引ケル職人畫カサトイヒモ鉢はち巻まき紙衣しハ袖そでヲ
放はなテ着きク腰こしニ面桶おもてト云々巻まきル付つケルハ薦すすハ露宿ろしゆくノ用意也今ハ箱はこトシテ食くヲ
モトイフ同シトカハル姿態すがたヲナリ誰たれヨリ初はじメリヤトイフ博物ぶつ答たハ朗菴らう記き事こと中ちゆうニ
到いたル處ところハ心こころむむハに坐まテ依よテハ心こころ僧そうトイフ

トトヒ山城志

露宿風餐ろしゆくふうあん雜險ざつけんトイフ也到いたル處薦すす席せきに坐まシ教曲きやうきよくヲ弄あそブ因よテ薦僧すすそうトイフ
ト云ハ朗菴らう者もの有あリ其出所詳しやうキナル者ものハ直ただ以もつテ薦僧すすそう始祖しそトシテ大差おほキニ庶幾しよシ
又勸進くんじん聖歌せいハ畫えヲ見ルニ前まへト異ちがハル有あリハ畫えハ薦すすヲ卷まきキ腰こしニテ座まレシ吹ふク
サ也之これヲ要もとムニ薦すすハ乞食きじき執行しやうぎんノ標しるしトシヨリ風雨ふううノ用意ようぎ野宿やしゆく設たてテ爲なルベシ
コニ於テ始はじめテ薦僧すすそうノ名なアリ而シテ普化宗ふけしゆうハ兎うノ禪宗ぜんしゆうニ派はレバ虚無きよノ字じヲ究きうテ
虚無きよ空寂くうじやくト主しゆトス故ゆゑナドト故事こじ付つケレリ疑うたがハ容ゆるム暮露くろノ糟そう法師ほうしトモ虚無僧きよ
馬うまハしリト云フ名なアリレリ歌合かニ見ルハ皆輕侮けいト意いニ出でラシモ也
爰こゝニ必かならずシリ服装ふくそう事こと及およビクレバ嬉遊きゆう笑覽しやうヲ引ひキ後世ごせい變遷へんせんノ大體たいヲ述のベシ此
章しやうヲ結むすスベシ
後のちハ其軀しん移うつリ變へんリ今いまハ正ただト異ちがナリ承應じやう明曆めいノ小こノ野郎のやらうあたたまは

何れど散髪にして常に編笠を冠り白布のひとと着けたるは、紙衣の遺意に
久し此體元録の初め迄も然り其頃より袈裟をつけたり笠は其後迄も浅
く開きたるなり其蹟が賢女に粧画俄に尺八を替古して袖を葦色に染さ
せ綿厚に上立の摺鉢をみゆるなあふ笠をとく云々と阿ふ如し寛政の頃に
至りて大かた衣服も今のやうに丸いけ帯などになりしが笠は下の方廣き笠の
る編笠なり今世人は食杯の着る笠也錦の留袋を腰にさぐり笠は茶の
る形に用ひて今の笠にくらべれば浅き方なりだて風俗もなほは明和以来なり

本論下 慶長以後

第四章 虚無僧の確立

鈴法寺創建アリテ西本山具立シタレ以テ虚無僧確立時ト云ク第一節ニ詳述スルガ如シ
而シテ慶長九年法令トシテ傳ル者モ七條ノ内ニ里夫事件トシテ第二節ニ考覈スル所
アリ次節ニ武家ノ虚無僧ニ詳述シテ主意所在ヲ論究セトス

第一節 西本山具立

カクノ如ク暮露ト晋化宗ト融合シテ虚無僧トナリ此宗派俄ニ盛行シタレバ爰ニ宗派組
織ヲ定テテ必要トナリ下総小金一ノ寺ハ創建古キニ由緒シバ其本山トナリシニ至リ當ナリ
而シテ江戸ハ封建ノ中央政府ニシテ侯伯第宅ノ在所トシテ隨テ武士浪人關東多ク來集
セシハ言フマテモナク一寺ニハ行届カズモアリト見ヘ青梅近傍新町ニ鈴法寺新設セラレ
前者ト相並テ關東西本山トシテ世ニ知ラレタリ武藏風土記稿ニ

境内陸地五段六畝三九步普化宗の禪頭なり、廊嶺也稱す本堂三間半に三間左尊彌陀を安んず長一尺餘の木像なり、客殿は三間半に四間開山卷風是し慶長十九年吉野織部起るといふ

トナリ吉野織部ハ新町村、開發者ナリ、開山表風ハ知ルベク春風閑話ハ鈴法寺は楠正成の末孫にして此宗よりし者の起す所といふ

トナリ是し表風ハ事ライカ諸國要典(校藏寺禪行記録卷三六四)注ニ類似トナリ鈴法寺職我は楠正行の三男僧と云りて虚無僧と申せし者の流を汲みよし、虚無僧とは申したり也、三月尋し節答せし、かもし例の僧家の事強きべし、スベテ其傳統ニ付テ疑フキト多キハ、金峨長語ヲ待テ初メテ知ラサル也

鈴法寺所在地ハ新町ニシテ之ヲ青梅トイフハ謬ナリ、蓋シ此邊都テ青梅縞ノ産地ニシテ新町ニモ市ヲ立ル様ナリ且ツ近キレバ普通ニ青梅、鈴法寺トイヒ倣ハセシナルベシ

第二節 慶長制令ノ要偽

慶長十九年ニ發セシト傳ルル令ハ次ノ如シ

御入國の御被仰渡ル御掟書也

一、虚無僧之儀者勇士浪人一時之爲隱家不入守護之宗門依而天下之家臣諸士の席可定置之條可得其意事

一、虚無僧取立之儀諸士之外向坊主百姓町人下賤之者不可取之事

一、虚無僧諸國行脚之即疑敷者見掛候時、早速召捕其所之留置國領、其役人江相渡地領代官所者其村役人江相渡可申事

一、虚無僧之儀者勇士爲兼帶自然、敵杯尋候旅行依而諸國之者對、虚無僧處相慮外之品、又者批鉢障ハ敷儀生束候節、其子細相改、本寺迄可申達於本寺、相濟儀者早速以江奉行所江可出果事

附 虛無僧止宿諸寺院或驛宿之從所可致旅宿事 後

一 虛無僧法冠履衣取者ト萬端可心得事 前

一 尋者申付修節ニ宗門諸派可抽丹誠事

一 虛無僧敵討申度者於有之者遂吟味兼為好本寺從奉寺許事

一 諸士提身乃寺内驅込依願者其同起本可抱置表以辨申採者於有之

一 早連可許出市

一 本寺宗法出置其院無油斷為相尋宗法相背者於有之ニ急度宗法可許事

一 虛無僧常未大乃懷紉等心懸所持可致事

右之條々取相守武門之正道不失武者修行之宗門可心得也為其日本國中往

來自田美免置所決定如件

慶長十九年宣正月

本多上野介 印

板倉伊賀守

本多佐渡守

虛無僧寺江

是寺社奉行記錄中見之者寛政元己酉年二月九日鈴法寺より差出也

書目ニ

寺社奉行記錄中見之者

慶長十九年板倉伊賀守採本多上野介條々以御連印波印出之御書付燒失件

ト此燒失者事實ニモ否ヤ尤元禄年中大火相引ハ他處ニ見テ而シテ

二月十五日寺より前記者より差出之其條々

右御掟之條餘モ御坐也燒失仕圖書付奉申上ル

ト然モ從前より一月寺圖書傳ハシヤ但此制令ハ絶對的ニ疑ニキ者ハ

ト克己之ヲ辨ヤリ續白石叢書最モ詳左ニ抄出ス (寺社奉行記錄中見之者) 國史由中ニ見テ

慶長十九年正月、高御所江戸城ニ御越年奉多佐渡守正信奉多上野介
正純在存ヤ、此月初ヨリ大久保相模守忠隣奉御評儀了。○廿日忠隣
仰奉リ、小田原ヲ出テ京ニ趣キ、即蘇我後村主ノ十九日正信ニ忠隣カ罪状ヲ仰
テ、廿日大御所江戸御發駕。○廿日大御所小田原ノ御旅館江ノ徳心江戸
渡御密談了。○小田原城ヲ破却シ、正信正純等仰奉リ、連署ノ状馳
シテ京ニ忠隣カ許ニ御勘氣イテ達ス。是ノ正純江戸ニ歸リ、ト見テ、○廿七日
台徳心江城(還御廿九日大御所駿府御着。晦日正純御使トシ、駿府奉ル
○金地院正自江戸リ、廿九日發足シ、二月二日駿府ニ着ス。板倉伊賀守
勝重此頃京都ヨリ、関西鎮護及ヒ寺社事務掌リ、金地院大御所仰
奉リ、駿府ヨリ江戸往送シ、御政因及ヒ社家僧徒カ沙汰ス。日本寺院此ニ
人指揮ナシ、正純大御所執政正信、台徳心老職トシ、駿府ニ正純金

地院ト連署シ、レニ京都勝重判形ヲ加テ、寺社ノ知状ヲ出セシ、往々見ヘド
毛宗門制令ニ正信カ連判ト見當テ、諸條目ノ例違ヒ、金地院ヲ除テ、正信
カ名ヲ記シ、最右審テ、此月忠隣奉御國家ノ大儀トシ、台徳心カ名ヲ爲シ、小田
原ヘ至リ、レシ程事ナシ、廿日、後高更リ、廿日、前ノ金地院在江戸ハ、宗
流條目連署ニ漏ルキ理ナシ、此頃天下未ダ全キ事定ズ、諸本山宗門ノ御條目
モ慶長十九年ヨリ元和二三年ニ至テ、漸ク定ミシ次第ナシ、漸ク普化宗ヘ
今年條令ヲ出サシ、モ時勢ニ於テ如何アルキニヤ、且ク文體ヲ按テ、當時政府
ヨリ出セル文及ヒ寺社令條目ニ殊ナシ、其意趣モ皆巴カ宗派ノ爲ニシテ、
文字ノ拙陋ハ見ル堪ヘカ、後年彼徒ノ追記ニテ、妄リニ其名ヲ記セシムルハ、
而シテ余カ思フ所、徳川氏初テ江戸ニ入リ、レハ天正七年ナルニ、テ、御廟ノ時ト云フハ、
當テ又徳川氏考所載者ハ、鈴澤寺撰書ヨリ、者ニシテ、第二條ヲ逸セリ

此如キ異同アル亦疑フキ點ナリ但シ今證明スル得ルモノ今再ビ白石ノ説ヲ考ル
ニ事トシテ

條目内

- 一 金地院ノ運署ナキ
- 二 本多正信ノ署名アリ
- 三 文體ノ拙陋
- 四 時期ノ尚早

谷ニシテ

四點ノ第一ニ定カズ第三第四猶ホ有リ得ル者トモ第一者ハ尤モ有力
者ニテ妄偽ヲ證シテ餘アリ又白石ノ記ニ所キ事實ノ誤ナキハ家忠日記追加
駿村記東武談葉以寛永譜トテ對照シテ知ルベキ也
前ノ泚掟ト同日ニ發布セシ者普化宗泚條下是レモ亦疑ハトイフ事
稲葉丹後守ノ諸國要曲ニ事ハ善行記録中ニ出テ署名ノ論ニキ前ト同シ

同年同月ニ御條目出セシモ不審ナリヨリ天保四年三月中務大輔殿ニ於テ鈴法
寺職我ニ心得爲相尋ニ候也御條目本書ニイカセシヤ無之寫而已ニ本書
ノ板倉周防守殿有之候由寛政頃承リルヨリ申シ終ニ周防守殿伊賀
守重孫ニ候トモ虚無僧共ニ被下リシ條目本書却テ其家ノ家傳ノ様
ルシキト且ツ答之趣モ不分明存此御條目信用難成一鉢御朱印寺社者
ト申ス者今ニテ官庫ノ書ニテ年番ニ取扱ヒ候得ハ席ノ文ノ趣
ヲハヨクヨク書集スルモシテ其上訂正確也セシニ其心得アルキナリ寺社奉行所
付御條目編集書ヲアガケ取用ヒモアルハ弊之程無心許此トテ記シ
乃々知此條目ノ出所怪シク其書キ集キ方モ論議スキアルトス余此ニ斷案ヲ
下ラズ如シ幕府ノ慶長十九年カク知ラズト制令ラ虚無僧寺ニ下セシハ有リ
シハレ而シテ是レが實際燒失セシヤ或ハ自己ノ不利益點ノアリテ爲シ燒失トイヒテ

埋藏せしむ詳しきも寛政元年二月幕府命より虚無僧寺より上りし賜書
ハ今も其偽り自己利益を爲し作爲し上り欺罔せし者也

幕府之ヲ知ルヤ知ラズヤ其儘ニ捨テ置キタルバ虚無僧寺ニハヨキ事トシ之ヲ金
科玉條トシ延寶五年命ト共ニ毎ニ撥キ出シ用ニ供ケリ（弘化四年幕府令ヲ達シテ御掟ノ無
効トシテ定メテトテ理由自石トシテ同シ）

第三節 幕府ノ意思

制令々否之ヲ措キ幕府之ヲ評定各々優遇セリ虚無僧頗ル自由天地に住ル者

シテ治外法權ノ域ニテ今幕府ノ意思ヲ釋スルニキテ左ノ二件ニ在リカ如シ

一 懐柔 武士ハ四民最級ニテ幕府モ之重シ虚無僧ヲ評定シテ浪人負苦路

頭ニテ之醜ヲ免シ又探索便ヲ得タリ虚無僧ノ仇討ハ吾人辱耳先所探

索ノ例トシ母ヲ尋キ者慶長見聞集ニ見ユ大體精神於テハ鈴法寺答問書

記スル所其要ヲ得テリ

從往古士官之外ハ兼切取トシ仕ル中侍之當坐難道譯相之虚無僧宗門

願ヲ節決定證令取以弟仕ル維先知ヲ祿者トシ侍ノ形ヲ闕キ無

刀或脇差一腰にこそ商家侍者に紛敷御坐ル故宗門不仕ル儀諸流宗派

に多ク仕古より宗門一統ノ法式に御坐ル依て武門不幸者輒虚無僧

と相勤め幸の序と侍ち再ハ士官に歸任仕リ侍の家名血脈断絶不仕ル様

仕ル義往古より宗門の幸と不幸武浪と普救ハ現在を助之慈宗

尤も侍の疵に不能成採に世能存知能在依之宗門者武門の爲に羅成

歸任仕ル内に御用も相立者御坐ルハハ忍實ハ御奉令も可罷成儀と奉

存いたしむ商家ハも宗門本則假も附與可仕所也云々

ニ利用 之ヲ使役シ爪牙用ニ供スル抑モ徳川氏ノ封建譜代外様別ニ設ケ

幕初ニ於テ殊ニ後者ニ對シテ戒心ヲ所リ其國內ニ於テ働作ヲ探偵必要アリ也

トモ事ハ秘密ニ歸セシ故余ハ言ニ在リテ其例ヲ見出シ能ハラズ根ハ尤モ後ニカレ大
事ニラズシテ此事ニ因ヒシコトヲ鈺法寺答ハク書ニ

町奉行并ニ盜賊改メノ御方分者御頼ト相尋ね或ハ右捕在儀ハ御坐ル事
トル者即是ナリ

普化宗此セシテ封建時代ハ利益アリト認メシ故水戸先國卿如キモ月寺徒
率ヒテ歸國シ領内ニ永濟寺以下斯宗人等ヲ建テテ緣故ヲ以テ代々水戸侯參
親ノ途次必々月寺ノ兵寮ニシテ御書食ハ御小憩所トナシシカ是レ荒木古童ノ語所
亦以テ普化宗ノ封建侯伯ニ容レシコト知ル足ルベシ

幕府武士ヲ重シシ精神ナルイカウ虛無僧ニ對スル処置イリテ甚ク寛過クル者
アリ後世其ノ跋扈跳梁ヲ極メン所以ニ未トシテ此存スル者之ヲ一虛無僧ノ内狀ニ付キ仔
細ニ考ルル所ナリトス

第五章 虛無僧ノ内狀

虛無僧幕府ニ許登ラシ西本山具立シテ組織漸ク完成ヤリ然レモ固ヨリ成文律アルナラズ
幕府ノ事件ノ起ル度毎ニ々其習慣ヲ詰問ヤリ其問答ヲ謀録シル者寺社奉行
記録中ニアリ是レ之ヲ讀テ之ヲ秩序的ニ分類修算スルニ此章ヲ成セリ

第一節 寺院制度

一宗派 普化モト禪家ノ派ニシテ其中又多教流派アリ春風園語ニ鈺法寺ノ活惣
派ニシテ一月寺ノ金先派アリ一月寺ノ創建古クシテ朴茂ヲ尚ヒ鈺法寺ノ華麗ヲ喜ブ般
ニ虛無僧ノ帶ヲ前結フ風習アリテ金先片蜻蛉活惣ハ西蜻蛉一見直判然トシテ
其餘一得ニシテ活惣金先外梅土ノ菊寺行不知根密等十レ派ニシテ内斷絶セ者
九ト云リ固ヨリ教義ニ非ニカレハ服装動作ニ微ニ於テ異ナル故ナルベシ

二寺院 關東・多クシテ關西ニ於テ自然理リ關東ニテ一月寺鈺法寺觸頭トシテ關

西明暗寺支配ノ露餘得ル日本全國ニテ九十寺内有名無院者十七
宗派ニ別テ人先世遺物十二ニシテ最多ト稱セラル

(三)番所 江戸市中ニ兩本山番所ヲ思フ共郭外數里地ニテ之ヲ設ル必要アリト
見二月寺ノ淺草、鈴法寺ノ市谷ニリ又時地方番所小者アリ之ヲ出張所ト云

(四)住職 本寺住職其末寺并本寺ノ弟子仲間中ヨリ衆評ヨリ撰ビ岡山像前
受戒ニ末寺ノ其寺ノ弟子トモ協議シ撰ビ本寺ニ伺フテ定メ師前ニ受戒ニ都由
緒アリト雖モ師弟同契約遺狀ニテ定ル得ズ本寺住職ハ五年一度年始ニ登城
シ家裏金爛廿五條考再時紫衣ヲ用ル格ナリ後住ノ住職ハ前任ノ渡シタル
本則ニ繼印ス

(五)役僧 本山ニ看書リ身ノ首坐上級ニシテ住職下ニテ寺務ヲ執ル本山住職ナキ
時末寺住職ノ或者ノ代理トシ院代ト稱ス又用達役ト武家用人如雜務ノ處理ス

末寺ノ看書出役ト稱ス江戸番所ニ徒弟文ノ遣リ交代セム又諸國ノ番所ノ遣リ
シ虚無僧ノ改ムル地方末寺ノ總代トシテ年々ニ送本山ニ出ル者ヲ組合年番稱ス

心收入 普化宗檀越ノ故ニ收入ニシテ維持費ハ皆徒弟虚無僧執持ニ得ル者
安政頃ニ便法ヲ設ケテ民家農事解多ク時ニ雙方便益ヲ慮リ代錢ヲ一度
ニ受取ル者ニテ穀代、修行料、執持料、取締料ト稱ヤリ寺ノ印鑑ヲ授ケ村ノ
帳簿ヲ製シ村役人捺印シ本山用達役トシテ遣リテ受取ラシム其額ハ固シ此ノ外
クモト村方ト約束シテ設ケル者或地方ニ或場合行ヒシト思ル事ハ安政五年
年十二月鈴法寺父答書ニ詳也

第二節 徒弟規約

(一)入宗 浪人虚無僧トシテ者直ニ法弟ト云フカクニ稱シ數十日寺中ニ留置其
人物ヲ試シ見拔キ上ニ宗門ニ入ルハ是レハ春風困詰見所、宗門ニ入ルハ必ズ證

人ヲ要シ大法ヲ背キシニ追放人ナド決シテ抱置ルル定ナリ
扱テ宗門ニ入ル許ストハ竹名
許シ奉則ラ與ヘ虚無僧一定ノ服装ヲナラナリ竹名ノ鐵鬼監柳トイハレ法號如
キ者ナリ又証人相立見シタル者ハ後ヨリ之ヲ入ル得ル也

(二) 服装 本則竹名書式ノ煩シク省キツ服装ヲ付テ略述スル
髮ハ結ム或束束或ハ亂ル歸俗人念キ者ハ受戒剃髮シテ法僧トナル得身ニ僧衣ヲ着テ紺黑袈
裟ヲ纏ヒ戴頭ノ天蓋深サ頤ヲ没シ修行途中決シテ脱スル許サズ衣服細綿
綿ヲ主トシ夏ハ晒帷ヲ用ヒ模様ヲ禁ナリ帯ハワタニトヒサカヤシキ又ハケメンシモノ等ニ
シテ足袋ハヤシシ色ハ薄柿皮葺ナリ又ハ袋縫模様ナク下駄モ定ナリ初メ短刀ヲ
許セシモ延寶時一切刀物ノ持テ禁ナリ天保頃ニテハ虚無僧ノ服装漸ク
寛濶美麗流レシム幕令集訓諭ニ所ナリ

(三) 日課 虚無僧ハ皆寺ニ朝暮明起キ暫時無言行テシ住持先ツ普化像ニ

向テ合掌シ次ニ役僧法弟カクヒ等順次ニ禮拜ス終テ後朝餐シ四時頃ヨリ
天蓋ヲ冠リハシキニテ出ツ虚無僧ハ免許奉則者スモ技藝上ヨリ得ル
者ニテモバ真ニ是ハ妙ヲ得タルニモ(以上老風用語)又讀經ヲ付テ定ナク其得
ル者ヲ誦ス或ハ此ノハ一夏九旬中法衆相會シテ禪話ヲスモアリトカ

(四) 修行 刻限朝五時分ヨリ暮七時限ナリ概テ二人相伴ヲ定ムトシ江戶町中ニ入
リ許ス兩側ノクイ遊山盤昌ノ場所ハルヲ禁ナリ之ヲ布施スルト不許ハ隨意ニシテ之ヲ
不許ハ無用ノ語ヲ以テス又鳴物停止ノ時之ヲ吹ク就ハ問答アリ初メ佛具故可キト
セシガ後ニ之ヲ禁シテ村内道々ニ差ス遠國通知達セシ後ニ此ノトセリ

(五) 律規 虚無僧ハ者ハ十景律法奉寺規式ヲ遵守シ國法ヲ背キ不行義奇怪
法ヲナシ禁ナリ肉食妻帯後ハ有髮者ニ限リ肉食ヲ許セリ振舞ノ時ト雖
モ一汁三菜酒三献ヲ過クヤカニスベテ在家ト親密ナルカニテ待遇ハ諸士並ニ及ス

出家社人同様トスル正月七日三番所會シ法令ヲ讀ミ聞ク(未詳ニ月日)

六歸俗 虛無僧又仕官シ或他故ニ最早カル也女子ニ必要キハ歸俗ニ得

歸俗ニ侍職ノ外皆可リ又病氣ニ罹リ批鉢能カルハ其請ニ從ヒ證文ヲ證人

カシ歸俗セシム全瘡ノ後又入宗トハ本則ニ附與セシム

七凡ハ吹合所 浪人虛無僧ナリ年月ヲ經テ歸參ス能ク長ク妻子ヲ他人ノ願ムニ成

リ難キハ歸俗シ凡ハ吹合所ニ説テ教ヘ糊口ニ資セントスルヲ請フ(ハ情狀ノ相

キ為メ之ヲ許ス或ハ凡ハ細工ヲスモアリ

八罰則 虛無僧ニシテ嫌疑スルモ政府直之ヲ逮捕ル得ベシ先番所ニ連行キ天蓋

ニ既セメ其面貌ヲ見ル然レモ猶ホ逮捕ス能ク之ヲ渡スト否トハ其宗門統治者權

内ニテ要スル幕府之ヲ討テ之ヲ能ク治外法權ナシトモ宗門中自ラ討則リ其重

ナル者左ノ如シ(同時ニ發布セシムル諸條ニテ執事也)

一 宗外ニ相手有之者或師敵其外大科ノ者不依何事從古來儀許裁許

願上ル

一 盜竊會左右ノ相指專賣或虛無僧以テ不眞若面ニ大印是等以下法令皆

以テ以者一派ノ道具ヲ傳售普化ノ宗ヲ構ヒ證文取追信也

一 未詳花季年皆一宗之法令仕置時小科ノ本寺ニ許可仕指圖大科ノ後

ト違奉行此法者可申付理不盡ノ働任仕問敷事

九臨時 無批要事高々虛無僧ニシテ修行ヤト欲シ又宗門無縁擅裁キ協助

吹セリ者其日限同天蓋法衣ノ貸シ本則外其日限ノ印鑑ヲ授ク勿論遊興

以テ許ス寶曆九年七月鈴法寺ヨリ答書

武家ノ俗人敵尋族元来ナキ則清羅在虛無僧ノ如クニ毎日捺シ罷出ル

者當時三人御生凡三人共寺社奉行在長門守捺町奉行能執肥後守捺(罷

出言上御帳付四能存准令以尋罷出外無執守物有之武家方御家申
ふの頼に而四能出方も御坐有

小偏者 之者押(し)時(に)宗(具)取揚(前)疑(利)落(吾)他(宗)構(礼)取(追)押(又)其(在)方(勸)化(際)捕(勸)物(取)上(以)テ(入)費(充)テ(過)合(村)割(度)

(山)俗(人)本(則)授(與) 町(人)之(好)修(鍊)之(者)親(親)願(之)對(鈴)法(寺)本(則)與(之)

之(見)元(所)後(幕)府(百)姓(町)人(本)則(勿)論(名)毛(無)用(且)西(寺)違(り)

但(武)士(之)許(見)吹(合)所(習)師(犯)者(俗)人(ト)シ(テ)請(者)之(許)之(大)身(者)

ハ(使)者(以)演(書)預(家)事(執)務(役)人(之)同(合)相(違)其(許)ト(云)フ(ス)テ

虛(無)僧(紛)敷(者)之(幕)府(欲)尤(所)仍(漫)天(蓋)之(賣)ル(禁)之(虛)無(僧)

寺(之)天(蓋)之(居)狂(言)之(局)之(僧)之(止)メ(タ)リ

第六章 虛無僧跋扈

幕府(之)虛(無)僧(對)之(頗)寬(過)之(犯)罪(者)紛(入)之(キ)保(之)而(之)鈴(法)寺(有)寺(之)

答(書)之(カ)ル(者)出(セ)シ(ト)斷(言)ス(ル)者(真)偽(知)ル(カ)ス(者)真(と)當(時)武(士)信(義)

之(里)之(神)佛(之)欺(ク)テ(厭(道)義(心)之)欺(唯)ガ(片)道(義(心)之)法(令)制(度)

大(關)漏(保)持(之)頗(危)險(事)之(放)逸(無)斬(徒)紛(入)之(跋)扈(之)事

實(照)シ(テ)瞭(々)タ(リ) 虛(無)僧(修)行(躰)之(來)リ(百)姓(之)強(請)之(或)旅(宿)之(之)故(村)役(人)

周(旋)之(粗)陋(湫)隘(之)爭(鬪)之(打)擲(之)自(之)或(止)宿(之)錢(之)拂(之)却(之)合

力(之)或(病)僧(之)作(定)規(之)超(之)三(四)人(之)來(之)亂(暴)之(或)寺(法)之(追)放(之)他(虛)

無(僧)之(待)伏(之)打(倒)法(具)之(奪)之(又)竊(刀)劍(之)携(他)殺(害)之(者)之(惡)聲(有)出(民)

人(之)毒(之)安(永)三(年)午(月)幕(府)令(之)出(之)白(ク)

以來(虛)無(僧)共(聊)不(法)之(筋)有(之)其(材)方(之)差(押)淋(料)は(淋)代(官)并(御)預(所)

新領地^録役所(早々見出づし若相背其村方を裁度者也)

ト然レモ寺之逮捕得ザレカ如シ之古老^武或虚無僧ノ罪ヲ犯シ寺ニ交
捕吏追ッテ幸リ之求院未^知ト答ヘサレ院中^改メト云フ徒弟^シテ庭ニ出テ起列セシ
皆天蓋ヲ戴キテ之^脱ス捕吏面貌ヲ見テ捕ル^ク得ズ已^レテ得^ズ其相忽^テ謝^レテ去也ト
カ仙石騷動^イ神谷轉^ハ虚無僧友^鳩ト^リ居^リシ幕府^ハ仙石家^ノ依頼^ニテ捕
シ^テ爲^メ紛議^ヲ生^リ要^ス方^ノ守護^ス不^ト云^フハ虚無僧^ガ自^ラ討^テ決^シテ曲^キレ^シ者也

此如^シテ^レ水鏡^ニ著^シ化宗寺^ハ犯罪者^トシヤ必^ズ然^トモ幕府^ハ他^ノ原因^ニ漸^ク衰^ク夫
下多事^トシバ不^レ平^ニ徒^ニ時^ニ来^レトテ渦流^中運動^シ蓋^成馬^ニ似^セバ虚無僧^トル^ル必要^ナ
キ^ク又^シ虚無僧^トル^ル英断^決網^ニ打^テ棄^ルル^ル虞^{アリ}故^ニ安^ラ隱^者ト^ル時^ハ種々^他工
夫^ヲ凝^ラセ^リ維新^前勤^王家^ノ傳^ヲ讀^ム者^直チ^之ヲ知^悉ス^レ是^ニ於^テカ虚無僧
ノ害^ハ非常^ノ劇烈^ニ至^スレ^テ止^ミキ

第七章 虚無僧ノ廢止

明治四年令^リ虚無僧^ヲ廢^シ其徒^ヲ盡^ク民籍^ニ編^セム今^其理由^ヲ推測^ス

(一) 王政維新後^四民平等^トナリ^特ニ武士^ニテ^皇兵^ニ從^前武士^ニ世^録アリ^テ夫^ヲテ困窮
死^時歸^參シ^テ此隱家^ニリ^シモ既^ニ封建制^ヲ破^リ了^シ世^録已^ニ絶^レル^ル暫時露
命^ヲ維^クト^クイ^フモ少^ナキ^ニ又復仇^ヲ禁^シテ^レ安^ラ隱^クレ^テ遊^ヒモ^キキ^ニモ^レリ

(二) 警察法^ノ進歩^ハ其職^ニ非^ズル^ル虚無僧^ヲ使^レテ秘密探偵^ヲナ^シル^ル必要^ニ感^ゼリ
(三) 風俗^ヲ矯正^ス爲^メ物^々ヲ禁^シテ^レ虚無僧^モ隨^テ排^存セ^リス^テ維新後^ノ社會
問題^ニ処^置シ^テ精神^ハ遊^民ヲ減^スラル^ルカ如^シ

虚無僧^ハ徳^川氏^ノ封建制度^ト共^ニ滅^亡シ^テ檀越^ナキ^ニ普化宗寺^ハ維持^スル^ル方法^モナ^ク共^ニ廢
絶^セリ^今日^猶中^間付^ク或者^ハ家^表ヲ着^ケル^ルモ天^蓋ヲ戴^キ尺^ハ吹^キ人家^ニ元^ノ者^ニ從
ク^ニシ^テ僅^ニ其遺風^ノ存^スル^ル見^ル也

結論

暮露^三賤僧が漸々變^レ亂世^ニ遊浪^ス惡僧輩^ノ名^ヲ以^テ武人^ノ翰^ハ晦^ル者^ト混^ル俗^ニ
傾^キ普化宗^ト合體^シテ^テ虛無僧^ト以^テ普化宗^ノ人^ト宗^ノ教^ノ性質^ヲ失^ヒル^ル前^ニ論^セル^ル
如^シ余^ハ此^ノ徳^リ氏^ハ虚無僧^ヲ優^シ遇^シ之^ヲ爲^シ得^ル利^害得失^ニ付^キ言^フ以^テ本篇^ヲ了^ス
ト^レ欲^ス

嘗^テ試^ミ之^ヲ論^ズ天下^ニ常^ニ不^レ平^ニ徒^リ社會^ノ下^部潛^伏潛^執力^ヲ表^シル^ル永遠^ニ凱^歌
舉^グ而^シテ^テ虛無僧^ト者^ハ概^シテ^テ流^離子^ト不^レ遇^ル者^ト以^テ不^レ平^ニ徒^リ強^テ之^ヲ鎮^壓セ^シト
セ^テ却^テ其^ノ執^ヲ増^シ革命^一起^ル猶^ホ油^ヲ以^テ火^ヲ消^サシ^ルル^ル如^シ暮^露府^ガ之^ノ寬^典ヲ^與
無^職業^ニシ^テ生^活ス^ル得^セシ^メ懷^柔ノ政^略ハ^ハ軍^團一^方ヲ^開キ^テ窮^寇ヲ^逸セ^シ我^兵
傷^ズル^ト同^一事^情ナ^リカ^クテ^テ武^士ノ^軍心^ヲ精^神ハ^ハ天下^ノ軍^望ヲ^博シ^得ル^ル時^ハ爪^牙
ト^シテ^テ使^役シ^ル以上^ハ幕^府ハ^ハ損^失ヲ^多ク^シ弊^害ハ^ハ萬^事ニ^免レ^ザルト^シ先^ツ幕^府

ハ利益^ヲ得^タリ^ト言^フシ^テ而^シテ^テ幕^府ハ^ハ遂^ニ不^レ平^ニ徒^リ爲^シ倒^サレ^シモ^ソハ^ハ虛^無僧^ト關^ス
ス^ル所^ニ無^キ也

終^ニ臨^シテ^テ言^フキ^ハ余^ハ此^ノ問題^ヲ閑^シテ^テ短^日月^中十^分ノ^研鑽^ヲナ^ス能^ハズ^ル初^メニ^詳シ^テ
後^ニ略^シ龍^頭蛇^尾ノ^觀ナ^リ能^ハズ^ル也^ハ日^更ニ^補修^スル^ル時^ハ信^ス也

(終)

易論一則

漢學科二年
久保得二

易論一則

夫易者先聖經世之書萬古道統之源書
契文字之祖所以本天地之道貫萬物之
根明人事正彝倫辨善惡決從違也豈唯
區々卜筮占候之書哉以故其理深遠精
微蔑以加焉文言曰夫大人者與天地合
其德與日月合其明與四時合其序與鬼

神合其吉凶。先天而天弗違，後天而奉天時。天且弗違，而況於人乎？況於鬼神乎？然則大人君子與天地同德，天人之道無異也。嘗聞易有革命之義，獨疑革命者天地之常道乎？乾卦九五曰：飛龍在天，利見大人。自古以爲革命之象，然今按之，實爲太子承寶祚之象，而易中無革命之義也。今之中時有變焉。繫辭曰：天尊地卑，乾坤定矣。卑高以陳，貴賤位矣。是不易也。故伏羲畫乾坤二卦，以爲不易。君臣父子之象也。忠孝之道，於是焉。孔子曰：不易者，其位也。天在上，地在下，君南面，臣北面，父坐子伏。又曰：天地不變，不能通氣；五行迭終，四時更廢。君臣取象，君臣不變，不能成朝。夫婦

不變不能成家。由之觀此，其變者氣耳。人君廢節屈身，以下賢者，即是也。氣則雖變，其位不易也。天地既有定位，君臣亦有定位。天不以可為地，地不以可為天。君不以可為臣，臣不以可為君。故以天下為家，不傳賢而傳諸其子。世々以長子繼寶祚，是天地之正道。伏羲作易之大義也。故序大人者，謂治統之君在上，億兆浴其澤也。且夫說卦乾為馬，震為龍。然而乾卦不言馬，而言龍。此伏羲深意所在。周公孔子亦闡明其義矣。要之乾天子之象，上乾終而下乾繼。天子相繼之卦也。異姓他族不可代之義，亦彰矣。漢儒以來不悟此義，或曰龍陽物也。或曰龍之為物，靈變不測，故取

象焉。豈不戾耶。故堯舜禪讓。雖非不美。誠非常道也。以帝位爲官爵。似公而實違矣。後世王莽曹丕之徒。假口于此。稱頌功德。以是禪讓。實啓亂賊之端者。亦非誣言也。坤卦上六。龍戰于野。其血玄黃。自古解爲君臣相戰。共傷之象。臣可以抗君手。是謬說耳。實示逆臣抗君而被戮也。血玄黃。帶之中。逆臣抗君。固反道者。其被戮也。理固當然。故曰其道窮也。革之爲卦。革命也。爻辭^有虎豹。臣弑君之象也。但亦表大臣不得爲天子之義。乾卦有龍。革卦有虎。意義自明矣。大壯。明諸侯從王事。而以爲諸侯奪天位之象。亦謬耳。此故易之爲書。說萬乘帝位尊嚴。不可覲覲之義。以戒亂臣賊子。

於是人事始明，彝倫始正，善惡可辨，從違可決也。豈以革命爲常道者哉？嗚呼！堯舜禪讓，其事已非；禹則傳位於啓，實從易道也。而湯伐桀，武王代殷，特反易道。縱令雖惡君則君也，是弑逆之人，黃生之論固可也。相禪者已非常道，而況弑君代之者乎？易之深意已滅，大義已絕。周公、孔子雖翼主，下有亂賊之臣，邑虎、傅翼、饑鷹、飽肉，朝興暮倒，歷代世數。讀史者常所長嘆太息也。而是雖趨勢所然，一由易道湮晦，謬說毒世也。春秋際有史墨，其言曰：社稷無常奉，君臣無常位。辨季氏逐魯公之非逆，以媚趙簡子，其後未幾，三晉分矣。孟軻所謂邪說橫行之世，其闕之者史墨也，而軻雖

大賢未能明易道。靖亂世。春秋間。穉君者
三十六。何其甚哉。西漢孝惠時。黃生與轅
固生論易。得罪被放。革命說行。曲解易義。者
歷代不絕。宋王紹素講易太祖前。至乾卦
九五。避席再拜曰。今日陛下。即是也。嗚呼
如渠者。寧不愧頭上白髮哉。程朱輩亦受
謬說而悟。可笑耳。明代來。知德高尚士也。
堪嘆哉。而知儒亦頗賸々。不知其由來。漫
傳革命謬說。講之不憚。嗟乎。何其妄哉。夫
惟我東方之國。
皇統萬古一系。
皇祖所謂寶祚之盛。與天壤無窮者。易義
獨行此邦。美哉盛哉。豈有以加此乎。易之
正義可講。而不宜容謬說矣。小子才劣。固

無所識及聽師說始得之不知手之舞足
之所蹈以故試述之敢請是正云

韓圖純理批判梗概

漢學科二年 久保得二

緒言

今や是レ批判時代ナリ 宗教モ法律モ之ヲ避ケル能ク而シテ形而上學ハ古來戰場ナリ
初メニ獨斷取リ後ニ懷疑取リ今中立派風靡ニ任セシトシ其適歸ニ所ヲ知ラズナリ斯
學ニ遂ニ科學ノ正路ニ入ル乎

請フ先ツ諸ヲ科學ニ見シ數學物理學ガ探宥法ノ變化ニヨリテ今日如クナリシ頃影著
タル事頂下數學ハ今見ルキ形像ヲ點檢スル非ズシテ亦ク概念ヲ解柝シ性質ヲ詠破スル
モ非ズ先天的構成セシ概念中ニ必然的ニ包含スレバ圖ニヨリテ形像ヲ呈スルキモノヲ露出セシト
ス即チ主觀的企圖ヲ自然ニ適用セシムルナリ 物理學ニ於テモ亦出リトナス

翻テ形而上學ヲ見ルニ現ニ吾人知識ガ對象ニ符合スルヲ假定セリ而シテ此見ヲ以テ知識
ヲ擴張セシトシ規畫ハ常ニ失敗ニ歸セリ今之ヲ檢スルナリ而シテ斯學ヲ論ル原因ハ知

識成其範圍限界ヲ定ナルニ因ル今之考シ凡ソ知識トスルニ概念ガ對象ニ符合スルト
對象カ概念ニ致ストノニ法想像サル而シテ前者ハ常ニ複雜ニ隔リ先天的ニ知ラレキト主
テ實感セシ者ナリキ後者ハ寧可有理ナリ何者經驗知識ハ式ニシテ又別ニ先天的状態
モアリ故ニカクノ如クシテ形而上學ハ科學ノ行路ニ入リテ得ヘク吾人ノ研究ニキ先天的知識
ノ説明ト自然ノ奥底ニ潛藏スル法則ノ表示トナリ然レトモ第一ニ所ノ先天的知識能力
ノ論斷或ハ望ミサル者ニシテ第二ニキ形而上學ニ不幸ナル也觀テリ何者吾人可能
ル經驗ノ限界ヲ超越シ得ストイフニ至リ斯學ガ始ナリ關係ニル對象ヲ貫ナラシムル能ハ
是ニ於テカ吾人經驗ノ假定ハ真相トシテノ對象ニ致セズ現象トシテノニ符合スストイフニ違ハ
カクナレバ批判的探宄ノ結果ハ消極的ナル如シ雖モ經驗外ニ出ル法則ハ理性ノ領域ヲ
廣ルニ非ズシテ却テ之ヲ狭ルヲ知ハ積極的ノ結果ヲモ得バラン歟今神思儀スル
ガ又^{カク}ガストスルモ批判ノ結果ハ道德ノ矛盾ヲ避ケ信仰ヲ確固ナラシメ得ベキハ是ナリ之
純粹理性ノ批判ナリシテ斯學ガ進歩スヘイトイフニ固ヨリ獨斷見ニ過キズ斯學ガ第一基
礎ハ誤謬ヲ生ズル根本ヲ遮斷スルニアリ純理批判ハ經驗ヲ獨立シタル先天的知識ヲ
求ルル範圍ニ於テ一般理性能力ヲ批判セントスリカクシテ知識ノ範圍限界ヲ定ム
ヲ得ハ無用ノ爭論ヲ杜絶シテ當ニ進歩ヲ見ルベキ也

序說

第一ニ先天的知識ノ存否ナリ時次序ヨリハ經驗ニ先ツ所ノ知識テラス吾人知識
ハ勿論經驗ヲ以テ始マレトモ決シテ之ヨリ生ズルニ非ズ抑モ經驗ト呼フ者ノ中ニニ要素
アリ一感覺ノ印象ニリテ受テ他ニ此場合ニ於テ知識ノ能力ニリ自ヨリ供給スル者ナ
リ是ニ於テカ經驗若クハ感覺ノ印象ヨリ獨立シタル知識ノ存スルヲ見ハレシ之ヲ先天
的ト呼ビ他ノ經驗ヨリ來ル後天的モト相別ツ

先天ノ標準タルモノ第一必然ニシテ此如シトイフミナラス之ヨリ他者タルヲ得ズトイフ第二
普遍ニシテ觀察セシ範圍ニ於ケル比較的ノモノニ非ズシテ絶對的普遍ナリ而シテ吾人
知識中確實ナル普遍性ヲ有スル先天的判定ノ存スル一因ヨリ明ナリ

而シテ之ニ種ノ知識アリ可能經驗ノ範圍ヲ超越シ其外ニ判定ヲ廣メントスル者不確
實不注意ノ虞ナキヲ能ズ而カモ亦奈何トモルンシ神靈自由不滅ハキ是レ專ラ純粹理
性ヲ以テ探究シ萬有ノ本源ヲ解說セトスル形而而上ナ則チ然レリ古來狐狸躊躇餘
爲ニ先天的知識ノ存否ヲ問ヒ其成立範圍重要眞價ヲ決セントセシ亦怪シムキ非
ズ而シテ之ヲ知識ノ一部ナル教學ハ已ニ確實トシテ定マラレバ今更特ニ他ヲ疑フキニ非サ
レ凡例ニ實驗外ニ出ルモ必ズシモ撞着ストムハト唱フルル念熾ニシテ明ニ撞着スルモ之ヲ
止ル能ハサルヤリ然レモ亦方法アリテ之ヲ解シ得ルヲ教學者之ヲ證ス

知識ノ擴布ニ制限ナシト思惟スルニ非ナリ最モ確實ナル解析ナレトモ又タ一種アリ
ニ法アリハ審位ガ主位中ニ在ルハ一外ニハ前者ハ解析後者ハ綜合ナリ解析ニハ
主審兩位同一關係ナレシ綜合然ラス前者ハ解明的ニシテ後者ハ擴張的ナリ而
シテ經驗判定ノ眞性質ハ固ヨリ綜合的ナリ然レモ先天的綜合ニテ之ハ經驗ヨリ一輔
助ヲ借ル得ズ然ラス如何ニ他ヲ支持ニ依持スベキヤ是レ吾人研究スル問題ナリ而
テ先ツ之ニ此種知識ノ可能ナルヤ否ヲ檢査セシ

教學判定全ク綜合的ナリ教學者說明ノ矛盾原理上起レモ之ニ依テ眞
理タルヲ證スルニ非ズ眞正教學判定ハ經驗的ニテ常ニ先天的ナリ經驗ヨリ來
ラスレテ真相ニ於テ必然ヲ有ス假ニ純粹教學ニ限ルトシテイシニ七ニ五ヲ加ヘテニナルハ
一階解明的ニシテ七及五和テフ概念ヨリ來ルカ如シト雖モ七ト五和テフ概念ハ兩數結
合觀念ニシテ果シテ如何ナル數ナルヤヲ知ラス知識補助ニテ五指ヲ指サシテ七ヨリ發シ
單位單位ヲ重テテ五ヲ加フルヲ要ス故ニ算術命題全ク綜合ニシテ猶ホ大數ヲ以テセバ

愈明たし純粋幾何學ノ命題モ然リ直線ヲ觀念ハ性質ニシテ分量ニ非ズ
概念ヲ分析スルニ知識ハ生ズ知識綜合ヲサレテ其ニ點間ノ最短距離ニ知
ル

物理學ノ原則モ亦先天綜合的命題外ナズ今度ニ條判定ヲ引用スル得
物質變化ハ其量常同シ二動ト反動ト常同シ前者ニ於テ物質概
念ハ空間中ノ生存ヲ表彰スルニシテ永久ヲ觀念ヲ含ズ今度量ニ於テ永久ト
イハ初メ考察セザリシ新性質ヲ附與シタルハ故解析的ナズ先天綜合的ナリ
後者モ同シ

形而上學ニ至リテ古來未ダ成功ヲ見ズト雖モ其目的ハ疑モテ先天綜合的知識ヲ
得ントスルニ在リモ心中ニ先天的ニ存スル者ヲ細分スルモ得ラズ前ハ保タレザリ或
者
先天的觀念ニ附加スル判定アルヲ證スルヲ要スナリ例ヤ世界ガ絕對的起原者有
ヤトイフナリ問題ヲ解セバ同時ニ純理ガ理論先天的知識ノ諸科學ニ對シテ如
何ナル部分ヲ占ムルヤヲ探究スルヲ要ス故又下ノ二問ニ答ハサルハ如何ニシテ純
數學ハ可能ナルカ如何ニシテ純粋物理學ハ可能ナルカト云フ者是ナリ
二學科ハ現存
確立スル故ニ其可能ヲ證スル傾ル公平ナルヲ得ベシ然レモ形而上學ニ至リテハ組織
未ダ完成セザリテ存在トイフヲ得ズ故ニ其可能ナルヤ否ヲ疑フ唯ハ人ガ之ヲ求メント
自然ノ傾向アルヲ見レハ斯學ノ生存ヲ謂フニ庶幾カサレド其古來成功セザリシヲ
見ルニ是ハ未ダ満足セザリ

理性ノ對象ヲ知り得ベキヤ其性質ヲ斷定スルニ適スルヤ將ヲ確信ヲ以テ之ヲ經驗
外ニ擴ハキヤ吾人ノ之ニ答ハサルハ故前問題ハ先ツ下ノ者ヨリ始ルナリ
形而上學ノ科學ハ可能ナルカ形而上學ノ所論ハ免レ角其成立如何ヲ探究セ
ントス純理批判結句必然的ニ科學タルヲ得ベシ而シテ從來純理獨斷的

用法批判ナクシテ無根據ノ断定ヲナシ他ト相爭ヒ常ニ懷疑ニ陷ラントセリ今ヤ
當ニ其弊ヲ矯正救済スベキ也

純理批判ノ觀念ハ上記ニ所略ボ之ヲ知得スベシモ、談理ニ非ズシテ批判ニ
知識ヲ擴張セントスニ非ズ理性ノ本性ヲ詳明シテ誤謬ヲ避ケシメトス其價值
ヤ全ク消極的ナリ且夫レ先天的知識ノ對象ヲ以テ占斷サケルモノ非ズ先天的
可能ニ範圍於テ對象ノ知識ヲ得ラルベキ方法ヲ以テ占斷サケルモノナリ故吾
人研究目的ハ先天的知識ノ價值ヲ試驗石ニ供スルニナリ之ニ由テ超絶的哲學ハ
確立スレ固ヨリ先天綜合的知識ノ完全ナル探究ニ要スベキ者ノ外解析ノ勞
ヲ取ルナケレバ道德^{倫理}基礎的^{基礎}の概念如キ先天的トイハ快樂苦痛希望傾向等
經驗ヲ起始トスル概念ト關係スル故ニ超絶的哲學ノ一部分トシテ論サルヲ得
ザルナリ

要素論究

先天論理學

先天解析論(範疇) 如何純粹物理學可能トセ
先天辯證論(アンチノミー) 如何形而上學可能トセ

方法論究

先天感性論

知識ノ根源ニアリハ印象ノ形式ニ於テ觀念ヲ受ケル概念ノ自然能力ニ對象
知ル寫象ト概念ト是ナリ凡ソ知識ヲ得ントス兩者相離ルヲ得ズ感覺ノ含
ムト否トナリテ兩者又ク純粹ト經驗的トニ分ル得レ故ニ純粹寫象ハ有限對象
カ知覺サルベキ形式ヲ保ツ純粹概念ハ一般對象カ思想トルベキ形式ヲ保ツ純粹
ナル者即チ先天的ナリ
感性ハ印象ヲ受クベキ者ニシテ悟性ハ思想ヲ生スベキ者ナリ兩者輕重ナル所ナシ内

容ナキ思想ハ空虚ニシテ概念ナキ寫象ハ曖昧ナリ兩者合ヒテ知識始メ生ス
而シテ兩者ノ能力ヲ混スヘカラス (カントハ之ヲ先天論理學ノ終極ニシテトシタレトモ今便ナルヲ以テ此處ニカニモ一シラン)

感覺力ハ感性ノ感情ニシテ對象ニ依テ印象ヲ受クン能力ナリ感覺ヲ穿通シテ對
象ノ關係ニ寫象ノ經驗的寫象ト呼ビ此ノ如キ對象ノ未カ決定セザルモノハ現象トイフ
現象中ノ元素ニシテ感覺力ト相應スルモノヲ物體ト名ケ現象ノ種々ノ配置ガ他
關係ニシテ整理サレキ形式ト稱ス感覺力ガ自ラ次序形式ヲ與ルヲ得ズ現象中
ノ物體ニ至テ後天的ナリ然レニ形式ハ先天的ナラサルヘカラス

感覺ノ純粋ナル形式ニ純粹寫象トモ呼ブベシトモシテ 形體ニシテ考ヘ及ブキモノ萬
種ノモノ 物質力ガ分解性不可控性硬性色等ヲ除クハ殘ルモノ伸張ト形像トノ二西
者ニ純粹寫象ニ屬スルモノニシテ感性ノ形式トシテ先天的ニ心中ニ儼存スルニ感性先天
的原理ノ科學者即チ先天感性論ニシテ純粹思想ノハ先天論理學ナリ

ツルモノ即チ現象ノ形式ニシテ感覺ガ先天的ニ生スベキ第一ノ要素クルヲ知ルベリ此ノ如キ
感覺的寫象ノ形式ニ三種アルヲ認ムベシ 空間ト時間ト是レ

空間及時間ガ吾人直覺形式ナリハ容易ニ證明カレハフマテノ經驗的内容ニ獨
立シテ思索シ得ベキヲ見ルベシニ經驗的内容タルハ吾人感覺力并悟性ノ目的物
ニシテ空間及時間ナクンバ考察シ得サルモノナリ 誠ニ空間及時間ハ經驗的直覺
境遇 コンテクスト ニテ固ヨリ經驗ノ前ニ在リ即チ先天的ナリ而シテ當ニ先天的ナルモノナラズ又ク概
念ナクシテ純粹寫象タルヲ理解スルノ頗ル重要事ニ屬ス形而上學上之ヲ說明スルニ四
法アリ (カント其著者ニ於テ空間ト時間トニ分ケ量度ツラシメテ論ジタレハ證明方法同)

空間及時間ノ形而上學上ノ說明

一、時間ハ經驗ニ依リテ抽象サレル經驗的觀念ニ非ズ或物ノ重合連續ヨリ抽象セ
リトスモノアリ然レトモ重合連續ハ固ヨリ時間ノ決定所ニシテ詳言スルニ時間アリテ後

初ヲ能クスナリ故ニ吾人ハ直覺ノ連續ヲ判定スル爲ニ其前ノ時間ノ觀念有キベク
空間ニ於テモ亦然リ分離集復ノ如キ断定ヲ抽象サレタリトモハ認テリ故ニ一般現
象ヲ知覺シ經驗ヲサシ爲ニ首ニ空間及時間ノ觀念ナカレバカス空間及時間
ハ吾人抽象ノ結果非ズシテ各部寫象ニ必要ナル條件ナリ空間外部ノ時間内部
ニ吾人ハ時間中ニ起リシ萬般現象ヲ考ルヲ得シモ時間ノ者ヲ直覺ニ撰
出スル得ズ換言スルバ現象ヲ離レテ時間ヲ考ルヲ得テ其反對ニ可能ナズ同様
ニ空間ニ就テモ言ヒ得ベシ

三、時間ハ進歩的或一般の觀念ニ非ズ何者一般の觀念ハ常ニ抽象的ニシテ
即チ要素ヨリ造ラレシ者ナリ然レモ時間ヲ抽象スルニ可能ナズ唯ダ一時間在リ
時間ノ各部分ノ要素ニ非ズ唯ダ一般時間ノ限界ニ所謂進歩的觀念ハ部分的
觀念ヲ豫想ス而シテスノ場合ニハ反對シテ時間ノ部分ナルモノハ一般時間ノ觀念ヲ
觀念ナリ

四、時間ノ特殊ナル分量ハ一般時間ノ限界ニ過キス時間固ヨリ無限界ナル觀念
ナリ是レ概念ニ非ズ直覺即寫象ノ如キ證左ナリ空間亦然リ

空間及時間ノ超絶的證明

超絶的證明ハ如何ニシテ原理ヨリ他ノ先天綜合的知識ヲ説明サルヤヲ尋究スルニテリ
之ヲ爲サンニハ問題トシテ原理ヨリ推得セシ綜合的命題アルニハ命題ハソノ原理
ノ説明ヲ採用サルハ推及サルベキトシテ證明セザレバカス

幾何學ハ空間ノ性質ヲ先天綜合的ニ断定スル一科學ナリテ科學ノ知識可能ナルニ
ハ空間ノ性質イカニシベキ吾人根本的知覺ノ寫象ノ要素而シテ與ヘシクハ概念
解析ニテ得ラレサル故ニテ寫象ハ先天的ナルベシ又チ對象ニ前定タルベク中ニ概念ハ
先天的ニ断定サルベキ外面的寫象イカニ心中ニ有リ得ベキトイフニ寫象ハ外部感

覺ノ普通形式ヲ云可ナリ故ニノ説明ハ先天綜合的知識ノ二方法トシテ幾何學
ノ可能ヲ明晰ニスルナリ

時間ノ關係或ハ一般公理ヲ斷定スル確乎ル原理ハ時間ガ萬般現象ノ必然生成
的境遇ナル故可能ナリ時間ニダイナミシムルハ並存ヲ得ズ聯統アルル又クミ
運動即チ轉移ニ含有スル變化ハ時間ノ觀念ヲ待テ初メテ悟覺シ得ベシ即チ
時間ガ内部ノ先天的寫象ニ非ザル能ハザルナリ

以上詳説モ見解ヨリシテ左ノ重要ナル推論ヲ導キ得ベシ

推論

一、空間外部感覺ハ時間内部感覺ノ形式ナリ外部感覺ニハ外界ノ對象
ヲ認メ内部感覺ニハ内界ノ狀態ヲ知内外トイフ知覺ノ起ル靈魂ノ作用ナリ
スル知覺ハ心理的生活ノ形式トシテ時間ノ念ヲ脱スル故ニ空間ハ外界現象ノ形式
確ク有セズ外物知識ノ境遇トシテ空間及時間ハ主觀者ヲクシテ實在ヲ有セズ因ニ感
覺上寫象トシテ之ヲキハ直覺ナク經驗可能ナク換言スルハ空間及時間ハ經驗ノ方
面ヨリ見ル時實在ナリ

二、之由テ空間及時間中ニ表顯スルモノハスベテ真象ニ非ズ真象存在ハ否定スル
ハト雖モ感覺上ノ世界ニ起ス即チ吾人ノ感覺ヲ以テ真象ヲ知悟スルノ能ハズ吾人
ハ自ララダニ真象トシテ知テ現象トシテ知ルル

結論

先天感性論ニ於テハ超絶的哲學ノ一般問題(如何ニ先天綜合的知識可能ナルヤ)ノ解
釋ニ於テ要スル要素ノ一ヲ有セリ此如キ問題ハ純粹寫象タル空間及時間ノ上ニ
アルナリ先天的判定ノ與(ミル)概念外ニ赴カンニ概念中ニ保タレズ而カモ之ニ應ズ
寫象中ニアルモノヲ要ス然レ此如キ判定ハ寫象上ニ根據シ感覺ノ對象外ニ

伸張セズ故可能ナル經驗對象ニ向テ正確ヲ有スルナリ

附記

カントハ時間ガ經驗方面ニ於テ之ニ實在アリトイヒテ他ノ駁論ト答テ異ギ、對象ノ真象ヲ知ルハ
カントハ、空間時間ニ關係シテ神ノ一ヲモ附註シタレドモ重要ナラカルヲ以テ省略セリ、

先天論理學

先天感性論ニ寫象ヲ論シタレドモ吾人知識ハ寫象ガ概念中ニ齎ラサレテ後始
テ可ナラ故ニ、概念ヲ論セントス先天論理學是ナリ

寫象ノシト異ナレト對象ニ關係シテ先天的ナル概念アリ純粹思素ノ能分ルル
概念ガ經驗的即感性的起源ヲ考テ純粹悟性及理性ノ科學中ニ入ルル其
目的ハ全ラ先天的ニ對象ヲ考察シテ得ル知識ヲ探究セントスナリ即チ概念ノ起

ニ悟性ニ根源ヲ有スル知識ノ要素及原則ヲ論究スルモノ、即チ純粹概念ガ寫
象ニ關係シテ働ク時ノ一ヲ考察スルモノ、先天解析論トイヒ、悟性ノ純粹知識トシ
原則トシテ經驗外ニ通用セントスルニ主リ誤謬ノ傾向アリ因テソノニ妥當ヲ批判
シテ之ヲ統破セントスルモノ、即チ純粹概念ガ寫象ニ關係スシテ働ク時ノ一ヲ考察スルモノ、
先天辨證論トイフ、

先天解析論

先天解析論ハ第一ニ概念ヲ論シ第二ニ判定ヲ論ズ

第一、概念ノ解析

(一) 以テ純時發見ノ端緒

悟性知覺、無感性能力ナリ、今夫感性能力、バ寫象ヲ得ズ故ニ悟性ニ道ナル、知識ハ概念ノ方法ニテ得ラレタルモノニシテ、知覺的ニ推及的ナリ、寫象ハ感情ニリ、概念ハ能ク成ル故ニ前者ハ印象ノ受納ニシテ後者ハ思索ノ隨意ナリ、而シテ悟性ノ判定ノ能力ナリ

コトニ普通論理學ト先天論理學トヲ比較スルニ前者ハ内容ヲ考ヘズシテ形式ニシテ論シ後者ハ經驗的寫象之ヲナルモ純粹寫象ニ關係ス、普通論理學ハ判定ノ能ク形式ヲ論シテ誤ナシ是ハ以テ超越的概念ヲ發見スルノ關鍵タルヲ得

先ツ普通論理學ニテ形式ヲ論スルヲ見シニ主賓兩位ナリ主ハ量賓ハ性質ニシテ合シテ命題トス、關係ナリ、論斷ノ正否ヲ論スルハ主觀ニシテ法式是ナリ

Universal Affirmative Categorical Propositions

ナズニテ先天的ニ多數が與ヘタルハ綜合純粹ナリ、綜合ハ一般想像力ノ働クニ導カル、ハコトニ綜合ラ概念上ニ齎スル悟性能力ナリ、而シテ知識ヲ得ルナリ、純粹綜合ハ見上悟性純粹概念ナリ、綜合ハ先天的綜合ノ合一ニ基礎ヲ有ス、先天論理學ニ於テハ觀念ノ純粹綜合ガイカニシテ概念トスルヤヲ研究スル、凡ソ對象ノ先天的知識ノ要素トスルニツアリハ純粹寫象ノ複雜ナル内容ニ想像力ニリ、コト内容綜合ニ悟性ニヨリテ、純粹綜合ニ合一ヲ附與ス

悟性ハ概念ノ解析的合一ヲ與ヘ又ハ知覺ノ複雜ナル内容ノ綜合的合一ヲ與フ、純正概念ハ先天的對象ニ適合シ、普通論理學ニテ論セザルモノ、悟性ハ純粹概念ニ數ハ前表判定ノ論理上能力ト同シ、アリストル以後之ヲ範疇トスル、今方法結果ニ於テ異ルモノアレトモ稱呼仍ホ舊ヨニヨル

量分	Unity	質性	Reality	係關	Inherence & Subsistence	
	Plurality		Negation		Causality, Dependence	
式法	Totally	Limitation	Community	Possibility -	Impossibility -	
	Existence -					Non-existence.
	Necessity -					Contingency

表中注意すべき二事項あり一四群三分べし前者は知覺對象純粹ナルト經驗的ナルト共ニ好シ後者ハ悟性ニ關係シテ對象ノ存在ヲ究前者ハ數學的後者ハ力學的ナルト
 二各群中ニテハ先天的分類ハ兩断法ニヨリカルベシ第三第六第二結合ヨリ生ズ

二 範疇ノ演繹

コト事實論ニミテニ權利論ニ概念中ニ在ク先天的ナルモノアリ勿論演繹ヲ要ス概念ガ對象ニ關係スル方法ノ說明ハ超絶的演繹ト呼ビ經驗的演繹ト別ツ前者ハ概念ヲ用ニテ知覺スル境界ヲ示ス如何ニシテ思索ノ主觀的境遇ガ主觀的確實ヲ有スルヲ超絶的演繹ハ次ノ法則ヨリ導カレテ要ス此等概念可能經驗、先天的境遇ヲ示スルベシト
 解析ハ演繹ヲ以テ完成スル概念ノ說明ハ概念ガ對象現象トシテ知レタル經驗ノ元始的境遇ニ非ズトスル現象ニテハ關係ヲ理解シ難キト主シ

經驗ノ先天的境遇

範疇ヲ令シテ一對象ガ考察カレテ不適當ナルヲ證セバ範疇ノ十分ナル演繹ニシテ通用ノ確證ナルシ演繹ガ確實ナル理由ニテハ一對象ヲ考察スル悟性以外能力ニトモニ働カシメテ悟性が實在的對象ノ知識ノ境遇ヲ示スルヲ證ス故ニ主觀的活動性ノ考察ヨリ始ルベカラズコレハ經驗的ナラズシテ超絶的ナルベシ知覺ガ反作シテ分離スルハ知識成ラズ故ニ感覺寫象ノ綱要ト呼ビ其内容ノ複雑ヲ表シ其中ニ或ル綜合的包含セル自然能力ガ受納性ト連結スル知識ガ可能ナルヲ注意スベシ之由

知識中ニ三段綜合アル見ベシ三者知識ノ根源ノ指定シ悟性能力ヲ可能トシ
經驗之ニ由テ悟性ノ經驗的結果トスルヤキリ三者何ゾ次ニ之ヲ分テ論ズベシ

第二ニ寫象中理會綜合、觀念ハ本源如何ニ拘テ心ノ變形タル以上内部感覺
ニ隸屬スレシ而シテ皆時間ニ屬ス時間ノ知覺ヲクシテ寫象存トイフヲ得ズ單下ル瞬
時ニ限ルハ絶對單獨ノミ合テ造ラシニ心中ヲ走リ又合セサルベカズ之ヲ理會綜合
トイフ

第三ニ想像力中再現綜合、觀念連合ハ經驗的法則アリ再現、法則ハ現象が現
定ニ從テ豫想セラレシノ分子ガ前後聯關スルイフアリ然レモ或想像ニ於テ經驗的想
像ガ性質適應シテ再現能ハサルモアリ固ヨリ必然ナル綜合的合一ノ先天の根據
タルモノナルベカズ現象ノ真象ニ非ズ觀念ノ所屬シテ内部感覺ノ斷定ナル尙想ニルキハ
愈明タルベシ今モ純粹先天的知覺ガ知識ヲ與フトイフヲ證セバ想像綜合が經

ヨリ去リテ後部ノ斷定ニ至リ再現セサルハ全體ヲ知覺スルニ能ハズ故ニ簡單ナル觀念ヲ
モ生セサルニ再現ノ綜合ハ悟性ノ綜合ト親密關係アリ彼レハ先天後天ニテ知識ノ可能
ヲ證スル先天的根據ナレバ此心ノ先天的能分ナリ故ニ想像力ノ先天的能分ト呼ブベシ

第三ニ概念中再認綜合、今見ルモノト一瞬間前ニ見タルモノト同一ナルヲ知覺セサル觀
念ノ再現モ無用タルベシ與ニシテ一瞬間ニ於ケル觀念ハ全新シキモノナリ故ニ同一テテ知
覺ナクシテハ連續ヲシテ全體ヲ造ラシ能ハズ故ニ再認綜合ハ必須缺クベカラルモノナリ
概念ナクシテハ知識ナレシ而シテ概念ハ形式ニ於テ普遍的ナリ必然ナルモノハ基礎ヲナスモノハ
常ニ起絶的境過リ故ニ各寫象ニ包含セラル種々ノ斷定、綜合中ニ知覺ノ合一ノ
起絶的基礎ナルベカズニ基礎ハ萬種對象ノ概念ニ必要ニシテ經驗ノ概念ニ必要
ナリ他方法ニ於テ寫象ニ對シテ對象アルニ能ク何者對象ハ或者々外ナラズシテ概
念ハ綜合ノ必要ヲ合ハナリトテ起始起絶的境過リ即チアバーセフシニ自覺ニシテ内
主觀的綜合

部感覺、經驗的自覺ナリ故ニ自覺ニ純粹元始不變ノ知覺ニシテ空間及時間
關先天的概念ト雖モ寫象ガ關係ニハ範圍ニ於テ可能ナリテ自覺ノ數的合ハ
テノ概念ノ先天的基礎トシテ空間及時間ガ種々感覺寫象ノ先天的基礎元ト同
經驗ニ集メタル現象ヲ聯結シ規定下ニ隸屬セルハニ自覺ニシテ超絶的合ニ
因ル而シテ是レハ此働作ヲ能ク同一ノ心カ知覺シタルニ同ハ元始必然的知覺
ノ概念ニ從テ同時ニ現象ヲ綜合ニ於テ必然的合ノ知覺ナリテ概念ノ現象ヲ再現
ヲ能クシテ寫象ヲ對象トシテ斷定スルニ必要ニ法則ナリ

之ヲ要スルニ概念トナルヲテノ三段綜合ハ合セズバ知識成ニス何故ニ三者合ニスヤト
イフニ現象ノ關係スル故ナリ對象或者ナルニモセヨ意識中ニ入ルヲ要ス而シテ
三者ノ意識ニテ維持スルナリ即チ主觀的タル要ニ者中ニ數的合ニテアリニ始
メテ可ナリ之ニ知覺タル者ヲ名テテ超絶的自覺トスナリ(カントハ之ニ對シテ駁論ヲ擧ゲテ

余ハ考フコトナリ然レ他ノ觀念ニ伴フニ寫象ノ斷定主觀ニ於テ之ニ必然的關係アリ而
シテ之ニ感性ニ導カサル自然ノ働作ニシテ純粹自覺ト呼ビ起始的自覺ト稱ス自覺合ニ
テ超絶的合ト名ルハ先天的知識ノ可能隸屬スルヲ表顯セントスベシ寫象中ニ與ヘシ
ク斷定ニ關シテ自覺ノ絕對的合ハ斷定綜合ヲ包括シタル綜合ノ意識ニ關シテ能
ク經驗上ノ識ハ單位ニ分レテ主觀ニ關係シ又單一主觀ニ關係起ラスニ斷定ニ他
カ(綜合ノ働作ヲ知ルキ起ル識)同ナルヲ知ルハ一識ニ他種ヲ斷定ヲ連結シ得ベキ故ナリ自
覺ノ解析的合ハタル綜合的合ヲ豫想シテ後可ナリ斷定ヲ寫象トシテ識トスル同
ニハ自ラ斷定ノ識ヲ含メテ未識ノ可能ヲ豫想ス斷定ヲ吾レトイフハ之ヲ識ニ把握
得ベキ故ナリ此等綜合的合ハ先天的ニ與ヘシ自覺同一ノ根據ナリ自覺同一ハ萬般
知識ノ最高原則ナリ

感性ニ關係シテ寫象ガ欠クハナリ寫象ノ斷定カ空間及時間ノ最高原則形式

下ニ齎ラセリ、トシテ悟性ニ關係シテ寫象ガ欠クカサルハ寫象ノ断定ガ自覺綜
合的合ノ下ニ齎ラサル、カ故ナリ前者ニ寫象ノ断定與ル、ト後者ニトテ意識中
ニ連結セル故ニ後者ナクシテ知識全ク成ラズ、ト綜合感覺寫象ヨリ獨立シテ悟
性ノ純粹用法ノ最高境遇トシテ結合ノ動作同時ニ識合ナリ、識ノ綜合的合ハ
テ知識ノ客觀的境遇ナリ、對象ヲ知ルニテトテ表顯セル前ニ寫象ガ起
ルニ境遇ナリ

自覺ノ起絶的合ハ寫象ニ與ルニ断定ガ對象ノ概念ヲ結合セル合ナリ、故ニ客觀
的トシテ内部感覺ノ断定ニ識ノ主觀的合トシテ故ニ識ノ經驗的合ハ現象ナリ
偶然的ナリ、然レモ時間中寫象ノ純粹形式ガ必然的ニ自覺ノ關係セルカ故ニ識ノ起絶
的合ノ下ニナリ、故ニ悟性ノ純粹綜合ノ方法ニテ經驗的綜合ノ基礎セル起絶的合、
下ニナリ

合ニテ生ズカクシテ客觀的確實ハ之ナリ

範疇ノ適用

寫象ニ與ルニ断定自覺ノ起絶綜合的合ノ下ナリ、他寫象ノ合ニ可能ナラザルナリ
断定ノ一識ニ與ルニ悟性ノ動作ノ概念ト寫象トヲ問ズ、ト自覺ノ下ニ齎ラセリ、判定
ノ論理的能合ナリ、故ニ經驗的寫象ニ與ルニ要素ハ一識トセル範疇ノ判定能
合ナリ、故ニ寫象中ノ断定ニ範疇ノ下ニ在リ

考察知ト異ナリ、知識トイハルニ要素ナリ、ト一般對象ガ考ヘルニ概念即範疇
ニ對象ヲ與ル寫象、是ナリ、寫象ノ感覺ニ得故ニ一般對象ノ悟性ノ純粹概念
（即名範疇）ニテ知識トナリ、得範疇ノ經驗的對象ニ適用スル外他ナリ、知識ニ與
ルニ換言スルニ範疇ノ經驗的知識ノ可能境遇ナリ、對象ノ知識ニ於テ與テカナリ、空間
間及時空中モハ經驗的觀察ニテ變ニ與ル、但レ悟性ノ純粹概念ハ先天

的寫象ニ適用セルモ知識トスル經驗的寫象ニ適合タルモノ知識タリト前述セカ
如

以上悟性純粹概念ヲ對象ニ適用スルハ限界ヲ示シタリモニシテ頗ル重要ナル事ニ
屬ス感性的純粹形式カク空間及時間ハ經驗ノ内ニ限リ是ハ自由シテ如何ニ種
類寫象ニ播布スルニ然レモ亦感性的外ニ進出スルハ對象ナキ以テ空虚ナリト時
存スル形式ノ唯カ吾人感覺經驗的寫象ガ意義ヲ實在トスル見ルノ感
覺ニシテ寫象アルハ空間及時間ト關係ヲ發見スル能ク内容ヲ知ラサル以テ實在
的ノ知識ヲ得ズカリテ對象ノ可能ヲ解セズカ範疇ヲ適用スル能ク主觀的ニ存在
モ物質的ニ存在スル得ズ

悟性ハ感覺ニテ寫象ノ對象ニ純粹概念即範疇ヲ適用スルヲ得テ概念ノ思索
ノ形式ニシテ形式中ニ包含サレタル綜合ハ自覺ノ合ニ關テ悟性ハ自覺ノ綜合的合ニ
感覺寫象ノ單位ノ綜合ノ形像的綜合トシテ寫象斷定ニ適用ストシテ範疇中ヲ考
ヘシタル心的綜合トシテ兩者トモニ先天的知識ナラシムル以テ起絶的ナリ前者又々自
覺ノ綜合的合ニ關シテ心的結合ト區別シテ想像力ノ起絶的綜合トモニ誠ニ想
像力ハ概念ニ應ズル寫象ヲ與ヘ現出スル感覺ニ隸屬シ一方ヨリ見ルハ先天的感性ヲ
斷定スル能力ナリ純粹寫象ノ綜合ハ寫象ガ範疇ニシテ一致スル様ニ故カテ想像力
ノ起絶的綜合ヲストスルナリ心的綜合ハ想像力ヨリ離レテ悟性ニ導ク故大差アリ
想像力ハ天成ノ活動力ニシテ生産的想像トシテ聯想ノ法則ニ循從シテ綜合スル所再
生の想像トシテ後者ハ先天的知識ノ可能ヲ證ス補助トナス斯學ノ範圍外ニシテ心
理學ノ研究ニ屬スル者ナリ

今ヤ去テ範疇が經驗中ニ適用サル、起絶的演繹ヲナシカ範疇ハイカニシテ感覺
ガ現實ニ觸動スルハ知識ハ先天的對象ヲ知ルヲ可能トス又即チ對象ノ結合ガ決

行サレタル法則、先天的知識カヨリカニシテ存スルヤトイフニアリ。第六、理會ノ綜合ナリ是ハ外部寫象形式ニ致ス空間及時間ハ形式ナルト同時ニ寫象ナリ而シテ綜合ハ經驗可能ノ境遇ニ於テ時下ニ在リ故ニ經驗對象ノ先天存ス自然^{ナラニ}カヨリカニシテ負^ツ存在^スヤイカニ現象ノ結合ヲ先天的ノ斷定シ得ベキカ其證左ノヤシ

現象ハ主觀ヲ離レテ存ス主觀ヲ離レテ現象中ニ法則ナシ真象中ニ法則アリシモ知ル^クモアラズ現象ハ物カ知覺ノ見ニ方法ニシテ真象ヲ示カズ故ニ結合^シ法則ニ從ズ結合能力依テ直セタルモノニ從テ想像力カ結合スルモノナリ現象ノ範疇ニ結合ヲ存ス範疇中ニ自然必然的法則ノ組織トシテ悟性ニ關シテ根據ト本源ト有ス

純粹悟性ハ空間及時間中ニ一般對象ニ適在スル外現象ニ先天的法則ヲ與ヘズ特殊法則ハ全ク範疇ヨリ來ニス之ヲ得シハ經驗ニ因ミタルカラス悟性ニ因テ與ヘシ法則ハ經驗ニ必要ナルモノ經驗ノ對象トシテ知ルベキト示シテ謬ナシ

「能ク寫象ノ感覺性ナリ故ニ知識ハ寫象中ニ顯サレ經驗的ナリ經驗中ニ得^ルベキ對象外先天的知識ナシ此ノ如キ^{經驗}對象ニ限ル^ル故ニ經驗ヨリ生ズ純粹概念ノ寫象ノ知識ノ要素ナリ先天的ノ經驗ノ下題カ概念ト一致スルヲ據スルニ法則ハ經驗カ概念ヲ可能トセタルベカラスニ概念カ經驗ヲ可能トセタルベカラス前者ハ範疇ノ性質ト合^スガレ後者ヲ取ル^ルニ範疇ノ悟性ヨリ生シ經驗可能ノ基礎ヲ供ス者ト謂フベシ

範疇演繹ヲ簡略ニ指言スルニ次如シ、吾人カ前ニ證セシ者ハ先天的知識ノ基礎悟性ノ純粹概念カ經驗ヲ可能トス唯一ノ原則ナルニ是ナリ換言スルニ空間及時間中ノ現象ノ一般斷定ノ原則ナリトイフナリニ斷定ハ空間及時間ニ關係シテ悟性ノ形式トシテ自覺ノ起始的綜合ニ合一ヨリ出テタル感覺ノ起始的^{形式}ナリ

第二 判定、解析

先天論理學、他方ニ悟性ノ概念正確ナル用法ヲ示シテ規定ヲ示シタレバ又之ヲ適用スル場合ヲ示サルベカス即チ範疇適用場合是リ故ニ判定、解析ハ之ニ章ニ分ク。一、範疇、悟性、純粹概念ヲ適用スルニ缺クカハル感覺的境遇。二、綜合的判定、悟性、純粹概念カハル境遇ニ來ルハ先天的起リ也、先天的知識ヲ支持スル、即チ純粹悟性ノ原則是レナリ

一、範疇

概念ハ對象中ニ表顯セテ斷定ヲ有セザレバズ、純粹概念即チ範疇タルモノハ經驗的寫象ニ離レテ全ク異ナルモノトナラズ、寫象中ニ實現スルナリ、因果ノ範疇、感性ヲ以テ見ルベキモノナラズ、然レバハカニ寫象ハ純粹概念トナレバキヤ、ハカニ範疇が感性斷定ニ適合セキヤコレニ答フルニ判定、先天的論究ナリコレハハカニ悟性、純粹概念カニ者ナルハカニズ、媒介者ノ觀念ハ純粹ニシテ經驗的要素ナク而カモ同時ニ心的兼感性的タル要素は何者ゾ曰ク先天的範疇

時間ハ内部感覺、種々斷定ノ形式的境遇ニシテ純粹寫象中ニ差異ノ變^{バリエーション}先天的ニ有ス、先天的斷定ハ範疇ト均シク普遍的ニシテ先天的規定トナリ、同質トナリ然レモ時間經驗的ニ知覺スル對象中ニ顯ルル故ニ、斷定、感覺ノ對象ト同質ナリ、時間、先天的斷定即チ範疇ヲテ範疇ハ現象ニ適用セザレバ、換言シテ現象ハ範疇トナラズ、範疇ニ來ルラ得ヘシ

範疇ハ唯ガ想像力ノ生産スル所然レモ想像力之ヲ生スルガ爲ニ寫象中、對象ヲ擱置スルヲ要ス、悟性ノ一般斷定中ニ合フニ成ル故ニ、映象ト區別セザレバ、事實上範疇ハ純粹感性的概念ノ基礎トナリ、三角形ノ概念ハアラユル異種ヲ包括シ、映像個中ニテ顯ルルニ而シテ三角形範疇タルモノハ思索中ニテリ、空間ニ於

純粋形體ノ概念ナリ想像力綜合規定ナリ單一對象ノ映像ハ經驗的概
念ノ普遍ニ達スル時ニ經驗的概念ノ直接關係ノ想像力ノ對象ニテリ大ニ概
念ハ或ハ動物形象ヲ尋求スル細導^{想像}ナルカ如シ然レトモシハ經驗ニ供給スル形體
ニ非ズ又ク可能ナル映像中ニ有形的ニ表顯セズニ現象トシテ純粹形式ニ適用
スル者トシテ心奥底ニテ映像ハ生産的想像力ノ經驗的能力ノ生産所ノ對象
先天的想像力ノ生産所ニテ能ク映像ヲ知覺セム映像ハ對象ノ力ニ因リ概
念ト一致セザルモ又連結スル對象ハ映像中ニ顯ハレズニテ範疇中ニ規定ト一致ス
ル純粹綜合ナリ此レキ範疇ハ先天的想像力ノ産物ニテ内部感覺ノ斷定ニ
亦ク疑フベカラズ今之ヲ各範疇ニ檢シテ其然ルヲ證明セン

現象中ニ感覺ト對應スルモノハ超絶的物體ニ即現實ニトシテ對象ノ實在
感覺ニ時間ヲ充タヌノ度アリ換言スルハ内部感覺ヲ占斷スル完全ノ度アリ降テハ
零ニ至ル故ニ關係ハ實在ナリ否定ニ至ル轉移アリ各實在ヲ量トシテ前出カシム實
在ノ範疇時ヲ充タヌ故ニ感覺ヨリ漸々下降シテ時間中實在ノ連続ナリ否定ガ
有限ノ度ニ上昇ストイフト同シ物質ノ對象ハ時間中實在ノ悠久ノ現象中不
變悠久ノ時間ニ對應スルハ存在不變モノ即物質ニシテ物質ノ關係ニ現象ニ連
続並存ノ時間中ニ斷定サル原因ノ對象他ノ者ニ從ルニテ可能ト想像シタシ實
在ノ故ニ規定ノ連続中ニ存在スル物質ノ關係ハ偶然事頂ニ關シテ物質ノ相關因
果ニシテ他ト共ニ一物質ガ斷定ノ一般規定ニ一致スル並存ナリ可能ノ對象ノ一般時間
境遇ヲ以テ異ラズ觀念綜合ノ調和ナリ確實ノ對象ハ決定セザル時間中存
在ナリ必然ノ對象ハ總テ時間ニ於テハ對象ノ存在ナリ

以上記述所見之範疇之範象皆各時間之關係より分量之對象連続理會
中時間綜合性質之時間ヲ知覺シテ觀察中ニ包括セル感覺綜合關係
ノ時間斷定爲規定ニ致ス關係終リ法式ハ孰カカ何シテ時間ニ屬スレバ
再重關係ナリ故ニ範象規定ニ致シテ時間ノ先天斷定ナリ範疇次序ヨリ
中ノ規定ニ時間連續内容次序理會ナリ

範象想像力ノ先天綜合より出テ寫象ノ斷定カ内部感覺中ニ合ニ導ル方
法ニテ内部感覺受納性ニ對應ス能ナリ故ニ範象ノ範疇ノ對象ニ關係シテ
明確有る唯一真正境遇ナリ結局範疇ノ經驗外適用ル得ズ理會起點的
合中ニテ知覺必然的結合ニ根據有ル先天綜合ノ一般規定下ニ現象ノ結
ス方法ニテ現象ヲ經驗中ニ聯合ニ適用ナラシム也

感性範象ノ範疇現實ニルモ理會外感性中ノ境遇ニ制限ナラズ範象
ニテモ對象觀念合ノ論理的意義アリ然レモ時ノ概念適用スルモハ客觀
的意義ニテ之ヲ要ス範象ニテモ範疇ノ對象ノ知識ヲ與ヘス意義感性ヨリ來
リテ概念ニテ感性之制限シテ悟性ノ實在ニス

(二) 純粹悟性ノ四原則

前章綜合的判定ヲナカニ爲ニ範疇ヲ用テ判定、起點的能力ヲ論リ今モ悟
性ノ先天的ノモノ有テ判定ヲ論ス悟性ノ原則四ナリ範疇ト相對峙ス

(第一)寫象ノ理、スレテ寫象ノ擴張の分量ナリ

證、擴張の分量ノ部分ノ觀念必然的ニ先々後ニ全體ノ觀念ヲ可能ニ直
線ノ觀念既ニ此ル空間及時間ノ現象中ニ要素トシテ顯ル而シテ部分連續ノ
綜合以テ理會シテ知ル、故擴張の分量ナリ形體描成中ニ生産的想像力ノ連
続綜合上ニ幾何學ノ擴張、數學トシテ基礎ヲ設ケリ其心理ハ先天感性

的寫象ノ境遇ヲ表顯シ之ヲシテハ外物ノ對シ純粹概念ノ對象可能ナク此ノ如キ
公理ハ唯ダ分量ニク適用スル長短ニ關シテ公理ナルモ多クハ解析的ニシテ公理トイフ
能ハ先天綜合的命題ニ非サルナリ數命題ニ關シテ綜合的ナルモノナリ然レバ幾何
學ナト異ニシテ普遍的ナク故ニ數公式ト呼ブテ公理トイフ得ズ凡シ數學起
絶的原理ハ大ニ吾人先天的知識ヲ擴布スルニシテ其細微ナルモノモ亦以テ經驗對
象ニ適用シ得ヘシ而シテ是レ議論ノアリシ所現象ノ自ラ物ナク經驗的對象ノ空
間及時間ヲ待テ可能ナリ故ニ幾何學ヲ純粹寫象ニ就テイフ所ニ經驗的寫象ノ
爭論外ニ在リ故ニ感性的對象幾何學的描成規定ニ致スルヲ要セザル證ニシテ
ニ結論ニ導クニシテ規畫ハ拋棄スルニ空間及時間ノ綜合現象ノ理會可能ナシ
ルニシテ外界經驗ノ境遇ナリ純正數學ガ空間及時間ニ就テ論ルモノ必然的
外界對象ニ適合シ得ベキニモ現象即真象トシテ先天的知ルモノヲ綜合的判定
證現象中感覺ノ對象タルモノ感覺如何ノ問及其中ニ先見ト稱スル或ハ先天
的モノナルカニス之ニ依リ經驗ニ對象ニ導カレリ注意ナクハ理會ハ瞬ニテ連続
ノ綜合モナク對象ノ擴張ノ分量モナカレシ又感覺ハ無ハ瞬間ノ識ヲ零トシテ即
經驗寫象中感覺ニ應スル實在的ニシテ感覺ノ尺無ニ應スルモノナクベリ感覺
漸々減定シテ遂ニ見ユキニ至シテ故ニ現象中實在ト不定ト間ニ感覺連続
シテ中ニ差ハ與ヒシルニ感覺ト零トノ差ナリサレリ即チ現象中實在ハ分量ヲ有シ
僅カニ就テ理解中ノ識ナキニ故ニ實在ハ擴張分量外又ハ分量アリ強度ハ分量
中ニ實在ハ感覺或ハ他ノ實在原因トシテ認メラル故ニ又チ運動量ト稱セルニ感
覺即現象中ノ實在ハイカニ小ナルモ亦ニ分量ヲ有シ最チトイフモノナクハ分量此
ノ性質ヲ連続ト呼ブ空間及時間ノ連続的ノ分量ナリ單ニ場所ノ描成的部分非
ス故ニカクハ如キ分量亦流及ト呼ブ萬般現象ノ連続的ノ分量ハ證スルニ法アリ

一純粹寫象トシテ連續擴張の分量ニ感性寫象トシテ連續強度ノ分量是
現象ヨリニ種ノ連續ルガ故ニ變化ノ連續直々ニ數學的ニ證明サルベシ然レトモ
其原因ハ經驗的原則ヲ豫想スルガ故ニ起絶的哲學範圍内ララス悟性モレニ
就テ^{先天的}與ル所アラス常ニ原因ニミナス變化ニ適當ル對象斷定亦然一而シテ吾人經
驗ヨリ此レ得テ斷定ノ原因ガ不變化中ニル一是リレハ可能經驗中ニ合スル純
粹概念ナリ悟性系則ガ感性先見の觀察ヲ適合セシムル證ニ難キニ非ス既
強度ノ分量ナリ無限連續ニ而シテ感性ハ感覺ノ有限受納性ヲ有スト也^現寫象ガ
實在ヲ生ツルヲ證シ得ルヤ明ナリ經驗ヨリテ空虚ナル空間及時間アテ證スル
法モレ何者實在空無感性寫象ヨリ觀察サズ又タコレガ現象中實在度^實變
化ヨリ推論スル得ズレトシテ說明ニ於テ進ハク逼ラレサレ故ニ色味ノ如キ感覺ノ分量經
驗的ニ一般感覺ト一致シ否定反對ニ實在經驗ヲ識リ内部感覺ニ於テ經驗
ニスベテノ感覺後天的ニモ度^度有テ性質モ^モ先天的ニ一般分量就テ單性
質即連續ノ先天的ニ然レ性質即テ現象實在ニ就テ強度ノ分量ニ過クス同
リ先天的ニ

第三經驗ノ類似經驗ハ感性寫象必然の連合ノ意識ヨリテ可能ナリ
證時間ニ法^モ悠久連續並存ナリモ現象ガ可能存在シ時間ヲ合テ一致
ル境遇ヲアラスコト三種類似原則經驗的識自覺必然の合一上在リ而シテ自
覺合ハ寫象スル先天的境遇ナル故ニ原則時間ニ關シテ現象綜合の合一
上ニ基テ元始自覺内部感覺ノ形式ニ先天的ニ關係スル元始自覺中ニ
等斷定時間ニ關シテ結合スル時間的關係中綜合の合ハ決定サレル先天的
ニシテ經驗ノ類似ハ種ノ法則タカハルカラスコト類似ハ特性ナリ對象存在其間
係トモナリ法則綜合特性顯クニミナス又タ寫象トシテ吾人前ニ置キテ現象ノ

綜合カクシテ先天的ニ知能ガ方法ニ物存在知ルモ未ダ何物タルカ知ズ他ト如何ニ異タルヤ斷定スル能カレリニ前ニ法則數學的ト呼ビキモナリ固ニ數的及分量的ニ現象ヲ推度スルヲ故ニ多組成的ニ現象存在カ先天的法則下ニ未ダ法則全ク異リ存在描成カ能カス爲シ得ヤハ存在關係ヲ斷定シ法則ヲ說明スルニ法則ハ整理原則ニ與テ故ニ心理先見ニス或物カ時間中ニ他或物ニ關係スルニ顯ルヤ所謂他或物カイカル者ナラヤ語ルニ可能ナラ言フヤニ寫象關係ニテリ經驗類似感覺觀察カ經驗合ニ導ルニ法則ニモ組成的ニ整理的ニ經驗思案ニ於テモ同シ確實度同シキテ證明種類異ニ哲學證明一般方法トシテ說明カ直接寫象上ニル確實證明カ要然ニ推理的知識場合先觀念ニホキ確實ト雖モ寫象ニ直接適用カ證明得ズ說明カ證論有ルニ數學ニ數學一般有形のモ見

一物質悠久法則現象變化中物質悠久リ而シテ自然分量ニ増減ナシ
證明現象斷定理會連続シテ常ニ變化對象カ常住者ニシテ悠久ニ變化ト并存ト共ニ時間法過クテ悠久中ニ並存連続關係アリ悠久全ク一般ニ考メシムル時間ニシテ之ニ分量ヲ生シ持續リ悠久離レテ時間關係アルベクニ時間自ラ知覺カ能カ故ニ悠久時間中現象斷定カ得ラタムニテリ之ニ綜合的合一カ寫象中ニカナル境過リ並存變化カ不變永存ノ法ナケル明シテ現象中悠久對象自身ニ物質斷定偶有性ト呼ビテ常ニ實在ナリモニ物質中實在モ一存在ノ特質有ラトスルニ附着性トスシ物質存在ヲ生活性ト呼ブト區別アリ出
凡偶有性物質存在カ積極的斷定カク方法トスル更ニ適切ナリ怯性が論理的用法トスルモ境過獨立種類ニ與テ物質カ範疇關係カ範疇中ニテリ何カニ嚴密ニ關係有ラトスルモ猶ホ關係境過トシテリ變化概念カ悠久觀

念待テ解ヤルシ變化は同對象存在他法上ニ從テ存在法ナリ變化はモハ悠
久性ニシテ多ク状態ヲ變ルルニ變化は物質中ニ觀察スルニ絕對終始見ルハカラスハ
悠久斷定ルルニモ絕對起始ハ或者無シキヤリケルカニ空無時間寫象
ノ對象カ能見ルニテ之ヲ連結シモナシ若シタニ物交代トシハ、ニ時間ナルハカニ是
レ可能ニテ悠久現象中ノ物質ナリ實在ナリ變化ノカスラカニナリ常ニ存在ス而シテ物
質ニ生在中變化ニ屬セザル故増減ナシ。

(二)因果連續法則、スレバ變化因果聯続法則ニ致シ起ル。
證、現象斷定理會ニ常連續的ナリ部分觀念ハニ識ニ從テ亦カ
對象ニ從テ異ニスナリ世人識外出ル能サバ觀念ヨリ離シテ真象ヲ知レ
能ク現象ハ真象ニ非サル知識トシテ世人顯サレ唯方法ナリ斷定識理會
中連續的ニ故現象中斷定時間ニ連結スルニカニテ説明スルニ必要ナリ斷定現

真理知識ト對象上致シテ成立ルニ故經驗的真理形式的境遇ヲ考究スル
ナリ對象トシテ現象識狀況連續トシテカニ理會單法カニ根柢ニ於テ理會
ト反對スレ得而シテ現象中ニ於テ理會必然的法則ノ境遇ヲ有スルニハ對象ナリ
翻テハ特殊問題ニ移ランニ事件ノ管現象ヲ知覺スルニ必然的次序ナリ前提
ハ狀況Aハ後提狀況Bニ從テ得ズ反對理會中ニテBハAニ從ヒAハBニ從ズレテ先ダツ
即寫象が理會中ニ相從テ次序ニ定メ法則アリテカニ寫象ヲ脫スルニ得ズ故理會
主觀的連續ハ客觀的連續ヲ生シ任息ナリ而シテ對象中ノ寫象要素間關係
就テカニ所アズ客觀的關係寫象要素が相從テ次序中ニ成立スルカニテ事件理
會其他事件理會法則ニ致シテ從テ因テ理會カニテカニ現象中ニ連續アリトスル
ニ法則上致シテカニ事件ヲ知ルニ必然的境遇ナリ得ズ然レニ事件ヨリカニテ先
ニテカニ理會ストイフカニ能ク現象與ハニカニ時ヨリ先キ點ニカハスルカニ關係スルニ故

ニ經驗ヲ其前ニテ規定ト一致スルモノヲ豫想スルカハ對象從テ能ク是
於テ主觀的綜合ヲナス法則ニ關係シテ豫想ト下ニニ經驗可能ナリ
コト固ヨリ思索進行ト矛盾セズ而シテ悟性ナリハ經驗可能ナズ悟性がコトナシ
特殊對象ノ概念ヲ明瞭ニシテ非ズシテ對象ノ知識ヲ確實ナラシムルニ在リ現
象ノ時間中ニ其位置ヲ定ムルニズカレテ現象ノ連續起リ悟性ノ働作ニヨリ
テ必然的ニ寫象連續中ニ内部寫象ノ形式トシテ破ルカラン關係ヲ假定スリ
故ニ事件ノ寫象可能ニ經驗ナリ時間連續ニ一致シテ斷定サル、法則ハ先ツ者
中ニ事件が常ニ必然的ニ從フ所ノ境遇ヲ見スナリ之ヲ要スルニハテ、經驗的知
識ハ斷定ノ想像ニヨリテ綜合ヲ得ベク、綜合ヤ連續的ニシテ一定次序アラサトモモ
理會綜合タラシニ次序ノ對象中ニ決定カレシ故ニ觀察中事件ノ知識ヲ得シハ
觀察ニ經驗的判定ヲ運ズル然レバハ想像力ノ^{主觀的}游戲タルヲ猶ホ客觀的ナラシムル
自ラ可能經驗ノ基礎ナリ

ニ交渉法則ニテ、物質ノ空間中ニ並存スルニテ觀察サルノ範圍於テ全ニ交渉中ニ
證、同時ニ存在スル並存ナリAヨリB、C、Dヲ經テEニ行クモEヨリAニ行クモ一様順序トシ
テ同レキナリ若シ時間中相互ニ從フモノナラバAヨリ始メEニ終ル次序ニ於テEニ始リAニ
テ同レキナリ理會スルニ能ク何レハAノ時間ニ於テ過去ニ屬シ已ニ現象ノ對象タルニ能
カレバリ今物質ノ群が觀察サレ各々分離ストモモ對象ハ並存ストモモ得
ル經驗的綜合ニテ、存在ヨリ他ニ過ルニテ方法カレシモノニ對象が空間ヲ以テ相離
ストモバ觀察中ニ轉向シテ現ルニ然レバ異リル現象が同時ニ相互ニ從ヒ並存ストモ
テラ得ルニ故ニモ想像ル物質が經驗的ニ並存スト知ルニモノナラバAがBノ時間中ニ
位置ヲ定ムルニBがAノ時間中ニ位置ヲ定ムルニ同シ時間中ニ位置ヲ定ムルニ原因ニヨル
而シテ物質ノ時間中ニテハ中ニ直ニ他ニ斷定有因ヲ保ツナルハカラス換言スルニ並存

自直接間接力學的交指關係成立せるが如し交指テテ諸國ヨリ力學的
交指意味之ヲバ局部交指ヲモテ經驗的ニ知ラザルナリ人經驗的所空間
ニテ點ニ於ル連續的執力の相互ヨリ感性ヲ導ク者自ラ位置ニ經驗的交
指得ズ非常遠慮ナリテ又物質的對象ニ並存知ルコト間接的方法ニテ
交指ヲバ支離た觀察ノ群ヲラシメ經驗組織的觀念連鎖ハ引續キテ新
ラシキ對象ヲ以テ如ク先ツモト關係ヲ時間ニ關係セズ是レ不理甚シキナリ未
一層說明ヲ進メテ經驗ニテ知ルキ現象ハ自覺的交指ニ於テ吾人心中ニアル要
而シテ並存トシテ對象ヲ知覺スル範圍中、交指的時間中、位置ヲ決定シ全體
ヲ知覺スルヲ知ラザルハカズコト主觀的交指が客觀的根據ニアルトスル對象ノ觀
察他ノシテ、必然的境遇ナリ故クカクカズニ反對モ真ナリ然レモ對象が經驗中並存
トシテ知ルハバ交指的執力即物質實在的交指アル要スルニ交指ニテ秩序的
以上經驗三類似、法則ニシテ時間中現象ノ存在ヲ断定スル法則ナリ第一分量
トシテ時間自ラ關係シ第六部分相互ニ從ヒ連續トシテ時間關係シ第六存在ノ
總類トシテ同様ニ時間關係其部分並存スルニテ時間中斷定合ハ全カ
學的ニシテ時間經驗直接ニ各存在ニ場所、斷定トシテ認めテズ固ヨリ可能ナラ
ザレバ何トシテ絕對時間ヲ觀察スルニ能ハ合ハ性法則ニ導クレヨリテ現象
ノ存在時間關係ニ致シテ綜合的合ハ有ス而シテ時間中場所定メテ先天的
經驗上意味於テ自然ニ存在必然ニ對象法則ニ一致ル現象連續ニル
大系統ナリ故ニ先天的法則ナリ經驗ニテテ經驗的法則定ムル類似比推ハル指
數下自然ヲ表示ス而シテテ指數存在ヲ包括シテ時間關係ニ外ナズ先天的
合ハ有レテ經驗的合ハ有ラス又經驗中對象ノ斷定アラザルナリ

第四、經驗的思索ノ規矩、法則ニテリ、

一、經驗、形式的境遇即純粹寫象及概念一致なるモノハ可能ナリ
二、經驗、物質的境遇ニ束縛セルモノハ現實的ナリ
三、現實ト關係シテ經驗一般境遇ニ一致決定セルモノハ必然的ナリ
證、法式範疇ハ特性有シ概念ラヒトズ知識能力ノ關係ヲ示スノ概
念十分ニ雖モ可能的カ現實的カ必然的ナルカ又同時ニ固ヨリ對象ニ
屬セサル對象ガカニ經驗的用法中悟性ニ關係シタルヤヲ尋究セルガ如ク第
一モノ概念ガ經驗形式的境遇ニ一致スキヲ求ルベリ今經驗ノ客觀的形式ハ
之綜合ニ含在綜合ガ經驗ニ屬セサルハ概念空虚ナラハカラス對象ニ關係
セル固ヨリ此如キ概念ノ可能ナルヲ求ル一般經驗形式的及客觀的境遇ニ
トキニ可ナリ初メ概念ノ可ナク見セ凡概念ハ經驗ヲ獨立シテ對象ニ與
先天的構成セルモノ成所對象形式ノ想像力ノ產物ナリ之ニ應ジテ對象
二、モノ知識ニ關ル規矩感性對象ヲ要シ對象感性ニリ天覺^直タル必要ナルモノ又
又々現實的寫象ト關係ヲ知ルヲ要ス現實ノ特性タルモノハ感性的寫象中發見
セ同時寫象前モカ現實ニ存在セルヲ知ル故^直先天的^直存在知識ノ寫象
ノニカニ範圍及ブ然レ經驗ヲ發ス現象經驗的^直法則上致シテ進^直是^直存在知
ル能ハルニ三、物質必然ニ關ル概念ニ關シテ形式上論理上トモ此^直今感性對
象ノ存在先天的ニ十分知レズカ比較的ニ故^直存在必然^直概念ニ束^直ス
四、知識^直主^直ト經驗一般法則ニ對^直對象ト關係ニヨリシテ然レ必然^直タルニキ狀況
ノ狀況存在^直トシテ關係ヲリテ必然^直タルニキトシテ知ラル故^直必然^直標準^直可能^直經
驗法則^直即^直起^直ル^直原因^直依^直對象中^直先天的^直斷定^直サル^直法則^直是^直ナリ
經驗外^直適用^直得^直ズ經驗中^直モ物質^直ニ適用^直セル^直得^直ズ因果^直力學的^直法則^直
下^直ニル^直現象^直關係^直ニ適用^直ス

範疇自ラテ適用スキ實在ナリ悟性概念ノミテ客觀的實在ヲ有ルルヲ證スル範疇
アザルヤ審ナリ範疇寫象等補助ナリバ物可能的境遇タル能ク客觀的實在
在アザルイ猶ホ明ナリ今例ニテ關係純粹概念最ラシク悠久タル證ニ客觀的實在
ヲ辨スルニ空間タルモ即物實寫象タルカズ因果概念ニ應タル寫象ハ變化ナリ今
變化ヲ知覺スルニ運動寫象ヲ要ス悟性之變化可能ヲ理會スル寫象タルニ全知識的
ナキ是ニ空間中點運動ノ内部感覺ニ於テ線ニテ形體的時間アリ因ニ運動發生故
ニ說明ニ所悠久タル知覺ヲ離レテ變化可能ニテ内部感覺ニテ悠久セモアザルイ是
ニ交渉範疇モ悟性モミテ可能スル客觀的實在ニ空間中外部寫象ニ關係シテ空
間中外部寫象ニ顯ズニヨリ可能ナリ何トモ空間自ラ先天的形式外部關係ヲ示シ動
反動ト實在關係即ニ交渉境遇ナリ同様ニ物可能カ合量タルヲ證シ得ヘシ
之ヲ括言スルニ純粹悟性原則ニ經驗可能先天的原則ニ外ラス而シテ先天綜合的
悟性が造成スル所ニ經驗ト待ズルノ原則孰カ構成的整理のルモ可能經驗範
象ヲ有スルニ外ラス付トスル經驗ハ悟性が合所ノ綜合リ合テ生シ現象先天的綜合的
ニ關係シテ一致セルヤカザルイ悟性が起絶的用法ヲナスルニ經驗的用法ヲナスルニ全題
ニ自瞭然クシモ亦頗ル重要ナリ概念ハ真象ニ關係スル全題中用テ起絶的現象
ニ關係シ經驗的用法ニ用テ用法許容スルニ全概念首ニ論理的形式ヲ要シ次ニ經
驗ヲ適用サルヤ對象可能要ス後者ナリニ僅ニ論理的形式ヲシテ其對象カ與
ヘシ方法ニ寫象タルニ寫象ニ經驗的ナリ先天的タル又形式ヲシテ故ニ概念ハノ原
則ト共ニ可能經驗ノ基礎トシテ經驗的寫象ニ少カズ關係アリ之ヲ離ルラ得ズコ限
界カ範疇及ソレヨリ生シ法則ニ適用サルイ明ナリ範疇タル現象ニ限ル

先天論理學ノ結論次カシク悟性可能經驗ニ依テ形式ヲ與フルニ非ズル能ク
經驗ノ對象現象ノ悟性感覺ノ限界越テ不能ク純粹悟性原則現象

指教ナリ而シテ實體學代リ純粋性性解析論ハ用キルニ適當ナリ

經驗的知識ヨリ思索ガ範疇ニ歸與セシメテ去レバ對象ノ知識存セザルニ至ル爲

象ノミテ思索シテ得ズ事實ノミテハ對象ニ關係シテ感情ニ知覺ストイフ得ズ方

ニ寫象取去ルルモ思索形式ハ強クシテ範疇ハ意味ニ感性寫象ヨリモレシ然

レモ感性ヲ獨立シテ對象ノ範圍ヲ定ムル能ク

客觀的實在知ルル概念^{アクトレマタケ}不定トイフモ真象ノ概念ハ感性對象タル得ズ純粹性

ノ思索ニシテ矛盾ナシ凡ソ真象ニ達シテハ感性的寫象ヲ防遏シ確實ヲ定ムル必要故

結局真象知ルルニ現象ニヒカリル悟性ヲ有シ寫象ヲナス故ニ悟性ニ確實ヲ以テ現

象外用テハ能ク真象ノ概念ノ限界ノ概念ノ消極的用法ニ然レバ任意虛構

ルハ現象感覺ノ限界ト密接シテ連結ルベシ

對象ノ現象ヲ具象ヲテ世界ノ感覺的^{性的}ニ分ク共ニ許容スルニモ概念ノ感覺

同シカズ知識^{対象カ}寫象中現ルル要ニナリ同時ニ真象ノ概念ハ不定感覺ニ説明セバハ

許容スルニテハ感覺ノ限界ヲ定ムルニ缺クカラレタリ故ニ真象ハ悟性ニ對シテ知識的

ナク却テ不定ナリ真象ハ範疇ヲ以テ知ルヲ得ズ

(先天解析論 終)

